



福島県立美術館
年報
平成20年度
2008



福島県立美術館 年報

平成20年度

2008

目次

設置の目的と立地	2
沿革	3
2008年度主要記事	4
展示事業	5
・常設展	5
・常設展示	5
・特集展示	15
・移動美術館	22
・企画展	24
・名画の散歩道 三重県立美術館名品展	24
・フランス近代絵画のながれ	28
・大岩オスカー 夢みる世界	32
・伊砂利彦 志村ふくみ 二人展	36
・福島の新世代2009	42
・アンドリュー・ワイエス 創造への道程	46
普及事業	48
広報・出版	55
調査研究	57
収集	60
保存	72
管理	74
運営・組織	76
・観覧者数一覧	76
・2008年度予算内訳	77
・関係法規	78
・施設／設備	83
・福島県立美術館友の会活動報告	85
・福島県立美術館協力会活動報告	87
・委員会等、組織図	88
・利用案内	90

設置の目的と立地



福島県立美術館は、すぐれた美術作品にふれることで人々の感受性が高まり、情操が養われ、憩いと喜びのなかに創造の手がかりが得られる場として、1984(昭和59)年7月に、隣接する福島県立図書館とともに設けられました。

この目的のために、収蔵作品の充実をはかり、貴重な文化財である美術品の保存につとめ、継続的な調査研究にもとづく展示・普及事業を積極的に展開するとともに、美術に関するさまざまな情報を提供します。

美術館は、福島市のシンボルであり、憩いの場として親しまれている信夫山のふもとにあります。福島駅からも近く、交通の便もよい場所にありながら、野鳥の声もきこえる静かで落ち着いた環境にあります。60,000m²もの広大な敷地には、樹木や花々、広い芝生や日本庭園があり、散策や休息の場として親しまれています。

美術館と図書館は、多面的な機能と豊富な情報にもとづく、さまざまなサービスを提供することによって、見る・聴く・語る・作る・考える空間として活用していただくことをめざしています。

沿革

1977年	5月	文化を考える県民会議を設置
	6-8月	文化に関する県民意識調査を実施
1978年	1月	文化を考える県民会議より「県の文化振興について」を県知事に報告
	7月	文化振興会議を設置
1979年	2月	文化振興会議より「文化振興策の具体策について」を県知事に報告
	3月	文化施設等整備基金条例制定
	4月	県教育庁文化課内に文化施設班を置く
	6月	福島県立美術館基本構想検討委員会を設置（委員10人を委嘱）
	12月	美術品等取得基金条例制定
1980年	1月	「福島県立美術館建設基本構想について」を同委員会より知事に報告
	2月	美術館・図書館の建設地を福島市に決定 版画家斎藤清氏より県に自作227点が寄贈される
	4月	福島県立美術館収集評価委員会を設置（委員7人を委嘱） 美術館・図書館の建設地を福島大学経済学部跡地に決定
	5月	第1回収集評価委員会開催、ワイエス「松ぼっくり男爵」他の購入を決定
	12月	美術館基本設計を委託（大高建築設計事務所）
1981年	7月	美術館実施設計を委託（大高建築設計事務所）
1982年	7月	美術館設計工事着工
1984年	3月	美術館本体工事完了 福島県立美術館条例を議決
	4月	福島県立美術館設置
	6月	福島県立美術館博物館所管の県有美術品365点を移管
	7月	開館（22日）初代館長に原田實が就任（-1989年3月） 開館記念展第1部「戦後の名作に見る人間像」展開催 『所蔵品図録抄』を発行
	10月	第1回運営協議会開催
1986年	3月	『研究紀要第1号』発行
1989年	4月	第二代館長に佐藤昌志が就任（-1990年3月）
1990年	3月	『収蔵作品図録1984-1989』発行
	4月	館長事務代行を教育長兼務とする（-1992年3月）
1992年	4月	第三代館長に長谷部満彦が就任（-2000年3月）
1994年	7月	開館10周年記念展「ルネサンスの絵画」「日本画の風景」開催
1995年	6月	入館者通算100万人を記録する
1998年	4月	「ピカソ回顧展」開催、67,125人の観覧者を記録する
1999年	3月	屋根改修工事着工
	8月	屋根改修工事のため23日以降常設展を休止（-2000年7月19日）
	9月	通算100本目の企画展「生誕100年関根正二展」を開催
	10月	18日以降臨時休館となる（-2000年7月19日）空調機械改修工事（第一期）着工 「移動美術館」開始（第1回は喜多方市美術館）
2000年	3月	『福島県立美術館所蔵作品選 ポケット・ミュージアム』発行
	4月	第四代館長に酒井哲朗が就任
	7月	空調機械工事（第一期）竣工、再開館（20日）
2001年	11月	19日以降臨時休館となる（-2002年4月26日）空調機械工事（第二期）等着工
2002年	3月	空調機械工事（第二期）、展示室改修工事竣工（県立図書館空調工事も竣工）
	4月	再開館（27日）レストラン「カフェ・ドゥ・ミュゼ ムスターシュ」開店（-2008年3月23日）
	10月	「美術館友の会（仮称）設立に向けて県民の意見を聴く会」を設置
2003年	4月	高校生以下の常設展観覧料金を無料化 「福島県立美術館友の会設立発起人会」を開催、友の会発足
2004年	6月	「特定非営利活動法人 福島県立美術館協力会」発足
	7月	「アート オブ スター・ウォーズ展」開催、77,601人の観覧者を記録する
	10月	開館20周年記念展「田園の夢」開催
2005年	3月	『収蔵作品図録1990-2005』発行
2006年	5月	入館者通算200万人を記録する
	8月	初の県立美術館・図書館連携事業として「アートな おはなしかい」を開催
2008年	10月	レストラン「ミュゼ・ドゥ・カナール」新装開店

2008 年度主要記事 (2008.4 - 2009.3)

2008 (平成 20)

- 4月 1日 臨時休館 (-6日)
大和恵子主査着任
- 4月 7日 「コレクション展Ⅰ」開幕 (-7月6日)
- 4月 18日 「名画の散歩道 三重県立美術館名品展」展開会式
- 4月 19日 「名画の散歩道 三重県立美術館名品展」展開幕 (-5月25日)
- 5月 5日 常設展無料観覧日 (こどもの日)
- 5月 20日 - 21日 【友の会】三重県立美術館ボランティアグループとの交流会 (当館、福島市内、裏磐梯など)
- 5月 25日 【友の会】通常総会
- 5月 27日 【協力会】理事会、総会
- 5月 29日 全国美術館会議総会出席 (長崎市、-30日)
- 6月 6日 「フランス近代絵画のながれ」展開会式
美術館レストラン「カフェ・ド・コパン」期間限定オープン (-7月21日)
- 6月 7日 「フランス近代絵画のながれ」展開幕 (-7月21日)
- 6月 30日 尾形敬副館長退任
- 7月 1日 眞壁眞副館長着任
- 7月 8日 「コレクション展Ⅱ」開幕 (-10月13日)
- 7月 29日 博物館実習 (-8月3日)
- 8月 2日 特集展示「ルオー《ミセレーレ》展」開幕 (-9月28日)
- 8月 9日 「大岩オスカー 夢みる世界」展開幕 (-9月28日)
- 8月 5日 美術館・図書館連携事業「アートな おはなしかい」開催
- 8月 21日 常設展無料観覧日 (県民の日)
- 9月 15日 常設展無料観覧日 (敬老の日)
- 10月 2日 美術館・図書館合同消防訓練
- 10月 3日 【友の会】研修旅行 (岩手県立美術館、萬鉄五郎記念美術館)
- 10月 10日 「伊砂利彦 志村ふくみ 二人展」展開会式
美術館レストラン「ミュゼ・ドウ・カナール」オープン
- 10月 11日 「伊砂利彦 志村ふくみ 二人展」開幕 (-11月24日)
- 10月 15日 「コレクション展Ⅲ」開幕 (-12月26日)
- 11月 3日 常設展無料観覧日 (文化の日)
- 11月 22日 「移動美術館 郷土の画家たち」本宮市白沢ふれあい文化ホールで開幕 (-12月21日)
- 12月 2日 特集展示「生誕100年 菊地養之助展」開幕 (-2009年1月18日)
- 12月 27日 臨時休館及び年末年始休館 (-1月5日)

2009 (平成 21)

- 1月 6日 「コレクション展Ⅳ」開幕 (-4月5日)
- 1月 10日 「福島の新世代2009」展開幕 (-3月1日)
- 1月 11日 「美術館への年賀状展」開幕 (-1月31日)
- 1月 24日 特集展示「生誕100年 吉井忠展」開幕 (-3月1日)
- 2月 7日 - 8日 【友の会】研修旅行 (三重県立美術館、海の博物館など)
- 2月 26日 平成20年度運営協議会
- 3月 7日 ミュージアム・コンサート (出演: 北村英治氏・宮之上貴昭氏 於エントランスホール)
- 3月 16日 「アンドリュウ・ワイエス 創造への道程」展開会式
- 3月 17日 「アンドリュウ・ワイエス 創造への道程」展開幕 (-5月10日)
- 3月 24日 平成20年度収集評価委員会
- 3月 31日 阿部常晴総務課長退任

常設展

□常設展示

当館所蔵の美術作品を常時公開するもので、年4回（版画は8回）の展示換えを行っている。

2008年度は以下の4期により開催した。

展示	会期	内容
コレクション展Ⅰ	2008年4月12日～7月6日 (*5月16日より一部作品を展示替)	＜テーマ展示＞建畠覚造の彫刻 近代～現代の日本画 戦後の抽象絵画—山口長男、山田正亮ほか 現代の版画—加納光於と百瀬寿 斎藤清の版画
コレクション展Ⅱ	2008年7月8日～10月13日 (*8月28日より一部作品を展示替)	戦後の具象絵画—寺田政明、麻生三郎ほか 特別展示：大岩オスカーの作品 フランス印象派の絵画 アメリカに学んだ日本人画家たち 近代日本の銅版画
コレクション展Ⅲ	2008年10月15日～12月26日	近代日本画・秋の情景 関根正二と近代洋画 20世紀のアメリカ絵画 清宮質文の版画
コレクション展Ⅳ	2009年1月6日～4月5日 (*2月26日より一部作品を展示替)	＜テーマ展示＞佐藤朝山(玄々)の彫刻と絵画 現代日本の陶芸—清水卯一、鈴木治ほか 追悼展示：大山忠作の日本画 恩地孝四郎の版画

□コレクションレクチャー

毎月第三日曜日午前11時～1時間程度、常設展示解説として「コレクションレクチャー」を計10回開催した。

解説は当館学芸員が担当した。詳細は以下のとおりである。

開催日	テーマ	担当	参加人数
4月20日	有機と無機のあいだ — 建畠覚造の彫刻	宮武	5名
5月18日	盗まれた名画を追え！— 絵画盗難事件のはなし	堀	20名
6月15日	アンドリュウ・ワイエスの世界 — カーナー夫妻との物語	荒木	13名
7月20日	現代美術登山— 4つのルート	伊藤	8名
8月17日	絵画とモーターの出会い — 田中敦子『WORK1968』	宮武	5名
9月21日	積みわらへの前奏曲 — モネ『ジヴェルニーの草原』	吉村	5名
10月19日	斎藤清 — 古都とモダニズム	増渕	5名
12月21日	菊地養之助の生涯と作品について	堀	10名
2月15日	吉井忠の生涯と作品について	増渕	13名
3月15日	現代のやきもの	佐治	4名

計10回 88名



4/20



8/17



3/15

□出品リスト

コレクション展 I 2008年4月12日～7月6日

展示室 A

作家名	作品名	制作年	材質・技法	備考
【近代～現代の日本画】				
横山 大観	山間旅行之図	1901	紙本墨画	寄託作品
下村 観山	寒空	1923	絹本着色	
森田 恒友	葛飾野	1930	紙本墨画淡彩	
酒井 三良	耕婦図	1919-21 頃	絹本着色	寄託作品
	江南春色	1940	紙本墨画淡彩	
小杉 放庵	山荘訪客	大正末期	絹本着色	
伊東 深水	乳しぼる家	1916	絹本着色、屏風観音開き	寄託作品
勝田 蕉琴	煙る小雨	1922	絹本着色	
橋本 関雪	倪雲林	1917	絹本着色	
速水 御舟	鳥類写生図巻	1934	紙本淡彩、卷子	寄託作品
	女二題 其一	1931	絹本着色	
	女二題 其二	1931	絹本着色	
猪巻 清明	はさみ将棋	1934	紙本着色	
大山 忠作	〇先生	1946	紙本着色	
太田 正弘	雲烟の中	1974	紙本着色	
横山 操	闇迫る	1958	麻布着色	
渡辺 学	遺された人	1981	紙本着色	
上野 泰郎	地にある人たち	1969	紙本着色	
斎藤 隆	ドラマ	1986	紙・コンテ	
土谷 武	風 I—d	1977	軟鋼、ケヤキ	

展示室 B

【関根正二 (1899-1919) と近代洋画】				
岸田 劉生	自画像	1914	カンヴァス・油彩	
恩地孝四郎	自画像D (白和服)	1919	カンヴァス・油彩	
木村 莊八	自画像	1915	紙・インク、墨	
関根 正二	自画像	1916 頃	紙・インク	
	風景	1915 頃	カンヴァス・油彩	寄託作品
	神の祈り	1918 頃	カンヴァス・油彩	
	信仰	1918	紙・インク、着色	
村山 槐多	庭園の少女	1914	紙・水彩	
上野山清真	ムッシュOの肖像	1915	カンヴァス・油彩	
長谷川利行	浅草の女	1935	カンヴァス・油彩	
	風景	不詳	板・油彩	寄託作品
【戦後の抽象絵画】				
瑛 九	建物	1948	カンヴァス・油彩	
山口 長男	垣	1962	ベニヤ板・油彩	
元永 定正	作品 (1)	1958	板・油彩	
堂本 尚郎	コンポジション	1954-59	カンヴァス・油彩	
オノサト・トシノブ	作品	1974	カンヴァス・油彩	
杉全 直	眼 No.6	1960	カンヴァス・油彩	
村井 正誠	風の人	1968	カンヴァス・油彩	
山田 正亮	Work D-325	1979	カンヴァス・油彩	
百瀬 寿	NE. Blue, Blue, Blue and Blue	1993	綿布、ネパール紙・岩絵具	
【テーマ展示：建畠覚造 (1919-2006) の彫刻】				
建畠 覚造	SMOKE	1970	FRP・アクリル塗装	
	さ傘 (天の点滴を此の盃に) (小)	1973	アルミ、真鍮・クロームメッキ、ステンレス	
	CLOUD 24 (大)	1983	合板、木	
	WAVING FIGURE 47 (小)	1987	合板、木・ウレタン塗装	
	WAVING FIGURE 47 (大)	1987	合板、木・ウレタン塗装	
	WAVING FIGURE 65	1987	合板、木・ウレタン塗装	
	WAVING LADDER 5	1992	木、合板、FRP・ウレタン塗装	
	PILED CUP 6	1997	木、FRP、鉛	

展示室 C

【20世紀のアメリカ具象絵画】

ジョン・スローン	ジェファーソン・マーケット、ナイト	1909	カンヴァス・油彩	
	サンタフェからの二人の女	1921	カンヴァス・油彩	
レジナルド・マーシュ	回転ブランコ	1931	板・テンペラ	
ベン・シャーン	これがナチの残虐だ	1942	紙・オフセット	
	選挙人登録…投票用紙はあなたの手中の「力」だ	1944	紙・オフセット	
	労働者より農民へ…感謝をこめて	1944	紙・オフセット	
	スイミングプール	1945	ボード・テンペラ	
	恐怖の夜の町	1951	ボード・グアッシュ、テンペラ	
アンドリュー・ワイエス	ドイツ人の住むところ	1973	紙・水彩	
	そよ風	1978	紙・水彩	
	冬の水車小屋	1978	紙・水彩	
マックス・エルンスト	博物誌	1926	紙・コロタイプ	34点組のうち5点

展示室 D

【現代の版画】

加納 光於	《しし座》—偶有と変容	1991-92	紙・カラーインタリオ	5点組
百瀬 寿	S-Blue and Orange by Gold and Silver	1984	紙・シルクスクリーン	
	S-Silver and Gold by Silver and Gold	1986	紙・シルクスクリーン	
	S-Pink by Silver and Gold	1985	紙・シルクスクリーン	
	S-Reversible, Blues thru Pinks	1986	紙・シルクスクリーン	
	S-Reversible, Metallic Green thru Metallic Red	1991	紙・シルクスクリーン	

【斎藤清（1907-1997）の版画～花と猫】

斎藤 清	孤独	1948	紙・木版	展示：4/12～5/15
	白い夢	1949	紙・木版	展示：4/12～5/15
	憩い	1950	紙・木版	展示：4/12～5/15
	五月	1950	紙・木版	展示：4/12～5/15
	瞳（白椿）	1950	紙・木版	展示：4/12～5/15
	愛撫（A）	1953	紙・木版	展示：4/12～5/15
	凝視（B）	1957	紙・木版	展示：4/12～5/15
	凝視	1971	紙・木版	展示：4/12～5/15
	猫（3）	1963	紙・コラグラフ	展示：4/12～5/15
	猫（4）	1963	紙・コラグラフ	展示：4/12～5/15
	猫（6）	1963	紙・コラグラフ	展示：4/12～5/15

【斎藤清（1907-1997）の版画～ドライポイント、コラグラフによる小品を中心に】

斎藤 清	少女	1938頃	紙・木版	展示：5/16～7/6
	瞳	1948	紙・木版	展示：5/16～7/6
	少女（B）	1966	紙・木版	展示：5/16～7/6
	ヌード（E）	1966	紙・木版	展示：5/16～7/6
	春	1968	紙・ドライポイント	展示：5/16～7/6
	少女	1968	紙・ドライポイント	展示：5/16～7/6
	おしゃべり	1968	紙・ドライポイント	展示：5/16～7/6
	黙想	1969	紙・ドライポイント	展示：5/16～7/6
	思い	1968	紙・コラグラフ	展示：5/16～7/6
	影（C）	1967	紙・コラグラフ	展示：5/16～7/6
	影（A）	1967	紙・コラグラフ	展示：5/16～7/6
	ルビー	1969	紙・木版	展示：5/16～7/6

ホール、屋外展示

マリノ・マリーニ	騎手	1956-57	ブロンズ	
ヘンリー・ムーア	母と子：腕	1980	ブロンズ	
マリソール	ママと私	1968	ステンレス、ブロンズ	寄託作品
佐藤 忠良	若い女・シャツ	1982	ブロンズ	
エミリオ・グレコ	スケートをする女	1951	ブロンズ	
林 範親	路地裏	1994	ナラ、ヒバ、古材・アクリル	
フェルナン・レジェ	歩く花	1952-53	原型作成	ブロンズ・エナメル塗装
				寄託作品
井上 武吉	my sky hole 89-2	1989	ステンレス・鏡面磨き	

コレクション展Ⅱ 2008年7月8日～10月8日

展示室 A

作家名	作品名	制作年	材質・技法	備考
【夏景色】				
池田 遙邨	大漁	1932	絹本着色、屏風二曲一隻	
山口 華楊	畑	1925	絹本着色、屏風二曲一隻	
須田 善二 (珙中)	溪の葉月	1936	絹本着色、屏風四曲一隻	寄託作品
福田豊四郎	ふるさとに帰る	1964	紙本着色、屏風四曲一隻	
酒井 三良	水郷の一日	1939	紙本墨画淡彩、卷子	
中島 清之	胡瓜	1923	絹本着色	
会津 勝巳	罌粟	1934	紙本着色	
太田 秋民	女	1932	絹本着色	
安田 靱彦	茶室	1962	紙本着色	
大山 忠作	京舞	1977	紙本着色	

【関根正二 (1899-1919) と大正・昭和戦前期の洋画】

安井曾太郎	ターブルの上	1912	カンヴァス・油彩	
岸田 劉生	静物 (白き花瓶と台皿と林檎四個)	1918	カンヴァス・油彩	
恩地孝四郎	静物 (レモン)	1920	カンヴァス・油彩	
木村 荘八	樹の下に遊んでいる子ども	1915	カンヴァス・油彩	
村山 槐多	樹木 (けやき)	1917 頃	紙・木炭	
万 鉄五郎	庫	1918	カンヴァス・油彩	
古賀 春江	赤い風景	1926	紙・水彩	
小出 檜重	けしの花	1926	紙・グアッシュ	
松本 竣介	赤い建物	1936	紙・油彩	
関根 正二	銚子海岸	1916	紙・インク	
	男の顔	1917	紙・インク	
	祈り	1919	紙・鉛筆	
	牛舎	1915 頃	カンヴァス・油彩	
	真田吉之助夫妻像	1918	カンヴァス・油彩	
	姉弟	1918	カンヴァス・油彩	
	自画像	1918	カンヴァス・油彩	
土谷 武	風 I - d	1977	軟鋼、ケヤキ	

展示室 B

【戦後の具象絵画】

寺田 政明	いきもの	1959	カンヴァス・油彩	
麻生 三郎	家族	1959	カンヴァス・油彩	
中谷 泰	炭鉱町	1963	カンヴァス・油彩	
吉井 忠	眠る少女	1967	カンヴァス・油彩	
糸園和二郎	夜	1973	カンヴァス・油彩	
脇田 和	窓	1966	カンヴァス・油彩	
北川 民次	二十年目の悲しみの夜	1965	カンヴァス・油彩	

【戦後の抽象絵画】

元永 定正	作品 (1)	1958	板・油彩	
杉全 直	眼 No. 6	1960	カンヴァス・油彩	
斎藤 義重	作品 13	1961	合板・油彩、ドリル	
山口 長男	垣	1962	ベニヤ板・油彩	
橋本 章	ぴーひゃらこ	1975	カンヴァス・油彩	
田淵 安一	花林朱徑	1985	カンヴァス・油彩	
田中 敦子	WORK 1968	1968	カンヴァス・エナメル、鉄、モーター	

【特別展示：大岩オスカル (1965-) の作品】

大岩オスカル	トンネルの向こうの光	1997	カンヴァス・油彩	寄託作品 展示：8/7～9/28
	温室効果	2001	カンヴァス・油彩	寄託作品 展示：8/7～9/28
	盆栽 5	2000	ミクストメディア	曾我高明氏蔵 展示：8/7～9/28
	盆栽 10 (7年もの)	2001	ミクストメディア	GALLERY CAPTION 蔵 展示：8/7～9/28
	盆栽 11 (7年もの)	2001	ミクストメディア	GALLERY CAPTION 蔵 展示：8/7～9/28

建畠 寛造	SMOKE	1970	FRP・アクリル塗装	
	さ傘 (天の点滴を此の盃に) (小)	1973	アルミ、真鍮、クロムメッキ、ステンレス	展示: 7/8 ~ 8/6
	WAVING FIGURE 47 (大)	1987	合板、木・ウレタン塗装	
	WAVING FIGURE 47 (小)	1987	合板、木・ウレタン塗装	展示: 7/8 ~ 8/6
	WAVING FIGURE 65	1987	合板、木・ウレタン塗装	展示: 7/8 ~ 8/6
	PILED CUP 6	1997	木、FRP、鉛	展示: 7/8 ~ 8/6
赤堀 信平	U子	1964	ブロンズ	展示: 9/30 ~ 10/13
三坂耿一郎	フォルム I	1972	ブロンズ	展示: 9/30 ~ 10/13

展示室 C

【フランス印象派の絵画】

クロード・モネ	ジヴェルニーの草原	1890	カンヴァス・油彩	
ポール・ゴーギャン	ブルターニュの子供	1889	紙・水彩、パステル	

【20世紀アメリカの絵画】

ベン・シャーン	トム・ムーニーの母親に挨拶するジミー・ウォーカー	1932-33	紙・グアッシュ	
	スイミングプール	1945	ボード・テンペラ	
	ラッキードラゴン	1960	綿布・テンペラ	
	創造のアルファベット	1963	ボード・グアッシュ	
アンドリュー・ワイエス	ガニング・ロックス	1966	紙・水彩	
	松ぼっくり男爵	1976	ボード・テンペラ	
	農場にて	1989	紙・水彩	

【アメリカに学んだ日本人画家たち】

国吉 康雄	婦人と子供	1920	カンヴァス・油彩	
清水 登之	十四番街の地下鉄駅	1918	カンヴァス・油彩	
野田 英夫	牛乳ワゴン	1936	カンヴァス・油彩	

ジャコモ・マンズー	車に乗った子供	1982	ブロンズ	
-----------	---------	------	------	--

展示室 D

【斎藤清 (1907-1997) の版画】

斎藤 清	キラウェア、ハワイ (A)	1964	紙・コラグラフ	展示: 7/8 ~ 8/27
	キラウェア、ハワイ (B)	1964	紙・コラグラフ	展示: 7/8 ~ 8/27
	夏	1967	紙・木版	展示: 7/8 ~ 8/27
	夏 (A)	1972	紙・木版	展示: 7/8 ~ 8/27
	夏 (B)	1972	紙・木版	展示: 7/8 ~ 8/27
	夏 '73	1973	紙・木版	展示: 7/8 ~ 8/27
	波 (A)	1975	紙・木版	展示: 7/8 ~ 8/27
	炎 (A)	1978	紙・木版	展示: 7/8 ~ 8/27
	浮遊 (A)	1981	紙・木版	展示: 7/8 ~ 8/27
	浮遊 (B)	1982	紙・木版	展示: 7/8 ~ 8/27
	夕陽	1972	紙・木版	展示: 8/28 ~ 10/13
	雪、夕陽	1975	紙・木版	展示: 8/28 ~ 10/13
	夕焼、鎌倉	1979	紙・木版	展示: 8/28 ~ 10/13
	夕焼、富士五合目	1980	紙・木版	展示: 8/28 ~ 10/13
	月雲 (1)	1980	紙・木版	展示: 8/28 ~ 10/13
	月雲 (2)	1980	紙・木版	展示: 8/28 ~ 10/13
	月雲 (3)	1980	紙・木版	展示: 8/28 ~ 10/13
	稔りの会津	1975	紙・木版	展示: 8/28 ~ 10/13
	庭、秋の会津	1972	紙・木版	展示: 8/28 ~ 10/13
	柿の会津 (4)	1973	紙・木版	展示: 8/28 ~ 10/13

【近代日本の銅版画 I】

渡辺 光徳	早川雪洲像	1931	紙・エッチング	展示: 7/8 ~ 8/27
	風景	不詳	紙・エッチング	展示: 7/8 ~ 8/27
長谷川 潔	アレキサンドル III 世橋とフランス飛行船	1930	紙・メゾチント	展示: 7/8 ~ 8/27
	サン＝ポール＝ド＝ヴァンスの風景	1936	紙・ドライポイント	展示: 7/8 ~ 8/27
	狐と葡萄 (ラ・フォンテーヌ寓話)	1963	紙・メゾチント	展示: 7/8 ~ 8/27
	メキシコの種子草	1967	紙・メゾチント	展示: 7/8 ~ 8/27
浜田 知明	初年兵哀歌 (歩哨)	1954	紙・エッチング、メゾチント	展示: 7/8 ~ 8/27
	副校長 D 氏像	1956	紙・エッチング	展示: 7/8 ~ 8/27
浜口 陽三	14 のさくらんぼ	1963	紙・メゾチント	展示: 7/8 ~ 8/27

駒井 哲郎	思い出	1948	紙・エッチングなど	展示：7/8～8/27
	海底の祭	1951	紙・メゾチントなど	展示：7/8～8/27
	墓（マルドロオルの歌）	1956	紙・エッチング	展示：7/8～8/27
	調理場	1958	紙・アクアチント	展示：7/8～8/27

【近代日本の銅版画 II】

渡辺 光徳	荒川	1931	紙・エッチング	展示：8/28～10/13
浜田 知明	風景	1953	紙・エッチング	展示：8/28～10/13
長谷川 潔	コップのダリア	1935	紙・メゾチント	展示：8/28～10/13
	玻璃球のある静物	1959	紙・メゾチント	展示：8/28～10/13
	セードルの実のある静物画	1960	紙・メゾチント	展示：8/28～10/13
	メキシコの鳩	1966	紙・メゾチント	展示：8/28～10/13
浜口 陽三	西瓜	1954	紙・メゾチント	展示：8/28～10/13
	白菜	1960	紙・メゾチント	展示：8/28～10/13
駒井 哲郎	東の間の幻影	1950	紙・アクアチント	展示：8/28～10/13
	鳥と果実	1959	紙・アクアチント、エッチング	展示：8/28～10/13
	調理場	1960	紙・アクアチント	展示：8/28～10/13

赤堀 信平	渡辺光徳氏の顔	1929	ブロンズ	
-------	---------	------	------	--

ホール、屋外展示

マリノ・マリーニ	騎手	1956-57	ブロンズ	
マリソール	ママと私	1968	ブロンズ、ステンレス	寄託作品
エミリオ・グレコ	スケートをする女	1951	ブロンズ	
フェルナン・レジェ	歩く花	1952-53 原型作成	ブロンズ・エナメル塗装	寄託作品
佐藤 忠良	若い女・シャツ	1982	ブロンズ	
林 範親	路地裏	1994	ナラ、ヒバ、古材・アクリル	
井上 武吉	MY SKY HOLE 89-2	1989	ステンレス・鏡面磨き	

コレクション展 III 2008年10月15日～12月26日

展示室 A

作家名	作品名	制作年	材質・技法	備考
【近代の日本画～秋の情景を中心に】				
村上 華岳	秋谿図	1933 頃	絹本墨画	寄託作品
湯田 玉水	葡萄図	1928	絹本墨画淡彩	
尾竹 竹坡	蔬菜図	大正末～昭和初期	絹本墨画	
小茂田青樹	農婦	1914 頃	絹本着色	
長野 草風	麦踏	大正期	紙本着色	
酒井 三良	田園秋色図	1921-23	絹本着色	
	村芝居	1921-24	絹本着色	
	残秋	1933	紙本着色	
速水 御舟	イタリー風俗	1930	紙・ペンほか	寄託作品
	エジプト風俗	1930	紙・ペンほか	寄託作品
大山 忠作	母子像	1969	紙本着色	
福王寺法林	バドガオンの月	1982	紙本着色	
斎藤 清	秋の只見	1980	紙本着色	
	野仏（田代）(2)	1977	紙本墨画淡彩	
	野仏（田代）(5)	1977	紙本墨画淡彩	

【関根正二（1899-1919）と近代洋画】

岸田 劉生	自画像	1914	カンヴァス・油彩	
	静物（白き花瓶と台皿と林檎四個）	1918	カンヴァス・油彩	
恩地孝四郎	静物（レモン）	1920	カンヴァス・油彩	
川口 軌外	柘榴	1932	カンヴァス・油彩	
前田 寛治	裸婦	1925	カンヴァス・油彩	
長谷川 昇	裸婦	1928	カンヴァス・油彩	
長谷川利行	浅草の女	1935	カンヴァス・油彩	
松本 竣介	駅	1942	板・油彩	
関根 正二	菊川橋	1916	紙・インク	
	裏の娘	1917	紙・水彩、パステル、鉛筆	
	風景	1916 頃	板・油彩	
	死を思う日	1915	カンヴァス・油彩	寄託作品

	自画像	1918	カンヴァス・油彩
	姉弟	1918	カンヴァス・油彩
土谷 武	風 I—d	1977	軟鋼、ケヤキ

展示室 B

【近代洋画の風景】

石井 柏亭	水車場	1927	カンヴァス・油彩
猪熊弦一郎	風景	1935	カンヴァス・油彩 寄託作品
斎藤 与里	裏磐梯	1953	カンヴァス・油彩
井手 宣通	磐梯山	1950	カンヴァス・油彩
須田国太郎	白浜風景習作	1955	カンヴァス・油彩
吉井 忠	冬の海	1977	カンヴァス・油彩
中谷 泰	炭坑町	1963	カンヴァス・油彩
寺田 政明	樹木と街	1980	板・油彩
松田 松雄	風景（川のほとり）	1975	カンヴァス・油彩
橋本 章	ビルディング	1967	カンヴァス・油彩
田淵 安一	豊饒の樹 未完の季節 No.1	1978	カンヴァス・油彩
玉川 信一	黄色の木	1998	カンヴァス・油彩
赤堀 信平	U子	1964	ブロンズ
三坂耿一郎	フォルム I	1972	ブロンズ

【テーマ展示：近代日本の水彩画】

大下藤次郎	風景	不詳	紙・水彩
三宅 克己	風景	不詳	紙・水彩
	湯ヶ野の冬	1908	紙・水彩
	信濃路の春	不詳	紙・水彩
丸山 晚霞	溪流（飛騨蒲田の激湍）	1912	紙・水彩
吉田 博	小出雲村月出	1903 頃	紙・水彩
石川欽一郎	支那廈門泊船	昭和初期	紙・水彩
後藤 工志	風景	1917	紙・水彩
石井 柏亭	裏磐梯	1953	紙・水彩
赤城 泰舒	雨の止みまに	1914	紙・水彩 寄託作品
	土塀	1920	紙・水彩
相田 直彦	都会の昼時	1933	紙・水彩
春日部たすく	山湖の春	1944	紙・水彩
	千川落日	1952	紙・水彩
荒川 三郎	雪の前庭	1935	紙・水彩
渡部 菊二	たそがれ	1923	紙・水彩
	裏町	1932	紙・水彩

展示室 C

【ヨーロッパの美術】

クロード・モネ	ジヴェルニーの草原	1890	カンヴァス・油彩
マルク・シャガール	少年時代の思い出	1958	紙・エッチングほか 10点組
ジャコモ・マンズー	車に乗った子供	1982	ブロンズ

【20世紀のアメリカ具象絵画】

ジョン・スローン	ジェファーソン・マーケット、ナイト	1909	カンヴァス・油彩
レジナルド・マーシュ	回転ブランコ	1931	板・テンペラ
国吉 康雄	婦人と子供	1920	カンヴァス・油彩
石垣栄太郎	横すわりの裸婦	1930 頃	紙・木炭
	横たわる裸婦	1950 頃	紙・コンテ
ベン・シャーン	W.P.A. サンデー	1939	紙・グアッシュ
	スイミングプール	1945	ボード・テンペラ
	恐怖の夜の町	1951	ボード・グアッシュ、テンペラ

展示室 D

【清宮質文（1917-1991）と斎藤清（1907-1997）の版画】

清宮 質文	ある空間（蝶）	1962	紙・木版
	九月の海辺	1970	紙・木版
	火屋の中	1966	紙・木版

	歲月	1970	紙・木版
	窓のカンテラ	1972	紙・木版
	入日	1972	紙・木版
	夕日の静物	1972	紙・木版
	虜囚の窓	1972	紙・木版
	埋葬の花火	1973	紙・木版
	深夜の蠟燭	1974	紙・木版
	早春の静物	1977	紙・木版
斎藤 清	舞妓, 京都 (A)	1963	紙・コラグラフ
	庭, 天童寺, 京都	1963	紙・コラグラフ
	石庭, 竜安寺, 京都	1963	紙・コラグラフ
	仙洞御所, 京都	1958	紙・木版
	冬の寂光院, 京都	1964	紙・木版
	金閣寺, 京都	1967	紙・木版
	高山寺, 京都 (B)	1974	紙・木版
	大徳寺, 京都	1974	紙・木版
	門, 法隆寺, 奈良 (B)	1970	紙・木版
	唐招提寺, 奈良 (A)	1955	紙・木版
	建長寺, 鎌倉	1972	紙・木版
	円覚寺, 鎌倉 (A)	1971	紙・木版

ホール、屋外展示

マリノ・マリーニ	騎手	1956-57	ブロンズ	
ヘンリー・ムーア	母と子：腕	1980	ブロンズ	
マリソール	ママと私	1968	ステンレス、ブロンズ	寄託作品
佐藤 忠良	若い女・シャツ	1982	ブロンズ	
エミリオ・グレコ	スケートをする女	1951	ブロンズ	
林 範親	路地裏	1994	ナラ、ヒバ、古材・アクリル	
フェルナン・レジェ	歩く花	1952-53 原型作成	ブロンズ・エナメル塗装	寄託作品
井上 武吉	my sky hole 89-2	1989	ステンレス・鏡面磨き	

コレクション展Ⅳ 2009年1月6日～4月5日

展示室 A

作家名	作品名	制作年	材質・技法	備考
【日本画に見る冬景色】				
湯田 玉水	北風吹雪	1926-28	絹本墨画淡彩	
	寒村暮雪	1926-28	絹本墨画淡彩	
酒井 三良	雪に埋もれつつ正月はゆく	1919	紙本著色、屏風二曲一隻	
	左義長	1920	紙本著色	
岩橋 英遠	土	1939	紙本著色、屏風二曲一隻	寄託作品
小茂田青樹	薫房	1927	紙本著色、屏風二曲一双	
福田豊四郎	春を待つ	1930	絹本著色	展示：1/6～2/26
山本 丘人	月夜の噴煙	1962	絹本著色	展示：1/6～2/26
太田 正弘	遠い茜	1977	紙本著色	展示：1/6～2/26
【追悼展示：大山忠作（2009年2月19日歿）、黒沢吉蔵（2009年2月22日歿）】				
黒沢 吉蔵	煙突	1956	紙本著色	展示：2/27～4/5
	起重機	1956	紙本著色	展示：2/27～4/5
大山 忠作	室内	1950	紙本著色	展示：2/27～4/5
	岡潔先生像	1968	紙本著色	展示：2/27～4/5
	母子像	1969	紙本著色	展示：2/27～4/5
	爽涼	1980	紙本著色	展示：2/27～4/5
【現代日本の陶芸】				
清水 卯一	柿釉大鉢	1965	陶器	
	青釉大鉢	1973	陶器	
山田 光	白の間隙	1971	陶器	
	黒陶 陶面の中のパイプ	1981	陶器	
	黒陶と金彩の窓	1981	陶器	
	銀泥 陶壁	1991	陶器	
鈴木 治	連歌	1991	陶器	

【関根正二（1899-1919）の作品】

関根 正二	菊川橋辺り	1915	板・油彩	寄託作品
	砂村石渡牧場	1915 頃	板・油彩	寄託作品
	死を思う日	1915	カンヴァス・油彩	寄託作品
	井上郁像	1917	カンヴァス・油彩	寄託作品
	一本杉の風景	1918	カンヴァス・油彩	
	姉弟	1918	カンヴァス・油彩	
土谷 武	風 I - d	1977	軟鋼、ケヤキ	

展示室 B

【吉井 忠（1908-1999）とその時代】

吉井 忠	解氷期	1968	カンヴァス・油彩	
麻生 三郎	家族	1959	カンヴァス・油彩	
糸園和三郎	夜	1973	カンヴァス・油彩	
寺田 政明	対話	1963	カンヴァス・油彩	
中谷 泰	常滑	1964	カンヴァス・油彩	
脇田 和	窓	1966	カンヴァス・油彩	
ベン・シャーン	これがナチの残虐だ	1942	紙・オフセット	
	我々フランス労働者は警告する	1942	紙・オフセット	
	反動の魔手を打ち砕け	1946	紙・オフセット	
	ラッキードラゴン	1960	綿布・テンペラ	
	創造のアルファベット	1963	ボード・グアッシュ	

【福島の洋画・抽象系】

土橋 醇	花	1970	カンヴァス・油彩	
	誕生	1970	カンヴァス・油彩	
	流	1969	カンヴァス・油彩	
鎌田 正蔵	大家族 (A)	1979	カンヴァス・アクリル	
	大家族 (B)	1979	カンヴァス・アクリル	
	大家族 (C)	1979	カンヴァス・アクリル	
若松光一郎	COMPOSITION 30.8.82	1982	カンヴァス・和紙など	
田口 安男	季節を通り抜けて	1980	パネル・卵黄テンペラ	

展示室 C

【テーマ展示：佐藤朝山（玄々）（1888-1963）の彫刻と絵画】

佐藤 朝山	唐人物	1906 頃	木彫	個人蔵
	万歳棗	大正時代	木彫	個人蔵
	子	大正時代	木彫	個人蔵
	哺乳牛	1960 年代 鑄造/原作 1926	石膏着色	
	巢鶏	大正時代	木彫彩色	寄託作品
	鶴	昭和 20 年代	木彫彩色	寄託作品
	山風	昭和 20-30 年代	木彫彩色	寄託作品
	子鳩	昭和 20 年代	木彫	寄託作品
	麝香猫	1974 鑄造/原作 1950	ブロンズ	
	神狗	1974 鑄造/原作 1940 年代	ブロンズ	
	不動明王	1946	紙本墨画淡彩	
	猫	1947	紙本墨画淡彩	
	資料類（画稿等）			個人蔵

展示室 B

【恩地孝四郎（1891-1955）の版画】

恩地孝四郎	母と子	1917	紙・木版	展示：1/6～2/25
	母と子	1917	紙・木版	展示：1/6～2/25
	仮睡	1924 頃	紙・木版	展示：1/6～2/25
	顔	1929	紙・木版	展示：1/6～2/25
	カフェ	1929	紙・木版	展示：1/6～2/25
	水浴	1929	紙・木版	展示：1/6～2/25
	邦楽座内景	1929	紙・木版	展示：1/6～2/25
	ポエム No.2 山の属	1937	紙・木版	展示：1/6～2/25
	果物（仮題）	1941 以前	紙・木版	展示：1/6～2/25
	『氷島』の著者 萩原朔太郎像	1943・1955 摺り	紙・木版	展示：1/6～2/25

【恩地孝四郎 (1891-1955) と『月映』第4号の版画】

恩地孝四郎	死によりてあげらるる生	1915	紙・木版	展示：2/26～4/5
田中 恭吉	画稿<埋葬の日>	1915	紙・木版	展示：2/26～4/5
藤森 静雄	亡びゆく肉	1915	紙・木版	展示：2/26～4/5
藤森 静雄	枝をはなれし一つの果	1915	紙・木版	展示：2/26～4/5
藤森 静雄	聖なる夜	1915	紙・木版	展示：2/26～4/5
藤森 静雄	墓穴を掘る人々	1915	紙・木版	展示：2/26～4/5
藤森 静雄	妹の葬らるるべき日	1915	紙・木版	展示：2/26～4/5
藤森 静雄	へだてられたるもの	1915	紙・木版	展示：2/26～4/5
藤森 静雄	悲しきねがひ	1915	紙・木版	展示：2/26～4/5
恩地孝四郎	泪してあふぐ日	1915	紙・木版	展示：2/26～4/5
恩地孝四郎	おさむるものと地の哀傷	1915	紙・木版	展示：2/26～4/5
恩地孝四郎	とぶもの・つけるもの	1915	紙・木版	展示：2/26～4/5
恩地孝四郎	のこるこころ	1915	紙・木版	展示：2/26～4/5
恩地孝四郎	そらよりくだるかげ	1915	紙・木版	展示：2/26～4/5

【斎藤 清 (1907-1997) の会津の冬・初期篇】

斎藤 清	会津の冬(窪)	1938-40	紙・木版	展示：1/6～2/25
	会津の冬(御母堂)	1938-40	紙・木版	展示：1/6～2/25
	会津の冬(坂下)	1940	紙・木版	展示：1/6～2/25
	会津の冬(B)	1953	紙・木版	展示：1/6～2/25
	会津の冬	1958	紙・木版	展示：1/6～2/25
	会津の冬(5)	1958	紙・木版	展示：1/6～2/25
	会津の冬(16)	1958	紙・木版	展示：1/6～2/25
	会津の冬(12)	1969	紙・木版	展示：1/6～2/25
	会津の冬(14)	1969	紙・木版	展示：1/6～2/25
	会津の冬(1)	1970	紙・木版	展示：1/6～2/25
	会津の冬(3)	1970	紙・木版	展示：1/6～2/25
	会津の冬(4)	1970	紙・木版	展示：1/6～2/25
	会津の冬(5)	1970	紙・木版	展示：1/6～2/25
	会津の冬(6)	1970	紙・木版	展示：2/26～4/5
	会津の冬(7)	1970	紙・木版	展示：2/26～4/5
	会津の冬(8)	1970	紙・木版	展示：2/26～4/5
	会津の冬(9)	1970	紙・木版	展示：2/26～4/5
	会津の冬(10)	1970	紙・木版	展示：2/26～4/5
	会津の冬(11)	1970	紙・木版	展示：2/26～4/5
	会津の冬(12)	1970	紙・木版	展示：2/26～4/5
	会津の冬(13)	1970	紙・木版	展示：2/26～4/5
	会津の冬(14)	1970	紙・木版	展示：2/26～4/5
	会津の冬(15)	1970	紙・木版	展示：2/26～4/5
	会津の冬(16)	1970	紙・木版	展示：2/26～4/5
	会津の冬(20)	1970	紙・木版	展示：2/26～4/5

ホール、屋外展示

マリノ・マリーニ	騎手	1956-57	ブロンズ	
マリソール	ママと私	1968	ブロンズ、ステンレス	寄託作品
エミリオ・グレコ	スケートをする女	1951	ブロンズ	
佐藤 忠良	若い女・シャツ	1982	ブロンズ	
林 範親	路地裏	1994	ナラ、ヒバ、古材・アクリル	
井上 武吉	MY SKY HOLE 89-2	1989	ステンレス・鏡面磨き	
フェルナン・レジェ	歩く花	1952-53 原型制作	ブロンズ・エナメル塗装	寄託作品

特集展示

1. ルオー 《ミセレーレ》展

【概要】

道化師の絵で知られるフランスの画家ジョルジュ・ルオー（1871～1958）は、精神性をたたえた重厚な作風で広く親しまれている。家具職人の子としてパリに生まれたルオーは、14歳でステンド・グラス職人の徒弟として働きながら装飾美術学校で絵画を学び、1890年画家を志して国立美術学校に入学する。そこで師ギュスターヴ・モローの励ましを得て芸術的才能を育み、やがて詩人や小説家らとの親交を深めつつ独自の世界を築いていった。ルオーは、1906年に初めて出会った画商ヴォラールの援助を受けながら水彩や油彩を描いて、画家として地歩を固めた後、版画にも意欲的に取り組み生涯に約250点制作する。

本展で紹介する当館所蔵の銅版画集ミセレーレは、その題名を旧約聖書の『詩編』の一節、「我を憐れみたまえ:miserere mei」（ラテン語）からとった全58点の作品で、ルオーの版画を代表する最高傑作とされている。父の死や第一次世界大戦を契機に構想し、1922～27年に制作、1948年に「流れる星出版協会」から版画集として450部刊行された。

そこには人生の苦悩、悲惨、救いをテーマに、戦争、傲慢な金持ちや権力者、苦役囚、道化師、娼婦、裁判官、王、キリストの受難や聖書の場面など、ルオー芸術に登場する人物の姿が描かれている。彼は、ここで人間心理の鋭い観察者である一方、熱心な信仰者として、人間社会の醜悪さと、魂の救済を託した聖なるもののイメージを光と闇の世界にとらえ、あらゆる銅版画の技法を駆使して、深い白黒の画面に表している。

【総括】

版画集「ミセレーレ」は銅版画の様々な技法を複合的に駆使して制作された作品で、その複雑な工程は、一般の鑑賞者のみならず、版画の専門家にとってもよく知られているものではないため、会場内に技法および制作過程を解説したパネルを掲示し参考に資した。展示会の感想を調べたアンケートでは約8割から好評との回答が得られた。

会 期：2008年8月2日(土)～9月28日(日)
 会 場：企画展示室 B
 休館日：毎週月曜日（9月15日は開館）、9月16日(火)、24日(水)
 観覧者数：5,174名
 担 当：久慈伸一

□印刷物

- ・出品リスト（A4判モノクロ両面刷）

□関連事業

- ・ギャラリートーク 各回とも14:00-
 - ①8月3日(日) 講師：久慈伸一（当館主任学芸員） 30名参加
 - ②8月23日(土) 講師：久慈伸一 15名参加 *友の会会員対象
 - ③9月13日(土) 講師：伊藤 匡（当館学芸課長） 10名参加

□関連記事

- ・「県立美術館ルオー展～問いかける光と闇～」久慈伸一
 『福島民報』2008年9月7日

ルオー《ミセレーレ》展
 2008年8月2日(土)～9月28日(日)
 福島県立美術館企画展示室



道化師の絵で知られるフランスの画家ジョルジュ・ルオー（1871～1958）は、精神性をたたえた重厚な作風で広く親しまれている。家具職人の子としてパリに生まれたルオーは、14歳でステンド・グラスの職人として働きながら装飾美術学校で絵画を学び、1890年画家を志して国立美術学校に入学する。そこで師ギュスターヴ・モローの励ましを得て芸術的才能を育み、やがて詩人や小説家らとの親交を深めつつ独自の世界を築いていった。ルオーは、1906年に初めて出会った画商ヴォラールの援助を受けながら水彩や油彩を描いて、画家として地歩を固めた後、版画にも意欲的に取り組み生涯に約250点制作する。

本展で紹介する当館所蔵の銅版画集《ミセレーレ》は、その題名を旧約聖書の『詩編』の一節、「我を憐れみたまえ:miserere mei」（ラテン語）からとった全58点の作品で、ルオーの版画を代表する最高傑作とされている。父の死や第一次世界大戦を契機に構想し、1922～27年に制作、1948年に「流れる星出版協会」から版画集として450部刊行された。

そこには人生の苦悩、悲惨、救いをテーマに、戦争、傲慢な金持ちや権力者、苦役囚、道化師、娼婦、裁判官、王、キリストの受難や聖書の場面など、ルオー芸術に登場する人物の姿が描かれている。彼は、ここで人間心理の鋭い観察者である一方、熱心な信仰者として、人間社会の醜悪さと、魂の救済を託した聖なるもののイメージを光と闇の世界にとらえ、あらゆる銅版画の技法を駆使して、深い白黒の画面に表している。

●ルオー《ミセレーレ》展出品作品リスト

No.	作品名	制作年	サイズ(㎝)
1	裸上、我を憐れみたまえ、無情の心は永遠に砕けて	1922	37.0×41.0
2	裸上、我を憐れみたまえ……	1922	38.0×40.0
3	裸上、我を憐れみたまえ……	1922	48.5×48.5
4	裸上、我を憐れみたまえ……	1922	48.5×47.5
5	裸上、我を憐れみたまえ……	1922	38.0×41.0
6	裸上、我を憐れみたまえ……	1922	38.0×41.0
7	裸上、我を憐れみたまえ……	1922	38.0×41.0
8	裸上、我を憐れみたまえ……	1922	38.0×41.0
9	裸上、我を憐れみたまえ……	1922	37.5×40.0
10	裸上、我を憐れみたまえ……	1922	38.0×41.0
11	裸上、我を憐れみたまえ……	1922	38.0×41.0
12	裸上、我を憐れみたまえ……	1922	47.5×45.0

出品リスト



展示風景



ギャラリートーク (8/3)

出品リスト

No.	作品名	制作年	サイズ (cm)
1	神よ、我を憐れみたまえ、御身の大きいなる慈悲によりて	1923	57.4 × 41.9
2	辱められるキリスト・・・・	1922	54.6 × 40.0
3	絶えまなく笞打たれ・・・・	1922	48.5 × 36.8
4	不幸の乞食は、御身の心の中に身を避ける	1922	48.3 × 37.1
5	畏と悪意のこの世にただ独り	1922	58.0 × 41.5
6	我らは苦役囚ではないのか	1926	59.0 × 43.4
7	我ら自らを王と思ひ	1923	58.6 × 41.9
8	顔に皺を描かぬ者はいようか？	1923	56.6 × 42.8
9	時には道は美し・・・・	1922	37.5 × 50.8
10	長き苦悩の古き場末にて	1923	56.8 × 42.0
11	明日は晴れるだろう、難破した者は、そう言った	1922	50.5 × 35.6
12	生きるとは辛き業・・・・	1922	47.7 × 35.9
13	愛すれば心嬉しきに	1923	57.2 × 41.2
14	人呼んで快樂の娘	1922	51.2 × 36.9
15	若かりし唇に苦き味	1922	50.4 × 35.2
16	山の手の夫人は、天国に予約席ありと思う	1922	56.9 × 41.1
17	解放された女は十四時に正午を歌う	1923	56.0 × 43.2
18	罪を宣告された者は立去った・・・・	1922	50.3 × 34.4
19	弁護士は空ぞらしい言葉で彼に悪意なしと主張する・・・・	1922	53.8 × 40.8
20	見捨てられた十字架のイエスの下で	1926	57.9 × 41.4
21	<虐待され辱められたれど、彼は口を開かざりき>	1923	58.1 × 41.2
22	世は様々なれど、荒地に種蒔くは美しき仕事	1926	58.9 × 43.0
23	「孤独者」通り	1922	40.4 × 50.7
24	<冬、大地の癩>	1922	51.2 × 36.2
25	ジャン＝フランソワは決してハレルヤを歌わず・・・・	1923	58.7 × 42.2
26	渇きと怖れの国で	1923	40.8 × 58.2
27	物に涙あり・・・・	1926	59.2 × 41.7
28	<我を信ずる者は死すとも生きん>	1923	57.2 × 43.7
29	朝の祈りを歌えよ、日は甦る	1922	51.0 × 36.6
30	<我ら・・・・彼の死において、洗礼を受けたり>	不詳	54.4 × 42.0
31	<汝ら、互いに愛し合うべし>	1923	58.8 × 42.4
32	主よ、御身なり、われは御身を認む	1927	57.1 × 44.7
33	柔らかき布を持てるヴェロニカは、なおも道を行く・・・・	1924	43.2 × 42.8
34	<廢墟すら亡びたり>	1926	57.9 × 44.7
35	<イエスは苦しまん、世の終わりに至るまで・・・・>	1922	58.2 × 40.7
36	これでお終いだよ、おやじさん！	1927	59.2 × 43.0
37	人は人にとって狼	1926	58.2 × 41.7
38	シナ人が火薬を發明し、私たちに贈ってくれたと人は言う	1926	57.4 × 41.5
39	われわれはみな愚かもの・・・・	1922	57.0 × 41.3
40	顔つき合わせ	1926	57.4 × 43.7
41	占う人たち・・・・	1923	50.8 × 43.8
42	母たちに忌み嫌われる戦争	1927	58.6 × 44.0
43	<我らは死すべきもの、我らも我らの仲間すべても>	1922	51.2 × 36.3
44	我がうるわしの国、今いずこ	1927	42.1 × 59.6
45	死は彼らを奪いぬ、いら草の床より出でしとき	1922	53.5 × 33.1
46	<正しき人は白檀の木のごとく己れを打つ斧に香を移す>	1926	58.4 × 42.0
47	深き淵より・・・・	1927	43.1 × 59.5
48	压榨機で葡萄は潰された	1922	39.5 × 48.5
49	<心気高ければ、首筋強張らず>	1926	58.8 × 42.8
50	<爪と嘴にて>	1926	57.7 × 44.5
51	ランスの微笑みからは程遠く	1922	51.2 × 38.6
52	法は過酷、されど法	1926	57.5 × 43.5
53	七劍の悲しみを負う聖母	1926	57.9 × 40.7
54	<死者よ起て！>	1927	59.0 × 44.5
55	盲人も、時に目明きを慰めた	1926	58.5 × 43.8
56	高慢と無信仰のこの暗き時代に、地の果てより聖母は見守る	1927	58.9 × 43.9
57	<死に至るまで、そして十字架上の死に至るまで従順なる>	1926	58.0 × 42.2
58	<我らが癒されたるは、彼の打傷によりてなり>	1922	58.0 × 47.2

2. 生誕 100 年 菊地養之助展 —永遠の母子像を求めて—

【概要】

創画会創立会員として活躍した日本画家、菊地養之助（1908-2003）の画業を生誕 100 年を機に代表作 60 点でふりかえる回顧展。

会津本郷（現：会津美里町）に生まれた菊地は、川端画学校に学び、戦後は吉井忠などと日本アンデパンダン展に加わり、庶民のかざらない生活や母子を中心とした家族愛をテーマに一貫して作品を描いた。本展は、没後遺族より県立美術館に寄贈された作品を中心に、喜多方市美術館、会津美里町所蔵作品により、永遠の母子像を求めた画家の魂の軌跡をたどり、貧しい時代の豊かで力強い人間像の魅力を再評価した。

【総括】

菊地養之助の回顧展は 2006 年に喜多方市美術館で開催され、それをもとに本展は会津美里町所蔵作品を加えて構成した。第二次大戦後の日本画の歩みが菊地の画業の変遷を通じてたどれるばかりでなく、「家族愛の画家」と認識されていた画家の別の側面を呈示できたのではないと思われる。戦前上京後はあまり出身地と交流がなく、地元でも改めて菊地の存在がクローズアップされる好機となったようである。

会 期：2008 年 12 月 2 日(火)～2009 年 1 月 18 日(日)

会 場：企画展示室 B

休館日：毎週月曜日（1 月 12 日は開館）、12 月 27 日(土)～1 月 4 日(日)、
1 月 13 日(火)

観覧者数：1,247 名

担 当：堀 宜雄

□印刷物

・チラシ（A3 判二つ折り） ＊「吉井忠展」と共通

※『菊地養之助展図録』（喜多方市美術館発行、2006 年）を有償提供

□関連事業

・ギャラリートーク 各回とも 14:00-

① 12 月 6 日(土) 15 名

② 12 月 21 日(日) 30 名

③ 1 月 10 日(土) 20 名

講師：堀 宜雄（当館主任学芸員）

□関連記事

・「菊地養之助氏生誕 100 年 特集展が開幕」『福島民報』

2008 年 12 月 3 日

・「<街ふれあい>会津出身・菊地養之助展」『読売新聞（福島県版）』

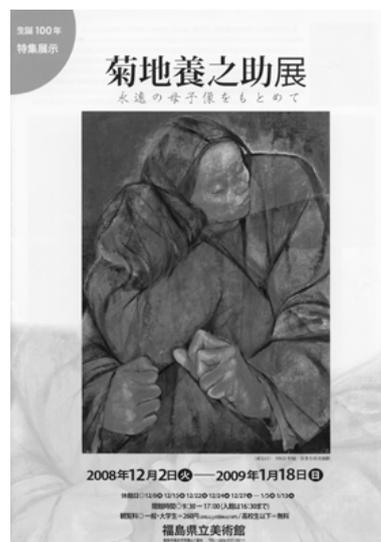
2008 年 12 月 5 日

・「故菊地養之助の母子像作品並ぶ 県立美術館」『福島民友』

2008 年 12 月 5 日

・「県立美術館で菊地養之助展」『毎日新聞（福島県版）』

2008 年 12 月 10 日



チラシ



展示風景



ギャラリートーク（12/6）

出品リスト

No.	作品名	制作年	寸法 (mm)	材質技法	出品歴	所蔵
1	工場裏	1948 頃	635 × 797	紙 / 着色		会津美里町
2	廃工場	1948-51 頃	430 × 585	紙 / 着色		会津美里町
3	工場裏	1940-50 年代	845 × 756	紙・着色		喜多方市美術館
4	工場街	1951	611 × 465	紙・着色		喜多方市美術館
5	自画像	1947	845 × 756	紙・着色		喜多方市美術館
6	自画像 (叫び)	1947	845 × 756	紙・着色	前衛美術会展	喜多方市美術館
7	自画像習作	1947 頃	853 × 765	紙・墨		喜多方市美術館
8	自画像	1949 頃	830 × 770	紙・着色		会津美里町
9	自画像	1949	840 × 770	紙・着色		会津美里町
10	自画像	1950	861 × 758	紙・着色		福島県立美術館
11	子供のいる群像	1940 年代	910 × 710	紙・墨		福島県立美術館
12	子守りの少女	1948	850 × 750	紙・着色		福島県立美術館
13	農夫 (親子)	1948	850 × 745	紙・着色		喜多方市美術館
14	母子像習作	1940 年代	590 × 440	絹・着色		福島県立美術館
15	母子 4 人	1950	855 × 760	紙・着色		喜多方市美術館
16	墨シュール	1950	760 × 847	紙・墨		喜多方市美術館
17	悪夢	1950 頃	710 × 900	紙・墨		福島県立美術館
18	悪夢 (墨シュール)	1950 頃	705 × 905	紙・墨		福島県立美術館
19	倒木のある風景	1950 年代	606 × 802	紙・着色		会津美里町
20	墨東裏街	1951	971 × 776	紙・着色	第 15 回新制作協会展	喜多方市美術館
21	階段の人	1951	978 × 766	紙・着色	第 15 回新制作協会展	福島県立美術館
22	人物 A	1952	1,025 × 786	紙・着色	第 16 回新制作協会展	福島県立美術館
23	人物 B	1952	1,002 × 776	紙・着色		喜多方市美術館
24	群像	1953	782 × 1,013	紙・着色	第 17 回新制作協会展	喜多方市美術館
25	母鳩と子供	1953	1,016 × 789	紙・着色	第 17 回新制作協会展	喜多方市美術館
26	農夫	1953	909 × 728	紙・着色		喜多方市美術館
27	或る日	1953 頃	910 × 752	紙・着色	戦後リアリズム展	喜多方市美術館
28	親子	1950 年代	781 × 1,022	紙・着色		福島県立美術館
29	語る人々	1954 年頃	790 × 1,015	紙・着色		会津美里町
30	農婦習作	1950 年代	780 × 1,000	紙・着色		会津美里町
31	農婦習作	1950 年代	855 × 756	紙・着色		会津美里町
32	農民習作 (資料)	1950 年代	910 × 710	紙・着色		喜多方市美術館
33	粉をひく老婆	1955	1,120 × 1,620	紙・着色	第 19 回新制作協会展	福島県立美術館
34	縄をなう人	1955	1,110 × 1,590	紙・着色	第 19 回新制作協会展	福島県立美術館
35	若い農夫	1950 年代	803 × 1,001	紙・着色		会津美里町
36	お化け煙突	1956	605 × 727	紙・着色	新制作協会春季日本画展	福島県立美術館
37	煙突の下の子供達	1956	1,120 × 1,621	紙・着色	第 20 回新制作協会展	福島県立美術館
38	お化け煙突	1956 年頃	706 × 910	紙・着色		会津美里町
39	開拓地の人	1957	800 × 996	紙・着色		会津美里町
40	開拓地の子供たち	1958	800 × 995	紙・着色		会津美里町
41	馬と人習作	1950 年代後半	800 × 985	紙・着色		会津美里町
42	戯画 A	1962	1,120 × 1,450	紙・着色	第 15 回日本アンデパンダン展	福島県立美術館
43	戯画 B	1962	1,120 × 1,450	紙・着色	第 15 回日本アンデパンダン展	福島県立美術館
44	顔習作 1	1960 年代前半	730 × 520	紙・墨		会津美里町
45	顔習作 2	1960 年代前半	720 × 520	紙・墨		会津美里町
46	仮面の構図 A	1963	909 × 651	紙・着色	新制作協会日本画部春季展	喜多方市美術館
47	仮面の構図 B	1963	911 × 654	紙・着色	新制作協会日本画部春季展	喜多方市美術館
48	仮面の塔	1963	1,618 × 1,118	紙・着色	第 27 回新制作協会展	福島県立美術館
49	鳥のいる仮面	1960 年代	608 × 804	紙・着色		喜多方市美術館
50	怒りの構図	1960 年代	729 × 908	紙・着色		喜多方市美術館
51	子守の少女	1965 頃	804 × 651	紙・着色		喜多方市美術館
52	春近く	1976	1,080 × 880	紙・着色		会津美里町
53	馬と少女	1980	800 × 1,000	紙・着色	80 春季創画展	会津美里町
54	鍾馗面と母子	1982	1,000 × 803	紙・着色	第 8 回春季創画展	福島県立美術館
55	春を待つ	1983	1,000 × 803	紙・着色		喜多方市美術館
56	母子	1995	999 × 798	紙・着色	第 21 春季創画展	会津美里町
57	鳥のいる風景	1995	1,940 × 1,303	紙・着色	第 22 回創画展	会津美里町
58	冬日	1999	730 × 910	紙・着色	第 25 回春季創画展	会津美里町
59	スケッチブック小	不詳	455 × 379	紙・鉛筆、インク		福島県立美術館
60	スケッチブック大	不詳	405 × 315	紙・鉛筆		福島県立美術館

3. 生誕 100 年 吉井忠展

【概要】

福島市出身の吉井忠（1908-1999）は、社会派の画家として昭和の洋画壇で活躍した。戦前・戦中は池袋モンパルナスと呼ばれる芸術家村で寺田政明、松本峻介、長谷川利行らと交友を深めながら、時代不安を反映したシュルレアリスムの絵画を発表した。戦後は東北を中心に旅を繰り返し、労働とともに生きる人々をルポルターージュ的な視点で捉えて表現した。また、ピカソやベン・シャーンなどの評論を通じて社会と美術について考察をめぐらせ、文筆家としても精力的な活動を展開した画家であった。

本展では当館の所蔵作品を中心に、油彩の代表作、福島市内で愛蔵される水彩画、ガラス絵、陶磁器などを展示、併せて戦中期のスケッチ、著作や挿絵の仕事も紹介することで、吉井の芸術を多角的に振り返った。

【総括】

当館では 1992 年の作家生前の回顧展以来の個展。今回は戦中資料、著述、さらにはゆかりの深い福島市内での足跡なども紹介したが、多岐にわたる吉井の業績を十分に紹介するためには、さらに調査研究を進める必要がある。

地元とゆかりの深い画家であるため、入館者数は特集展示としては好調であった。

会 期：2009 年 1 月 24 日(土)～ 3 月 1 日(日)

会 場：企画展示室 B

休館日：毎週月曜日、2 月 12 日(木)

観覧者数：2,476 名

担 当：増淵鏡子、伊藤 匡

□印刷物

- ・チラシ (A3 判二つ折り) * 「菊地養之助展」と共通

□関連事業

- ・ゲストトーク 各回とも 14:00-

① 1 月 25 日(日) 「アトリエの吉井忠」

講師：吉井爽子氏（行動美術協会会員、作家遺族） 100 名

② 2 月 21 日(土) 「吉井忠の人と思想」

講師：小泉和子氏（京都女子大学教授、作家弟子） 100 名

- ・ギャラリートーク

2 月 15 日(日) 14:00-

講師：増淵鏡子（当館主任学芸員） 20 名



チラシ



展示風景



吉井爽子氏トーク (1/25)



小泉和子氏トーク (2/21)

□関連記事

- ・「きょうから吉井忠氏の特集展」『福島民報』2009年1月24日
- ・「吉井忠展が開幕 福島出身洋画家生誕百年を記念」『福島民報』1月25日
- ・「吉井忠の軌跡振り返る 福島で生誕100年特集展」『福島民友』1月30日

出品リスト

No.	分類	作品名	制作年	材質・技法	所蔵
1	油彩	ヴェルノン風景	1937・昭和12	カンヴァス・油彩	当館寄託
2	油彩	空の祭壇	1937・昭和12	カンヴァス・油彩	当館蔵
3	油彩	赤い風景	1939・昭和14	カンヴァス・油彩	当館蔵
4	油彩	静物	1940・昭和15	カンヴァス・油彩	当館蔵
5	油彩	像(自画像)	1940・昭和15	カンヴァス・油彩	当館寄託
6	油彩	くるみを割る自画像	1941・昭和16	カンヴァス・油彩	当館蔵
7	油彩	麦の穂を持つ女	1941・昭和16	カンヴァス・油彩	当館蔵
8	油彩	鳥たち	1942・昭和17	カンヴァス・油彩	当館蔵
9	油彩	裏磐梯	1942・昭和17	カンヴァス・油彩	当館蔵
10	油彩	毛馬内風景	1943・昭和18	カンヴァス・油彩	当館寄託
11	油彩	像・少女	1948・昭和23	カンヴァス・油彩	当館寄託
12	油彩	盲目	1948・昭和23	カンヴァス・油彩	当館寄託
13	油彩	街	1949・昭和24	カンヴァス・油彩	当館蔵
14	油彩	犠牲者	1952・昭和27	カンヴァス・油彩	当館蔵
15	油彩	雲・鳩	1954・昭和29	カンヴァス・油彩	当館蔵
16	油彩	静物(巢と卵)	1955・昭和30	カンヴァス・油彩	当館寄託
17	油彩	彫刻する女	1956・昭和31	カンヴァス・油彩	当館寄託
18	油彩	若き楽手	1957・昭和32	カンヴァス・油彩	当館蔵
19	油彩	青の女	1957・昭和32	カンヴァス・油彩	当館寄託
20	油彩	とかげとふくろう	1958・昭和33	カンヴァス・油彩	当館蔵
21	油彩	雪の安達太良山	1960・昭和35	カンヴァス・油彩	当館蔵
22	油彩	若い人	1960年代	カンヴァス・油彩	個人蔵
23	油彩	地の跡	1963・昭和38	カンヴァス・油彩	当館蔵
24	油彩	老農夫	1964・昭和39	カンヴァス・油彩	当館蔵
25	油彩	つむぐ女	1965・昭和40	カンヴァス・油彩	当館蔵
26	油彩	寓話	1966・昭和41	カンヴァス・油彩	当館蔵
27	油彩	津軽にて	1967・昭和42	カンヴァス・油彩	当館寄託
28	油彩	眠る少女	1967・昭和42	カンヴァス・油彩	当館蔵
29	油彩	出稼ぎに行く男	1968・昭和43	カンヴァス・油彩	当館蔵
30	油彩	百姓祭文	1969・昭和44	カンヴァス・油彩	当館蔵
31	油彩	夕やけの中の風景	1970・昭和45	カンヴァス・油彩	当館寄託
32	油彩	女と男	1976・昭和51	カンヴァス・油彩	当館蔵
33	油彩	蒼い虹	1977・昭和52	カンヴァス・油彩	当館蔵
34	日本画	結氷期の八郎瀧	1943・昭和18	紙本墨画、軸装	個人蔵
35	日本画	樹下童女図(池田龍一旧蔵)	1945・昭和20	紙本墨画、軸装	個人蔵
36	日本画	草花図屏風	1992・平成4	紙本着色、屏風二曲一隻	個人蔵
37	日本画	葡萄	1993・平成5	紙本墨画、軸装	個人蔵
38	陶磁器	陶器絵皿 安達窯	1987・昭和62	陶器	個人蔵

39	陶磁器	陶器壺 宗像窯	1987・昭和 62	陶器	個人蔵
40	陶磁器	磁器絵皿 滝田窯	1991・平成 3	磁器	個人蔵
41	素描	南会津山村報告記	1942・昭和 17	紙・鉛筆、冊子装	個人蔵
42	素描	上川崎（紙をつくる村）1	1943・昭和 18	紙・鉛筆	個人蔵
43	素描	上川崎（紙をつくる村）2	1943・昭和 18	紙・鉛筆	個人蔵
44	素描	毛馬内 1	1943・昭和 18	紙・鉛筆	個人蔵
45	素描	毛馬内 2	1943・昭和 18	紙・鉛筆	個人蔵
46	素描	隈畔	1947・昭和 22	紙・墨	個人蔵
47	素描	ベン・シャーン像	1960・昭和 35	紙・コンテ	個人蔵
48	素描	津田青楓	1974・昭和 49	紙・水彩	個人蔵
49	素描	七ヶ宿街道 夏村道	1976・昭和 51	紙・水彩	個人蔵
50	素描	大沢部落	1977・昭和 52	紙・水彩	個人蔵
51	素描	八重山群島	1979・昭和 54	紙・水彩	個人蔵
52	素描	春の日の檜枝岐	1981・昭和 56	紙・水彩	個人蔵
53	素描	関根正二の生地	1982・昭和 57	紙・水彩	個人蔵
54	素描	安達ヶ原二本柳	1983・昭和 58	紙・水彩	個人蔵
55	素描	少女	1983・昭和 58	紙・水彩	個人蔵
56	素描	画帖	1990 年代	紙・水彩	個人蔵
57	素描	北アルプス	1990 年代	紙・水彩	個人蔵
58	素描	オランダの少女	1992・平成 4	紙・水彩	個人蔵
59	素描	花	1993・平成 5	紙・水彩	個人蔵
60	素描	土湯 水芭蕉	1993・平成 5	紙・水彩	個人蔵
61	素描	裏磐梯	1998・平成 10	紙・水彩	個人蔵
62	資料	小川芋銭書簡（池田龍一宛）昭和 11 年 10 月 15 日	1936・昭和 11	一通	当館蔵
63	資料	「紙をつくる村」原稿	1943・昭和 18	紙・インク、冊子装	個人蔵
64	資料	『和紙』（東野辺薫）	1946・昭和 21	一冊（装幀）	個人蔵
65	資料	『民芸論』	1947・昭和 22	一冊（著書）	当館蔵
66	資料	宗像喜代次宛書簡 昭和 23 年 3 月 2 日	1948・昭和 23	一通	個人蔵
67	資料	『ピカソ』	1952・昭和 27	一冊（著書）	当館蔵
68	資料	『毎日グラフ』	1955・昭和 30	一冊	個人蔵
69	資料	『アトリエ臨時増刊 新しいリアリズム』	1956・昭和 31	一冊	個人蔵
70	資料	『木かげの家の小人たち』（いぬいとみこ）	1959・昭和 34	一冊（挿絵）	個人蔵
71	資料	『ある絵の日記』	1960・昭和 35	一冊（蔵書）	個人蔵
72	資料	『とらちゃん日記』（千葉県三）	1960・昭和 35	一冊（挿絵）	個人蔵
73	資料	池田龍一氏書簡 昭和 39 年 7 月 3 日	1964・昭和 39	一通	個人蔵
74	資料	池田龍一氏書簡 昭和 39 年 7 月 5 日	1964・昭和 39	一通	個人蔵
75	資料	『水彩画入門』	1966・昭和 41	一冊（著書）	当館蔵
76	資料	新版『木かげの家の小人たち』（いぬいとみこ）	1967・昭和 42	一冊（挿絵）	当館蔵
77	資料	『美術グラフ』	1970・昭和 45	一冊	当館蔵
78	資料	絵はがき	1970 年代から	22 枚	個人蔵
79	資料	『牛をつないだつばきの木』（新美南吉）	1973・昭和 48	一冊	当館蔵
80	資料	アトリエの吉井忠	1991・平成 3	写真	個人蔵
81	参考	浅草の女（長谷川利行）	1935・昭和 10	カンヴァス・油彩（旧蔵作品）	当館蔵
82	参考	我々は平和を望んでいる（ベン・シャーン）	1946	紙・リトグラフ	当館蔵
83	ガラス絵	ガラス絵 少女	1975・昭和 50	ガラスに絵付	個人蔵
84	ガラス絵	ガラス絵 少女	1980 年代	ガラスに絵付	個人蔵

移動美術館

移動美術館展「郷土の画家たち」

県民が身近な場所で美術館の美術作品を鑑賞する機会を設けるとともに、県内の文化施設への支援・連携事業として、美術館の移動展示を毎年行っている。

今年度は本宮市のふれあい文化ホールで開催した。

会期：2008年11月22日(土)～12月21日(日)

開館時間：9:00～17:00（最終入館は16:30）

休館日：11月24日をのぞく毎週月曜日、11月25日

主催：本宮市白沢ふれあい文化ホール、福島県立美術館

会場：本宮市白沢ふれあい文化ホール

（本宮市白岩字堤崎 494-44 電話 0243-44-3185）

観覧料：一般・大学生 200 円／高校生以下無料

観覧者数：998 人

担当：増渕鏡子

□印刷物

・展覧会リーフレット

規格／A3判二つ折り カラー 15点

内容／作家作品解説、展示作品リスト

□関連事業

・ギャラリートーク

日時：12月6日(日) 14:00- 22名参加

講師：増渕鏡子（当館主任学芸員）



リーフレット



本宮市白沢ふれあい文化ホール 外観



展示風景

出品リスト

No.	作家名	作品名	制作年	材質・技法
1	大山 忠作	O先生	1946・昭和 21	紙本着色
2	大山 忠作	幼童曼陀羅	1967・昭和 42	紙本着色
3	大山 忠作	爽涼	1980・昭和 55	紙本着色
4	小川 芋銭	細道絵日記	1911・明治 44	紙本墨画淡彩、卷子装
5	荻生 天泉	花卉虫鳥類写生図巻	1921・大正 10	紙本着色、卷子装（二巻）
6	荻生 天泉	待宵	1939・昭和 14	絹本着色、軸装
7	勝田 蕉琴	出城釈迦図	1907・明治 40	絹本着色、軸装
8	勝田 蕉琴	花鳥屏風	1913・大正 2 頃	絹本着色、屏風二曲一隻
9	勝田 蕉琴	安らかなる鳥の巣	1921・大正 10	絹本着色、屏風二曲一双
10	勝田 蕉琴	霜の朝	1923・大正 12	絹本着色、軸装
11	木下 春	機織	1934・昭和 9	紙本着色、屏風二曲一隻
12	黒沢 吉蔵	煙突	1956・昭和 31	紙本着色
13	黒沢 吉蔵	起重機	1956・昭和 31	紙本着色
14	斎藤 清	会津の冬（8）川井	1981・昭和 56	紙本墨画
15	斎藤 清	会津の冬（5）西会津・牧	1982・昭和 57	紙本墨画
16	斎藤 清	会津の冬、三島町・澁谷	1982・昭和 57	紙本墨画
17	斎藤 清	会津の冬、高田・下馬場	1984・昭和 59	紙本墨画
18	斎藤 清	会津の冬、澁谷	1984・昭和 59	紙本墨画
19	斎藤 清	会津の冬、八木沢（1）	1984・昭和 59	紙本墨画
20	斎藤 清	会津の冬、喜多方・南町	1985・昭和 60	紙本墨画
21	斎藤 清	会津の冬、柳津駅	1985・昭和 60	紙本墨画
22	酒井 三良	雪に埋もれつつ正月はゆく	1919・大正 8	絹本着色、屏風二曲一隻
23	下村 観山	寒空	1923・大正 12	絹本着色、軸装
24	須田 珙中	篝火	1959・昭和 34	紙本着色、屏風四曲一隻
25	角田 磐谷	山本不動奥の院（新福島八景のうち二）	1948・昭和 23	絹本着色
26	角田 磐谷	須賀川牡丹園（新福島八景のうち三）	1948・昭和 23	絹本着色
27	角田 磐谷	矢祭山の晩秋（新福島八景のうち六）	1948・昭和 23	絹本着色
28	角田 磐谷	白河南湖秋色（新福島八景のうち七）	1948・昭和 23	絹本着色
29	角田 磐谷	岳温泉鏡沼（新福島八景のうち八）	1948・昭和 23	絹本着色
30	角田 磐谷	磐梯檜原湖の朝（新福島十勝のうち六）	1948・昭和 23	絹本着色
31	角田 磐谷	雨の霞が城跡（新福島十勝のうち八）	1948・昭和 23	絹本墨画
32	角田 磐谷	信夫山の桜（新福島十勝のうち十）	1948・昭和 23	絹本着色
33	松本 栄	志摩	1968・昭和 43	紙本着色
34	松本 栄	群像（曳く）	1983・昭和 58	紙本着色、屏風六曲一隻
35	吉井 忠	麦の穂を持つ女	1941・昭和 16	カンヴァス・油彩
36	吉井 忠	雪の安達太良山	1960・昭和 35	カンヴァス・油彩
37	吉井 忠	老農夫	1964・昭和 39	カンヴァス・油彩
38	石井 柏亭	果樹園の午後	1928・昭和 3	カンヴァス・油彩

企画展

1. 名画の散歩道 三重県立美術館名品展

会 期：2008年4月19日(土)～5月25日(日)

会 場：企画展示室 A-1・2・3、B

休館日：毎週月曜日（5月5日は開館）、4月30日(木)、5月7日(木)

観覧料：一般・大学生 700(560)円／高校生 400(320)円／

小・中学生 200(160)円 * ()内は20名以上の団体料金

観覧者数：7,635名

担 当：佐藤香里、佐治ゆかり

主 催：福島県立美術館

協 力：三重県立美術館、(財)岡田文化財団

【内容】

三重県立美術館は、日本近代洋画の優品を中心に、江戸時代の奇想の画家として人気の高い曾我蕭白の逸品、西洋近代美術の名品を所蔵している。本展では、5,000点を超えるコレクションのなかから代表作約60点を紹介した。

当館では、2002年度に新潟県立近代美術館と、2006年度に山形美術館と、それぞれコレクション交換展を開催している。本展は、他館コレクションを総合的に紹介する3回目の展覧会となった。

【総括】

展示内容に対しては、曾我蕭白の作品への賞賛の声が多かった。あわせて、ポスターに使用したシャガール『枝』の人气が突出して高く、西洋近代美術の底力が改めて示される結果となった。一方で、アンケートには、洋画家ひとりひとりへの濃やかなコメントも見受けられ、全体として、三重県立美術館コレクションの魅力が観客に伝わったことが確認された。

広報については、(財)岡田文化財団の母体であるスーパーマーケット・グループにポスター掲示、チラシ配布などを依頼した。また、福島大学、県内高校美術部の学生たちをオープニングに招待するなど、若年層への周知を目指したが、観客動員数は予想を下回った。GW期間でもあったため、市内観光と絡めて、観客誘致を行うことが今後の課題である。

□印刷物

・ポスター（B2）、チラシ（A4）、観覧券、案内ハガキ

・鑑賞の手引き（A4判 12頁）

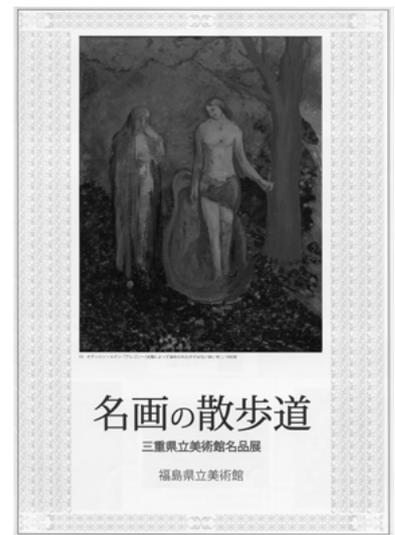
図版：カラー 22点

本文：「展覧会にあたって」酒井哲朗（当館館長）

展示作品リスト／作家略歴



B2 ポスター



鑑賞の手引き

□関連事業

- ・特別講座「日本絵画の魅力」
講師：酒井哲朗（当館館長）
日時：4月26日(土) 14:00-
会場：美術館講堂（入場無料） 40名参加

- ・スペシャル・ギャラリートーク
講師：田中善明氏（三重県立美術館学芸課長）
日時：5月25日(日) 14:00-
会場：企画展示室 40名参加

- ・ギャラリートーク 各回とも 14:00-
講師：佐藤香里（当館学芸員）
① 4月19日(土) 30名参加
② 5月10日(土) 30名参加 *友の会会員対象
③ 5月17日(土) 30名参加

□関連記事

- ・「名画の散歩道『三重県立美術館名品展』『福島民友』
2008年4月17日
- ・「『名画の散歩道』きょう開幕『福島民報』4月19日
- ・「きょう『名画の散歩道』開幕 三重県立美術館の収蔵品集め」
『福島民友』4月19日
- ・「三重県美術館の名画63点一堂に 福島県立美術館」『河北新報』
4月20日
- ・「三重県立美術館の洋画コレクション 県立美術館展示始まる」
『福島民報』4月20日
- ・「三重県立美術館名品展に協力 岡田文化財団理事長が鑑賞」
『福島民報』4月23日
- ・「名画の散歩道 三重県立美術館名品展」『読売新聞（福島版）』
4月25日
- ・「名画の散歩道 三重県立美術館名品展」佐藤香里『福島民報』
「㊤ 魅惑の西洋絵画」 5月4日
「㊦ 時を超える日本絵画」 5月11日
- ・「名画の構図や色彩解説 県立美術館 伝次郎クラブ会員にトーク」
『福島民報』5月15日



展示風景



特別講座（4/26）



スペシャル・ギャラリートーク（5/25）



ギャラリートーク（4/19）

出品リスト

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)	備考
1	曾我蕭白	塞翁飼馬・簫史吹笙図屏風	1759・宝暦9頃	紙本墨画・六曲一双	各 154.5 × 337.6	
2	曾我蕭白	林和靖図	1760・宝暦10	紙本墨画・六曲一双	各 172.0 × 337.6	
3	曾我蕭白	竹林七賢図 (旧永島家襖絵)	1764・明和元頃	紙本墨画 (全八面)	各 171.5 × 86.0	重要文化財
4	横山 操	瀟湘八景	1963・昭和38	紙本墨画 (全八面)	121.0 × 243.0	
5	岩橋教章	鴨の静物	1875・明治8	水彩・紙	54.0 × 34.3	
6	川村清雄	ヴェネツィア風景	1913-34・大正2-昭和9	油彩・紙	33.5 × 100.0	
7	浅井 忠	小丹波村	1893・明治26	油彩・カンヴァス (パネル貼り)	26.8 × 38.9	
8	安藤伸太郎	梅花静物	1889・明治22	油彩・板	28.1 × 42.2	
9	原田直次郎	老人像	1886・明治19頃	油彩・カンヴァス	57.6 × 42.6	
10	黒田清輝	雪景	1919・大正8	油彩・板	26.0 × 34.8	
11	中村不折	裸婦立像	1903・明治36頃	油彩・カンヴァス	78.0 × 44.5	
12	藤島武二	浜辺	1898・明治31	油彩・板	23.5 × 32.5	
13	藤島武二	裸婦	1917・大正6頃	油彩・カンヴァス	45.2 × 37.9	
14	藤島武二	大王岬に打ち寄せる怒涛	1932・昭和7	油彩・カンヴァス	73.3 × 100.0	
15	鹿子木孟郎	津の停車場 (春子)	1898・明治31	油彩・カンヴァス	57.1 × 39.0	
16	鹿子木孟郎	狐のショールをまとえる婦人	1902・明治35	油彩・カンヴァス	87.0 × 67.6	
17	坂本繁二郎	箱	1960・昭和35	油彩・カンヴァス	38.0 × 45.7	
18	萬鉄五郎	山	1915・大正4	油彩・カンヴァス	38.0 × 45.5	
19	藤田嗣治	猫のいる自画像	1927・昭和2	油彩・カンヴァス	54.3 × 45.5	
20	藤田嗣治	ラマと四人の人物	1933・昭和8	水彩・紙	155 × 95.0	
21	清水登之	チャプスイ店にて	1921・大正10	油彩・カンヴァス	71.1 × 55.9	
22	中村 彝	自画像	1922・大正11	木炭・紙	28.8 × 24.2	
23	中村 彝	髑髏のある静物	1923・大正12	油彩・板	35.5 × 25.0	
24	小出楯重	パリ・ソナムラルの宿	1922・大正11	油彩・板	51.5 × 44.5	
25	小出楯重	裸婦立像	1925・大正14	油彩・カンヴァス	53.2 × 45.5	
26	梅原龍三郎	山荘夏日	1933・昭和8	油彩・カンヴァス	62.6 × 77.8	
27	梅原龍三郎	霧島	1936・昭和11	油彩・カンヴァス	65.0 × 80.3	
28	安井曾太郎	裸婦	1910・明治43	油彩・カンヴァス	60.6 × 50.0	
29	安井曾太郎	女立像	1924・大正13	油彩・カンヴァス	90.0 × 71.0	
30	岸田劉生	自画像	1917・大正6	クレヨン、コンテ・紙	29.8 × 23.0	
31	岸田劉生	照子素描	1919・大正8	水彩、コンテ・紙	36.2 × 28.4	
32	岸田劉生	麦二三寸	1920・大正9	油彩・カンヴァス	37.5 × 45.5	
33	須田国太郎	信楽	1935・昭和10	油彩・カンヴァス	72.6 × 116.0	
34	古賀春江	煙火	1927・昭和2	油彩・カンヴァス	90.9 × 60.6	
35	村山槐多	自画像	1916・大正5	油彩・カンヴァス	60.5 × 50.0	
36	村山槐多	信州風景 (山)	1917・大正6	木炭・紙	55.0 × 35.7	
37	福沢一郎	劇的一幕 (コメディ・フランセーズ)	1924・大正13	油彩・カンヴァス	88.0 × 114.0	
38	関根正二	群像	1916・大正5	木炭・紙	54.5 × 39.5	
39	関根正二	自画像	1918・大正7	インク・紙	26.8 × 19.2	
40	牛島憲之	貝焼場	1935・昭和10	油彩・カンヴァス	152.0 × 182.0	
41	鳥海青児	紀南風景	1936・昭和11	油彩・カンヴァス	97.0 × 146.0	
42	海老原喜之助	森と群鳥	1932・昭和7	油彩・カンヴァス	73.5 × 100.0	
43	吉原治良	作品	1937・昭和12	油彩・カンヴァス	130.0 × 96.0	
44	難波田龍起	創生A	1961・昭和36	油彩・カンヴァス	97.0 × 130.0	

45	鶴岡政男	黒い行列	1952・昭和 27	油彩・カンヴァス	130.0 × 97.0
46	香月泰男	芒原	1968・昭和 43	油彩・カンヴァス	91.1 × 60.7
47	松本竣介	駅の裏	1942・昭和 17	油彩・カンヴァス	50.0 × 60.6
48	麻生三郎	母子のいる風景	1954・昭和 29	油彩・カンヴァス	97.0 × 146.0
49	浅野弥衛	作品	1975・昭和 50	油彩・カンヴァス	90.9 × 90.9
50	元永定正	作品	1956・昭和 31	油彩・カンヴァス	159.0 × 112.0
51	フランシスコ・ホセ・デ・ゴヤ・イ・ルシエンテス	アルベルト・フォラステールの肖像	1804 頃	油彩・カンヴァス	45.9 × 37.5
52	エドガー・ドガ	裸婦半身像	1891 頃	コンテ、赤チョーク・紙	43.0 × 50.0
53	オディロン・ルドン	アレゴリー（太陽によって赤く染められたのではない赤い木）	1905	油彩・カンヴァス	46.0 × 35.5
54	クロード・モネ	橋から見たアルジャントウイユの泊地	1874	油彩・カンヴァス	62.0 × 81.0
55	クロード・モネ	ラ・ロシュブロンドの村（夕暮れの印象）	1889	油彩・カンヴァス	73.9 × 92.8
56	オーギュスト・ルノワール	青い服を着た若い女	1876 頃	油彩・カンヴァス	42.9 × 31.0
57	トゥールーズ・ロートレック	ムラン・ルージュのイギリス人	1892	リトグラフ・紙	47.5 × 37.0
58	ラウル・デュフィ	黒い貨物船と虹	1949 頃	油彩・カンヴァス	38.0 × 46.1
59	パブロ・ピカソ	ロマの女	1900	パステル、油彩・厚紙	44.5 × 59.0
60	パブロ・ピカソ	ふたつの裸体	1909	ドライポイント・紙	13.0 × 11.0
61	マルク・シャガール	枝	1956-62	油彩・カンヴァス	150.0 × 120.0
62	ジョアン・ミロ	女と鳥	1968	油彩・カンヴァス	100.0 × 65.6
63	サルバドール・ダリ	パッラーディオのタリア柱廊	1937-38	油彩・カンヴァス	116.0 × 88.5

2. フランス近代絵画のながれ —ミレー、ルノワール、ゴッホ… 美の誘惑—

会 期：2008年6月7日(土)～7月21日(月)祝
 会 場：企画展示室 A-1・2・3
 休館日：毎週月曜日（7月21日は開館）
 観覧料：一般 1,200(900)円／大学生 800(500)円／
 小・中・高校生 400(200)円
 ＊()内は前売および20名以上の団体料金
 ＊男女ペア当日券 2,000円
 ＊諸橋近代美術館の観覧券半券持参で前売・団体料金適用

観覧者数：21,835名

担 当：吉村有子、堀 宜雄、橋本淳也

主催：福島県立美術館、福島民報社
 後援：フランス大使館
 協賛：福島日仏協会
 協力：エールフランス航空
 企画協力：ホワイトインターナショナル

【概要】

19-20世紀のフランス近代は様々な美術が華開いた百花繚乱の時代である。人間の激しい感情や、光や大気の中で移ろう自然の風景、色彩や線そのものの美しさの表現を求めた画家たちは、ロマン主義、バルビゾン派、印象派、後期印象派、フォーヴィスムなど、次々と新しい地平を切り開いていった。魅力あふれる革新的な絵画が次々とフランスに生まれ、近代美術の歴史を形成していったのである。

この展覧会は、名画でたどる美術史ガイドのような構成をとった。ロマン主義のドラクロワをはじめ、バルビゾン派のコロー、ミレー、トロワイヨン、印象派のピサロ、モネ、ルノワール、シスレー、後期印象派のゴッホ、フォーヴィスムのヴラマンクらにいたるまで、フランスやアメリカ、ポーランド、日本各地の美術館が所蔵する101点の名画によってフランス近代絵画のながれを紹介した。

【総括】

本展は久しぶりの本格的なフランス絵画の展覧会であり、福島民報社の広報面でのバックアップや、初の大学料金設定による近隣大学での前売券販売、男女ペア当日券の設定などが効を奏し、女性を中心に2万人を越す観覧者を集めた。海外から借用した作品はもとより、当館所蔵のカミーユ・ピサロ作《エラニーの菜園》をはじめ、日本国内の美術館から借用した作品の素晴らしさにも目を見張る観覧者が多く、国内コレクションの質の高さを認識してもらえよ機会となった。

また会期中には、福島日仏協会の協賛のもとに、フランス映画の名作2本の上映会を開催。非常に多くの参加者があり、仙台日仏協会講師の分かりやすい解説と共に映画を堪能した。

□印刷物

- ・ポスター (B2)、チラシ (A4)、観覧券、案内ハガキ
- ・図録 (規格／30.0×22.5 cm、134頁)
 - 図版：カラー 103点
 - 本文：「印象主義のながれ」
 - アンヌ＝ラブルデット (ドゥエ、シャルトル会修道院美術館学芸員)
 - 作家・作品解説／出品作家生没年表／作品リスト



B2 ポスター



カタログ表紙

□関連事業

- ・福島日仏協会協賛 DVD 上映会—フランス映画の誘惑—
 - ①「ラ・マルセイエーズ」(1938年 フランス作品 133分)
6月22日(日) 13:00- 解説 / 13:30- 上映 160名参加
 - ②「天井桟敷の人々」(1945年 フランス作品 190分)
6月29日(日) 13:00- 解説 / 13:30- 上映 130名参加
講師：寺本弘子氏(仙台日仏協会講師)
会場：美術館講堂(入場無料)

- ・ギャラリートーク 各回とも 14:00-
 - ① 6月 8日(日) 70名参加
 - ② 6月 15日(日) 40名参加 *友の会会員対象
 - ③ 7月 6日(日) 50名参加
 講師：吉村有子(当館主任学芸員)
会場：企画展示室(要観覧券)

□関連記事

- ・「フランス近代絵画のながれ展」『福島民報』吉村有子
 - ①「ロマン主義の台頭」2008年6月3日
 - ②「バルビゾン派」2008年6月4日
 - ③「印象派」2008年6月5日
 - ④「新印象主義」2008年6月6日
 - ⑤「後期印象派」2008年6月7日
- ・「フランス近代絵画のながれ展 セレクションⅠ部」『福島民報』吉村有子
 - ①「風景、夕暮れの効果」2008年6月11日
 - ②「ロマの母子」2008年6月12日
 - ③「牛のいるオランダ風景」2008年6月13日
 - ④「落胆した狩人」2008年6月14日
 - ⑤「満ち潮のヴェネツィア広場」2008年6月15日
- ・「フランス近代絵画のながれ 美術史の潮流 101点で俯瞰」
『河北新報』2008年6月19日 吉村有子
- ・「フランス近代絵画のながれ展 映画と展示作品」『福島民報』吉村有子
 - ④「父親の愛情と誇り」2008年6月19日
 - ⑤「演劇界のスター競演」2008年6月20日
- ・「フランス近代絵画のながれ展 セレクションⅡ部」『福島民報』吉村有子
 - ①「《ドーヴィルの浜辺》」2008年6月24日
 - ②「《ガラスの花瓶に生けた花》」2008年6月25日
 - ③「《ヴェトユイユ付近のセヌ川支流》」2008年6月26日
 - ④「《帽子の娘》」2008年6月28日
 - ⑤「《春のル・カネ》」2008年6月29日
- ・「フランス近代絵画のながれ展 美の誘惑 インタビュー④」：
ヨハネ・パウロ2世美術館 ボグダン・クラント氏
『福島民報』2008年6月29日
- ・「フランス近代絵画のながれ展 美の誘惑 インタビュー⑤」：
ドウエ、シャルトル会修道院美術館 セドリック・コルソン氏
『福島民報』2008年7月6日
- ・「フランス近代絵画のながれ展 美の誘惑 来場者の声①～⑤」
『福島民報』2008年7月1日～5日



展示風景



開会式 (6/6)



ギャラリートーク (6/8)



ギャラリートーク (6/15)

出品リスト

No.	作家	作品名	制作年	材質・技法	サイズ (cm)	所蔵先
1	ジャン=パティスト=カミーユ・コロー	砂漠で罪を償うマグダラのマリア	1874(?)	油彩、カンヴァス	40×90	ヨハネ・パウロ2世美術館
2*	ジャン=パティスト=カミーユ・コロー	ひざまづくマグダラのマリア	1858	クリシェ=ヴェール、紙	16.5×11.4	北海道立帯広美術館
3**	ジャン=パティスト=カミーユ・コロー	イタリヤの思い出	1863	エッチング、紙	29.5×22	北海道立帯広美術館
4*	ジャン=パティスト=カミーユ・コロー	植林された平野	1866	エッチング、紙	10×13	北海道立帯広美術館
5**	作者不詳	コローの肖像	19世紀後半	エッチング、紙	11.9×10.9	北海道立帯広美術館
6	ウジェーヌ・ドラクロワ	ベランジェの肖像	不詳	油彩、カンヴァス	61×50	ドゥエ、シャルトル会修道院美術館
7	ポール・ユエ	エトルタ、浜辺から眺めたポルト・ダヴァル	1868	油彩、厚紙	22.5×33.5	カーン美術館
8**	ポール・ユエ	フォンテーヌブロー付近	1866	エッチング、紙	19.3×28	北海道立帯広美術館
9	コンスタン・デュティユー	風景、夕暮れの効果	不詳	油彩、カンヴァス	100×81	ドゥエ、シャルトル会修道院美術館
10	コンスタン・デュティユー	水辺の草原	不詳	油彩、カンヴァス	20×25	ドゥエ、シャルトル会修道院美術館
11	ナルシス・ディアズ・ド・ラ・ペーニャ	ロマの母と子	1866	油彩、板	46×30.5	ヨハネ・パウロ2世美術館
12	ナルシス・ディアズ・ド・ラ・ペーニャ	ヴィーナスの水浴	不詳	油彩、カンヴァス	69×47	ヨハネ・パウロ2世美術館
13	ナルシス・ディアズ・ド・ラ・ペーニャ	キュービッドの死	不詳	油彩、カンヴァス	47×35.8	ミネソタ大学ダールズ校ツィード美術館
14	コンスタン・トロワイヨン	牛のいるオランダ風景	不詳	油彩、カンヴァス	61×91.5	ミネソタ大学ダールズ校ツィード美術館
15*	ジュール・デュプレ	ソーニユの風車	1835	リトグラフ、紙	19.6×14	北海道立帯広美術館
16*	ジュール・デュプレ	ノルマンディー地方の風景	1835	リトグラフ、紙	13.7×20.7	北海道立帯広美術館
17**	ジュール・デュプレ	イギリス風景	1836	リトグラフ、紙	12.9×20.7	北海道立帯広美術館
18**	ジュール・デュプレ	アランソン風景	1839	リトグラフ、紙	13.3×19	北海道立帯広美術館
19*	ピエール=エティエンヌ=テオドール・ルソー	ピオーのサクランボの木	1848頃	クリシェ=ヴェール、紙	22.1×27.7	北海道立帯広美術館
20*	ピエール=エティエンヌ=テオドール・ルソー	ピオーの平原	1848頃	クリシェ=ヴェール、紙	21.8×27.7	北海道立帯広美術館
21**	ピエール=エティエンヌ=テオドール・ルソー	樺の木と岩	1861	エッチング、紙	12.7×17.2	北海道立帯広美術館
22	シャルル=エミール・ジャック	ポプラの前の農家	1849以降	油彩、板	23×34.3	ミネソタ大学ダールズ校ツィード美術館
23	シャルル=エミール・ジャック	羊の群れの帰還	1885	油彩、板	24×33	ミネソタ大学ダールズ校ツィード美術館
24*	シャルル=エミール・ジャック	蹄鉄場	1865	エッチング、紙	12.8×19.3	北海道立帯広美術館
25*	シャルル=エミール・ジャック	オランダ牛	19世紀後半	エッチング、紙	11×17.9	北海道立帯広美術館
26**	シャルル=エミール・ジャック	雄鶏と雌鶏	19世紀後半	エッチング、紙	12.1×17	北海道立帯広美術館
27**	シャルル=エミール・ジャック	豚飼いの少年	19世紀後半	エッチング、紙	11.5×17.7	北海道立帯広美術館
28**	シャルル=エミール・ジャック	水飲み場	19世紀後半	エッチング、紙	14.5×21	北海道立帯広美術館
29	ジャン=フランソワ・ミレー	落胆した狩人	1841	油彩、カンヴァス	100×81	ミネソタ大学ダールズ校ツィード美術館
30	ジャン=フランソワ・ミレー	午餐	1843-45頃	油彩、カンヴァス	36×28.2	ミネソタ大学ダールズ校ツィード美術館
31	ジャン=フランソワ・ミレー	耕す人	1855-56頃	油彩、紙	81×100	ミネソタ大学ダールズ校ツィード美術館
32*	ジャン=フランソワ・ミレー	耕す人	1855頃	エッチング、紙	24×34	北海道立帯広美術館
33**	ジャン=フランソワ・ミレー	落穂ひろい	1855-56	エッチング、紙	19.2×25	北海道立帯広美術館
34*	ジャン=フランソワ・ミレー	裁縫する女	1855-56	エッチング、紙	10.5×7.4	北海道立帯広美術館(帯広市寄託)
35	ジャン=フランソワ・ミレー(原画)	農家の裏庭	不詳	エッチング、紙	38×49	ミネソタ大学ダールズ校ツィード美術館
36	シャルル=フランソワ・ドービニー	雨の後	不詳	油彩、カンヴァス	51.7×88.3	ミネソタ大学ダールズ校ツィード美術館
37*	シャルル=フランソワ・ドービニー	ヒマラヤ杉	1842	エッチング、紙	17.5×11.3	北海道立帯広美術館
38*	シャルル=フランソワ・ドービニー	羊の柵囲い	1860	エッチング、紙	18.4×34.3	北海道立帯広美術館
39**	シャルル=フランソワ・ドービニー	オーヴェールのりんごの木	1877	エッチング、紙	14×23.9	北海道立帯広美術館
40**	シャルル=フランソワ・ドービニー	ヴィレルヴィル海岸	19世紀後半	エッチング、紙	9.2×19.8	北海道立帯広美術館
41*	作者不詳	ドービニーの肖像	19世紀後半	エッチング、紙	21.4×15.3	北海道立帯広美術館
42*	アドルフ・アピアン	リックスの周辺	1864	エッチング、紙	7×15.1	北海道立帯広美術館
43**	アドルフ・アピアン	マントン近郊	1879	エッチング、紙	12.2×20.1	北海道立帯広美術館
44**	アドルフ・アピアン	リヨン周辺	1879	エッチング、紙	14.1×23.3	北海道立帯広美術館
45*	アドルフ・アピアン	ロメ谷	1868	エッチング、紙	10.1×19.1	北海道立帯広美術館
46	アンリ=ジョゼフ・アルピニー	橋のある風景	1870年代	油彩、カンヴァス	46×59.1	ミネソタ大学ダールズ校ツィード美術館
47	フェリックス・ジエム	満ち潮のヴァネツィア広場	1843-45頃	油彩、板	73.7×52.7	ミネソタ大学ダールズ校ツィード美術館
48	フェリックス・ジエム	ヴェネツィア、ジュデッカ大運河の出口	不詳	油彩、カンヴァス	54×80	トゥール美術館
49	フリッツ・ツーパー=ビュラー	花売り娘の肖像	不詳	油彩、カンヴァス	92×72	ヨハネ・パウロ2世美術館
50	フレデリック・ゲッドール	花祭り	1867	油彩、カンヴァス	73.5×53.5	ヨハネ・パウロ2世美術館
51	ユーグ・メルル	姉妹の愛情	1862	油彩、カンヴァス	56×45.7	ヨハネ・パウロ2世美術館

52	ウジェーヌ・ブーダン	ドーヴィルの浜辺	1893	油彩、カンヴァス	50.5 × 74.5	カーン美術館
53	ジュール・プラトン	海辺にて	1865	油彩、カンヴァス	39.4 × 30.5	ミネソタ大学ダールズ校ツィード美術館
54	カミーユ・ピサロ	エラニーの菜園	1899	油彩、カンヴァス	72.9 × 92	福島県立美術館
55*	ジャン＝フェルディナン・シェニョー	草原の羊飼いの少女と羊の群れ	1863	エッチング、紙	19.8 × 30.7	北海道立帯広美術館
56**	レオンス・シャブリ	アレスの道（ジロンド）	1870年代	エッチング、紙	14.3 × 20.8	北海道立帯広美術館
57**	オーギュスト・アロンジェ	池の水門	1879	リトグラフ・木炭、紙	55.7 × 41.6	北海道立帯広美術館
58	エマニュエル・ランシエ	引き潮の洗濯場－ブルターニュの海岸	1866	油彩、カンヴァス	112 × 156	トゥール美術館
59	アンリ・ファンタン＝ラトゥール	ガラスの花瓶に生けた花	1864	油彩、カンヴァス	53.5 × 43.9	ヨハネ・パウロ2世美術館
60	アルフレッド・シスレー	サン＝マメスのロワソ河畔の風景	1881	油彩、カンヴァス	34.2 × 48.5	鹿児島市立美術館
61	アルフレッド・シスレー	川岸の風景	不詳	油彩、カンヴァス	40.5 × 34.5	ヨハネ・パウロ2世美術館
62	クロード・モネ	ヴェトウイユ付近のセヌ川支流	不詳	油彩、カンヴァス	57.7 × 72	トゥール美術館
63	ピエール＝オーギュスト・ルノワール	カリフラワーと柘榴	1890頃	油彩、カンヴァス	35 × 46.5	ヨハネ・パウロ2世美術館
64	ピエール＝オーギュスト・ルノワール	胸に花を飾る少女	1900頃	油彩、カンヴァス	55 × 46.7	熊本県立美術館
65	ピエール＝オーギュスト・ルノワール	ピエール・ルノワールの肖像	1910	油彩、カンヴァス	44 × 37.2	ヨハネ・パウロ2世美術館
66	ピエール＝オーギュスト・ルノワール	帽子の娘	1910	油彩、カンヴァス	52 × 39.5	損保ジャパン東郷青児美術館
67	ピエール＝オーギュスト・ルノワール	女性の肖像	1910頃	油彩、カンヴァス	30 × 25	ドゥエ、シャルトル会修道院美術館
68	アルマン・ギョーマン	アゲイの岬	1893	油彩、カンヴァス	40 × 65	カーン美術館
69	アルマン・ギョーマン	イル＝ド＝フランスの風景	不詳	油彩、カンヴァス	55 × 46	ドゥエ、シャルトル会修道院美術館
70	カルル・ドービニー	オワーズの岸辺（漁師）	1873	油彩、カンヴァス	34.5 × 57.5	カーン美術館
71	シャルル・アルベール・ルブール	クロワッセのセヌ川	不詳	油彩、カンヴァス	46.3 × 73.1	カーン美術館
72	フィンセント・ファン・ゴッホ	ホーヘフェーンの農場	1883	油彩、カンヴァス	28.5 × 39.5	ヨハネ・パウロ2世美術館
73	フィンセント・ファン・ゴッホ	ヨルダーンス作品をもとにした牛の習作	1890	油彩、カンヴァス	55 × 65	リール美術館
74	フェリックス・カミーユ・ベランジェ	春－風景の中の母子像	1894	油彩、カンヴァス	150 × 111	ヨハネ・パウロ2世美術館
75	ジュール＝ルイ・ラーム	スコットランドの風景	1910	油彩、カンヴァス	60 × 81	カーン美術館
76	ジュール＝ルイ・ラーム	クレシーのアヴニール通り（ノルマンディーの風景）	不詳	油彩、板	15 × 21	カーン美術館
77	アンリ＝エドモン・クロス	プロヴァンス地方の海岸（ムーア人のかまど）	1906	油彩、カンヴァス	73 × 92	ドゥエ、シャルトル会修道院美術館
78	アンリ・モレ	風景	不詳	油彩、カンヴァス	50 × 61	カーン美術館
79	アンリ・ジャン・ギョーム・マルタン	秋の橋	不詳	油彩、カンヴァス	66 × 96	トゥール美術館
80	アンリ・ジャン・ギョーム・マルタン	復活祭の日のミサの装飾、ラバスティド＝デュ＝ヴェルにて	不詳	油彩、カンヴァス	87 × 106	トゥール美術館
81	テオドール・ファン・レイセルベルヘ	ケレス（豊饒の女神）	不詳	油彩、カンヴァス	174 × 52	ヨハネ・パウロ2世美術館
82	テオドール・ファン・レイセルベルヘ	庭のフローラ（花の女神）	不詳	油彩、カンヴァス	174 × 52	ヨハネ・パウロ2世美術館
83	アンリ＝ウジェーヌ・ル・シダネル	ピエトル夫人の肖像	1896	油彩、カンヴァス	197.5 × 89.5	ドゥエ、シャルトル会修道院美術館
84	アンリ＝ウジェーヌ・ル・シダネル	あずまやに下がる提灯	1924	油彩、カンヴァス	89 × 116	ドゥエ、シャルトル会修道院美術館
85	アンリ＝ウジェーヌ・ル・シダネル	赤いテーブルクロス	不詳	油彩、カンヴァス	100.5 × 81	ドゥエ、シャルトル会修道院美術館
86	ホアキン・ソロリャ・イ・バスティダ	浜辺の少女の肖像	不詳	油彩、カンヴァス	96 × 60	ヨハネ・パウロ2世美術館
87	アンリ・ルバスク	春のル・カネ	不詳	油彩、カンヴァス	60 × 72.9	カーン美術館
88	ピエール・ボナール	アンドレ・ボナール嬢の肖像	1890	油彩、カンヴァス	188 × 80	愛媛県美術館
89	ルイ・ヴァルタ	花瓶に生けた花束	不詳	油彩、カンヴァス	27 × 22	ヨハネ・パウロ2世美術館
90	モーリス・ドニ	ヴェネツィアのバルコニーにて	1907	油彩、カンヴァス	70.8 × 45.1	カーン美術館
91	モーリス・ドニ	夜	1894	油彩、カンヴァス	47.5 × 55.5	ドゥエ、シャルトル会修道院美術館
92	イグナシオ・スロアガ・イ・サバレタ	女性の肖像	不詳	油彩、カンヴァス	89 × 61.5	ヨハネ・パウロ2世美術館
93	テレーズ・デュシャトー	少女の肖像	不詳	油彩、カンヴァス	108 × 132.5	トゥール美術館
94	アンリ・フランソワ・モリセ	姉	不詳	油彩、カンヴァス	51 × 73	ドゥエ、シャルトル会修道院美術館
95	モーリス・ド・ヴラマンク	魚のある静物	1923	油彩、カンヴァス	38 × 55	ヨハネ・パウロ2世美術館
96	モーリス・ド・ヴラマンク	果物のある静物	不詳	油彩、カンヴァス	54.5 × 65	ヨハネ・パウロ2世美術館
97	キース・ヴァン・ドンゲン	父親の肖像	1909	油彩、カンヴァス	100.5 × 82	ヨハネ・パウロ2世美術館
98	マリー＝ローランサン	犬を抱く少女	1921	油彩、カンヴァス	81 × 65	山形美術館
99	モーリス・ユトリロ	アトリエ座	1925	油彩、カンヴァス	73 × 104	山形美術館
100	オスカー・シュレンマー	花瓶に生けたグラジオラスとダリア	不詳	油彩、カンヴァス	65.4 × 48.8	ヨハネ・パウロ2世美術館
101	ジョルジョ・デ・キリコ	風景の中の静物	1945-50	油彩、厚紙	29.7 × 39.6	ヨハネ・パウロ2世美術館

※北海道立帯広美術館所蔵版画作品 32 点は会期半ばで展示替を行い、前期後期 16 点ずつ出品。* 印の作品は会期前期（6/7-29）に、** 印の作品は会期後期（7/1-21）に出品。

3. 大岩オスカール：夢みる世界 The Dreams of a Sleeping World

会 期：2008年8月9日(土)～9月28日(日)
 会 場：企画展示室 A-1・2・3
 休館日：毎週月曜日（9月15日は開館）、9月16日(火)、24日(水)
 観覧料：一般・大学生 500(400)円／高校生 200(160)円／
 小・中学生 100(80)円 * ()内は20名以上の団体料金
 観覧者数：6,859名
 担 当：荒木康子、宮武 弘

主 催：福島県立美術館、NPO 法人福島県立美術館協会、
 読売新聞東京本社、美術館連絡協議会、福島民友新聞社、
 福島中央テレビ
 後 援：ブラジル大使館
 認 定：日伯交流年認定事業
 助 成：芸術文化振興基金、財団法人野村国際文化財団
 協 賛：ライオン、清水建設、大日本印刷
 協 力：日本航空

【概要】

大岩オスカールは、1965年、ブラジル移民2世としてサンパウロに生まれた。サンパウロ大学在学中から美術作品の制作を手がけるようになり、その後、東京（1991-2002）、ニューヨーク（2002-）と生活の場を移しながら制作を続けている。

本展では、サンパウロから始まる大岩の20年にわたる活動の軌跡を、絵画を中心に振り返った。夢と現実の間を行き来しながら、揺れ動く現代社会の姿を、豊かな物語性とユーモア、そして鋭い批評精神をもって描き出してきた大岩。その複眼的な作品世界は、同時代を生きる私たちに向けて多くの示唆を与えてくれた。

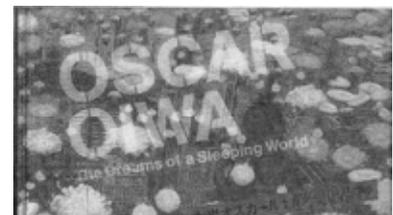
【総括】

夏休み期間にかかる開催ということもあり、家族で現代アートを楽しむような工夫を行い誘客をはかった。企画展示室だけでなく常設展示室、エントランスホールなどにも作品を展示し、作品を探しながらオスカール・ワールドを体験できる工夫をしたり、作家による子供のためのワークショップなども開催した。今回は10代20代の若い世代、特に小中学生の観覧者が多かったのも特徴であった。

また2008年は日伯交流100年の記念の年であり、ブラジル移民も多く、長年交流を重ねてきた福島県にとって、日伯交流年認定事業の本展の開催は意義深いものであった。



B2 ポスター



カタログ表紙

□印刷物

・ポスター (B2)、チラシ (A4)、観覧券、案内ハガキ

・フロアマップ (A4)

・図録 (15.4 × 22.5cm 120 頁)

図版：カラー 84 点

本文：「オスカーの世界」 大岩オスカー

「大岩オスカー、「世界」を描く人」

鎮西芳美 (東京都現代美術館学芸員)

「世界を夢みる旅人、大岩オスカー」

荒木康子 (当館主任学芸員)

作家の言葉／作家略歴／参考文献／出品リスト

□関連事業

・ワークショップ「わんぱくミュージアム：夢みる世界」

8月9日(土) 10:00-14:00

内容：作家と一緒に展覧会の作品を見ながら、自分の好きなもの、気に入っているものを使って、それぞれの「夢みる世界」を描いた。

会場：美術館実習室、企画展示室

対象：小学生 15 名

講師：大岩オスカー氏

・アーティストトーク

8月9日(土) 15:00-16:30 100名参加

会場：企画展示室 A-3

講師：大岩オスカー氏

・ギャラリートーク

9月6日(土)、20日(土) 各回とも 14:00-

講師：荒木康子 (当館主任学芸員) 各 20 名参加

・映画会「昭和 40 年会 ザ・ムーヴィー『晴れたり曇ったり』」

(1999 年／日本映画／65 分／DVD)

9月15日(月) ① 13:00- ② 15:00-

会場：美術館講義室 計 30 名参加

・クイズ「なすび画廊を探せ！」

展示室以外の場所に大岩オスカーの作品《なすび画廊「1月17日午前5時46分」》を展示しておき、それを見つけた人に大岩オスカーによるイラストのシールをプレゼントした。



展示風景



ワークショップ (8/9)



アーティストトーク (8/9)



ギャラリートーク (9/6)

□関連記事

- ・「大岩オスカー 夢みる世界」荒木康子『福島民友』
 - ④「現代描く皮肉とユーモア」 2008年8月6日
 - ⑤「未知の街で新たな展開」 2008年8月13日
 - ⑥「“美術の都”で新しい世界」 2008年8月20日
- ・「大岩オスカー 夢みる世界」伊藤 匡（当館学芸課長）『読売新聞（福島県版）』
 - ①「《クジラ》21メートル破格のスケール」 2008年8月16日
 - ②「《ゼロセン・パイロット》過去の遺物で肖像」 2008年8月19日
 - ③「《ノアの箱舟》白昼夢のような世界」 2008年8月20日
 - ④「《野良犬》画家の自画像か」 2008年8月21日
 - ⑤「《北極》地球温暖化の象徴」 2008年8月22日
- ・「大岩オスカー 夢みる世界」荒木康子『河北新報』2008年8月28日

出品リスト

番号	作品名	制作年	材質・技法	寸法 (cm)	所蔵
1	5月23日通り	1984	カンヴァス・油彩	45.8 × 55.0	大岩照之氏
2	バナナ	1984	麻布、合板・油彩	101.0 × 37.5	アンジェロ・ブッチ・コレクション
3	クジラⅠ	1989	クラフト紙・ペンキ	2100.0 × 230.0	作家
4	クジラⅡ	1989	クラフト紙・ペンキ	2100.0 × 230.0	作家
5	ポップコーン1	1992	合板・アクリル、鉛筆	70.0 × 100.0	作家
6	ポップコーン2	1992	合板・アクリル、鉛筆	70.0 × 100.0	作家
7	ポップコーン3	1992	合板・アクリル、鉛筆	70.0 × 100.0	作家
8	ポップコーン4	1992	合板・アクリル、鉛筆	70.0 × 100.0	作家
9	都市細胞	1993	合板・アクリル、鉛筆	直径 181.3	株式会社クラム・アート
10	とち (栃) の心1	1993	木・アクリル、鉛筆	184.3 × 47.1 × 2.5	作家
11	とち (栃) の心2	1993	木・アクリル、鉛筆	185.0 × 42.0 × 2.2	作家
12	ハチ公のレントゲン a.m.8:00	1993	合板・アクリル、鉛筆	179.9 × 72.9	株式会社クラム・アート
13	ハチ公のレントゲン a.m.10:00	1993	合板・アクリル、鉛筆	129.2 × 73.8	株式会社クラム・アート
14	ハチ公のレントゲン a.m.12:00	1993	合板・アクリル、鉛筆	104.6 × 73.5	株式会社クラム・アート
15	ハチ公のレントゲン p.m.2:00	1993	合板・アクリル、鉛筆	129.3 × 72.9	株式会社クラム・アート
16	ハチ公のレントゲン p.m.4:00	1993	合板・アクリル、鉛筆	75.2 × 180.0	株式会社クラム・アート
17	ゼロセン・パイロット	1994	合板・アクリル、コーヒー、鉛筆	251.0 × 182.0	第一生命保険相互会社
18	ベアトリーチェ	1994	合板・アクリル、鉛筆	244.0 × 158.5	株式会社クラム・アート
19	犬=1日に10m ³ の空気	1994-95	アルミ、皮、ネオン、プラスチック風船、ヘリウムほか	H500.0 × φ 250.0	作家
20	エイジアン ドラゴン	1995	合板・アクリル、鉛筆	182.0 × 546.0	豊田市美術館
21	神様 (展望台) のポートレート	1995	合板・アクリル、鉛筆、鏡	180.3 × 149.0	株式会社クラム・アート
22	『はじめてアート』原画	1995	合板・アクリル、鉛筆	(各) 30.0 × 45.0 : 19点、30.0 × 21.6 : 1点 (20点組)	株式会社クラム・アート
23	カラスの巣	1996	カンヴァス・油彩	227.0 × 222.0	現代美術製作所
24	母と子 (インスタレーション模型)	1996	ミクストメディア	H10.5 × W63.0 × D25.0	作家
25	動物園	1997	カンヴァス・油彩	227.0 × 333.0	作家
26	トンネルの向こうの光	1997	カンヴァス・油彩	227.0 × 333.0	作家
27	ネッシー	1997	カンヴァス・油彩	227.0 × 222.0	作家
28	種シリーズ	1997	紙・水彩、コーヒー、鉛筆	(各) 15.0 × 20.0 (17点組)	現代美術製作所

29	シャドウキャットとライトラビットの出会い1	1998	カンヴァス・油彩	227.0 × 222.0	作家
30	サンライズ1	1999	カンヴァス・油彩	91.0 × 91.0	アルフレッド・チュウ氏
31	サンライズ2	1999	カンヴァス・油彩	91.0 × 91.0	アルフレッド・チュウ氏
32	サンセット	1999	カンヴァス・油彩	91.0 × 91.0	アルフレッド・チュウ氏
33	ノアの箱舟	1999	カンヴァス・油彩	227.0 × 222.0	高橋コレクション
34	モンキー	1999	カンヴァス・油彩	227.0 × 222.0	作家
35	お客様	2000	カンヴァス・油彩	227.0 × 222.0	作家
36	20世紀	2000	カンヴァス・油彩	227.0 × 222.0	高橋コレクション
37	ホワイテ (オス) カー 森	2000	カンヴァス・油彩	227.0 × 444.0	作家
38	ビル1	2000	紙・鉛筆	70.0 × 100.0	東京都現代美術館
39	ビル2	2000	紙・鉛筆	70.0 × 100.0	東京都現代美術館
40	ビル3	2000	紙・鉛筆	70.0 × 100.0	東京都現代美術館
41	ビル4	2000	紙・鉛筆	70.0 × 100.0	東京都現代美術館
42	盆栽5	2000	ミクストメディア	H10.0 × 直径 5.0	曾我高明氏
43	温室効果	2001	カンヴァス・油彩	227.0 × 444.0	作家
44	戦争と平和 (平和)	2001	カンヴァス・油彩	227.0 × 444.0	作家
45	戦争と平和 (戦争)	2001	カンヴァス・油彩	227.0 × 444.0	作家
46	戦争と平和 (ライトボックス)	2001	ライトボックス	直径 20.0 × D8.7	作家
47	盆栽 10 (7年もの)	2001	ミクストメディア	H14.4 × 直径 6.5	GALLERY CAPTION
48	盆栽 11 (7年もの)	2001	ミクストメディア	H14.9 × 直径 6.5	GALLERY CAPTION
49	ガーデニング (マンハッタン)	2002	カンヴァス・油彩	227.0 × 555.0	東京国立近代美術館
50	生存競争1	2002	ミクストメディア	H7.0 × W59.4 × D42.0	作家
51	生存競争2	2002	ミクストメディア	H7.0 × W29.5 × D19.4	作家
52	渡り鳥	2002	ミクストメディア	H40.4 × W17.0 × D78.0	作家
53	ガーデニング (平和への道)	2003	カンヴァス・油彩	227.0 × 444.0	東京国立近代美術館
54	虹	2003	カンヴァス・油彩	227.0 × 555.0	作家
55	カメレオン	2004	カンヴァス・油彩	227.0 × 444.0	高橋コレクション
56	野良犬	2004	カンヴァス・油彩	227.0 × 666.0	アルフレッド・チュウ氏
57	フラワー・ガーデン	2004	カンヴァス・油彩	227.0 × 444.0	広島市現代美術館
58	フラワー・ガーデン (センター)	2004	カンヴァス・油彩	227.0 × 111.0	山下裕二氏
59	ファイアーショップ	2005	カンヴァス・油彩	227.0 × 666.0	作家
60	北極	2007	カンヴァス・油彩	227.0 × 333.0	作家
61	総理大臣の悪夢	2008	カンヴァス・油彩	227.0 × 555.0	作家
62	シャドウキャット	2008	ブロンズ	H39.0 × W50.0 × D35.0	GALLERY CAPTION
63	ライトラビット	2008	白銅	H37.0 × W60.0 × D29.0	GALLERY CAPTION
64	『ART&ist』資料一式	2000			GALLERY CAPTION
65	ドキュメンタリービデオ『大岩オスカル ARTIST 1995-2008』	2008	DVD (30分 48秒)		
66	なすび画廊『1月17日午前5時46分』	1995	牛乳箱、ミクストメディア	H33.0 × W20.0 × D14.5	個人

4. 伊砂利彦 志村ふくみ 二人展

—染める、織る 最前線—

会 期：2008年10月11日(土)～11月24日(月・祝)

会 場：企画展示室 A-1・2・3、B

休館日：毎週月曜日（10月13日、11月3日は開館）、10月14日(火)、
11月4日(火)

観覧料：一般・大学生 700(560)円／高校生 400(320)円／

小・中学生 200(160)円 * () 内は 20名以上の団体料金

観覧者数：6,568名

担 当：佐治ゆかり、伊藤 匡

主 催：福島県立美術館

【概要】

ともに1924(大正13)年9月生まれの伊砂利彦と志村ふくみは、染色・染織の分野で、日本の工芸界をリードし、確かな表現技術で常に革新的な作風を展開してきた。

伊砂利彦は、日本の染織技術の中でも、伝統と多様性をもつ型染という技法を選択して作品を作り続けている作家である。鋭い観察からつかみ出された自然の一瞬は、型染めによって明快な形とリズムを与えられ、普遍的な形象にまで高められる。近年、その作風は洗練の度合いを高め、しばしば制約となる「技術」からも、既成の自然観からも遊離するかのような自在さを示し、刺激的な作品を発表している。

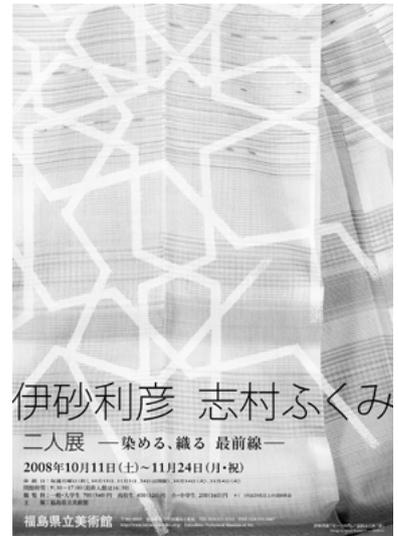
志村ふくみは、草木染めと紬織りの技術を独自に開拓し、1990年に「紬織り」の重要無形文化財保持者に認定、1993年には文化功労者に選ばれている。透明感のある色調と平明な織りが特徴で、着物を中心とした作品を制作している。近年、自らがこれまでに制作してきた布をいかして、貼り交ぜやコラーージュの技法を用いて、現代美術ともいえる自在で独自の作風を展開している。

伊砂、志村の半世紀におよぶ制作者としての過程は、作家個人の歴史であると同時に、伝統と革新との課題の中で大きく変貌を遂げた日本染織界の歴史でもある。既に高い評価を受けている二人の作家の活動の軌跡と現在を、代表作と新作の約100点によって展観した。

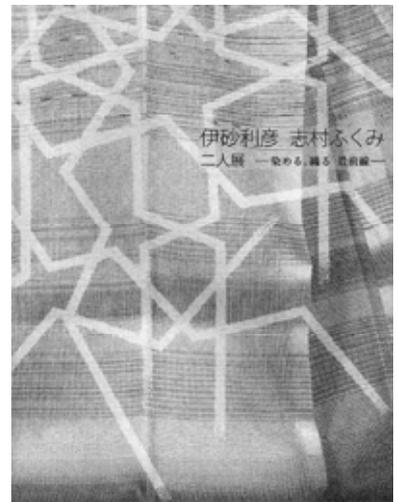
さらに、本展では、伊砂、志村にとって初めての挑戦となる共同制作が実現した。無垢で自由な心と不尽の情熱の共演は、見る者に未知の世界を提示し、創作することの意味と可能性を教えてくれた。

【総括】

日本の染織界を牽引してきた二人の作家の仕事を対比的に展観し、さらに共同制作という初めての試みによる作品の発表ということもあり、工芸分野のファンだけでなく、現代美術の視点からも刺激に満ちた展覧会となった。ことに両作家の講演会は200名近い熱心な聴講者が来館し、熱気に満ち、盛況であった。



B2 ポスター



カタログ表紙

□印刷物

- ポスター (B2)、チラシ (A4)、観覧券、案内ハガキ

- 図録 (29.7 × 22.5cm 152 頁)

図版：カラー 193 点

本文：「私の仕事、作品について」伊砂利彦

「まだこの仕事に憧れをもつなんて…」志村ふくみ

「伊砂利彦と志村ふくみの共同制作 —学芸員の覚書—」

「伊砂利彦と志村ふくみ —形と色の時代—」

佐治ゆかり (当館主任学芸員)

作家年譜／作品目録

□関連事業

- アーティストトーク

① 10月11日(土) 11:00-12:00 志村ふくみ氏 150名参加

② 10月11日(土) 14:00-15:00 伊砂利彦氏 150名参加

会場：企画展示室 A-3 (要観覧券)

- ギャラリートーク 各回とも 14:00-

① 10月25日(土)

② 11月1日(土) *友の会会員対象

③ 11月22日(土)

講師：佐治ゆかり (当館主任学芸員)

会場：企画展示室 (要観覧券) 各 40名参加

□関連記事

- 「伝統の技術に魅了」『福島民友新聞』2008年10月2日

- 「伊砂利彦 志村ふくみ 二人展 染める、織る、最前線」佐治ゆかり

『新美術新聞』2008年10月11日号

- 「伊砂利彦 志村ふくみ 二人展」佐治ゆかり 『河北新報』

2008年10月23日

- 「伊砂利彦 志村ふくみ 二人展 — 84歳の挑戦—」『福島民友新聞』

2008年11月12日

- 「福島で染め・織り作家展」『読売新聞 (福島版)』2008年10月25日

- 「[誌上ギャラリー] 伊砂利彦 志村ふくみ 二人展」佐治ゆかり

『美しいキモノ』2008年秋号 アシエツト婦人画報社

- 「型絵染作家 伊砂利彦の仕事」高橋睦郎『婦人画報』2008年11月号

アシエツト婦人画報社



展示風景



開会式 (10/10)



志村ふくみアーティストトーク (10/11)



伊砂利彦アーティストトーク (10/11)

出品リスト

【伊砂利彦】

番号	作品名	制作年	材質・技法・形状	寸法(着物:丈×桁 cm)	出品歴	所蔵
1	平等院	1955・昭和30	絹・蠟燭・二曲屏風一隻	148.0×138.0	第10回新匠会	
2	伊根の舟小屋	1961・昭和36頃か	絹・蠟燭・二曲屏風一隻	148.0×138.0		伊砂利彦
3	松	1964・昭和39	紙・型絵染・二曲屏風一隻	173.0×190.0	第19回新匠会	京都国立近代美術館
4	松一月待ち一	1965・昭和40	紙・型絵染・二曲屏風一隻	162.0×179.0	第20回新匠会	福島県立美術館
5	松一集約一	1968・昭和43	紙・型絵染・二曲屏風一隻	185.0×190.0	第23回新匠会	福島県立美術館
6	振袖 嫁ぐ日(松模様)	1970・昭和45	友禅、箔・蠟燭・振袖	168.0×65.0		京都国立近代美術館
7	振袖 嫁ぐ日(孔雀模様)	1970・昭和45	友禅・蠟燭・振袖	161.0×65.0		京都国立近代美術館
8-1	水五景 水	1970・昭和45/2008再制作	紙・型絵染・パネル	62.0×45.0		
-2	水五景 来る水	1970・昭和45/2008再制作	紙・型絵染・パネル	62.0×45.0		
-3	水五景 流れと水	1970・昭和45/2008再制作	紙・型絵染・パネル	62.0×45.0		
-4	水五景 朝の水	1970・昭和45/2008再制作	紙・型絵染・パネル	62.0×44.0		
-5	水五景 渦の誕生	1970・昭和45/2008再制作	紙・型絵染・パネル	35.0×65.0		
9	流れ	1971・昭和46	絹・型絵染・着物	171.0×135.0	第26回新匠会	東京国立近代美術館
10	ムソルグスキー作曲「展覧会の絵」のイメージより	1972・昭和47	紙・型絵染・六曲屏風一双	各160.0×240.0	第27回新匠会	福島県立美術館
-1	こびとの踊り					
-2	吟遊詩人					
-3	遊んだあとの子供のけんか(チュイルリー公園にて)					
-4	ポーランドの牛車					
-5	卵の殻をつけたひよこの踊り					
-6	富裕で傲慢なユダヤ人と貧しくて卑屈なユダヤ人の会話					
-7	リモージュの市場					
-8	カタコンプの地下の会話					
-9	魔女の奇行					
-10	キエフの大門					
11-1	河津七滝 大滝	1973・昭和48	紙・型絵染・パネル	149.3×70.9	第28回新匠会	福島県立美術館
-2	河津七滝 出合の滝	1973・昭和48	紙・型絵染・パネル	148.0×69.5	第28回新匠会	福島県立美術館
-3	河津七滝 初景の滝	1973・昭和48	紙・型絵染・パネル	148.0×69.5	第28回新匠会	福島県立美術館
-4	河津七滝 蛇滝	1973・昭和48	紙・型絵染・パネル	148.0×69.5	第28回新匠会	福島県立美術館
-5	河津七滝 エビ滝	1973・昭和48	紙・型絵染・パネル	148.0×69.5	第28回新匠会	福島県立美術館
-6	河津七滝 釜滝	1973・昭和48	紙・型絵染・パネル	148.0×69.5	第28回新匠会	福島県立美術館
12	奥入瀬	1975・昭和50	紙・型絵染・二曲屏風一隻	175.0×190.0	第30回新匠工芸会	東京国立近代美術館
13	朝	1975・昭和50	絹・型絵染・着物	160.0×67.5		
14	八重山の海	1977・昭和52	絹・型絵染・着物	162.0×68.0		
15	瀬	1978・昭和53	紙・型絵染・二曲屏風一隻	168.0×183.0	第33回新匠工芸会	福島県立美術館
16	ムソルグスキー作曲「展覧会の絵」のイメージより 魔女の奇行	1979・昭和54	絹・型絵染・打ち掛け	194.0×66.0	第34回新匠工芸会	東京国立近代美術館
17	ムソルグスキー作曲「展覧会の絵」のイメージより こびとの踊り	1981・昭和56	絹・型絵染・着物	170.0×132.0		東京国立近代美術館
18-1	ドビュッシー作曲「前奏曲集I」のイメージより デルフィの舞姫たち	1981・昭和56	紙・型絵染・額	145.5×89.4	朝日画廊個展	京都国立近代美術館
-2	ドビュッシー作曲「前奏曲集I」のイメージより ヴェール(帆)	1981・昭和56	紙・型絵染・額	145.5×89.4	朝日画廊個展	京都国立近代美術館
-3	ドビュッシー作曲「前奏曲集I」のイメージより 野を渡る風	1981・昭和56	紙・型絵染・額	145.5×89.4	朝日画廊個展	京都国立近代美術館
-4	ドビュッシー作曲「前奏曲集I」のイメージより 音と香りは夕暮の大きに漂う	1981・昭和56	紙・型絵染・額	145.5×89.4	朝日画廊個展	京都国立近代美術館
-5	ドビュッシー作曲「前奏曲集I」のイメージより アナカプリの丘	1981・昭和56	紙・型絵染・額	145.5×89.4	朝日画廊個展	京都国立近代美術館
-6	ドビュッシー作曲「前奏曲集I」のイメージより 雪の上のあゆみ	1981・昭和56	紙・型絵染・額	145.5×89.4	朝日画廊個展	京都国立近代美術館

-7	ドビュッシー作曲「前奏曲集Ⅰ」のイメージより	西風の見たもの	1981・昭和56	紙・型絵染・額	145.5 × 89.4	朝日画廊個展	京都国立近代美術館
-8	ドビュッシー作曲「前奏曲集Ⅰ」のイメージより	亜麻色の髪の乙女	1981・昭和56	紙・型絵染・額	145.5 × 89.4	朝日画廊個展	京都国立近代美術館
-9	ドビュッシー作曲「前奏曲集Ⅰ」のイメージより	とだえたセレナード	1981・昭和56	紙・型絵染・額	145.5 × 89.4	朝日画廊個展	京都国立近代美術館
-10	ドビュッシー作曲「前奏曲集Ⅰ」のイメージより	沈める寺	1981・昭和56	紙・型絵染・額	145.5 × 89.4	朝日画廊個展	京都国立近代美術館
-11	ドビュッシー作曲「前奏曲集Ⅰ」のイメージより	パックの踊り	1981・昭和56	紙・型絵染・額	145.5 × 89.4	朝日画廊個展	京都国立近代美術館
-12	ドビュッシー作曲「前奏曲集Ⅰ」のイメージより	ミンストレル	1981・昭和56	紙・型絵染・額	145.5 × 89.4	朝日画廊個展	京都国立近代美術館
19-1	ドビュッシー作曲「前奏曲集Ⅱ」のイメージより	霧	1983・昭和58	紙・型絵染・額	145.5 × 89.4	第38回新匠工芸会	京都国立近代美術館
-2	ドビュッシー作曲「前奏曲集Ⅱ」のイメージより	枯葉	1983・昭和58	紙・型絵染・額	145.5 × 89.4	第38回新匠工芸会	京都国立近代美術館
-3	ドビュッシー作曲「前奏曲集Ⅱ」のイメージより	ビーノの門	1983・昭和58	紙・型絵染・額	145.5 × 89.4	第38回新匠工芸会	京都国立近代美術館
-4	ドビュッシー作曲「前奏曲集Ⅱ」のイメージより	妖精はよい踊子	1983・昭和58	紙・型絵染・額	145.5 × 89.4	第38回新匠工芸会	京都国立近代美術館
-5	ドビュッシー作曲「前奏曲集Ⅱ」のイメージより	ヒースの茂る荒地	1983・昭和58	紙・型絵染・額	145.5 × 89.4	第38回新匠工芸会	京都国立近代美術館
-6	ドビュッシー作曲「前奏曲集Ⅱ」のイメージより	変わり者のラヴィーンヌ將軍	1983・昭和58	紙・型絵染・額	145.5 × 89.4	第38回新匠工芸会	京都国立近代美術館
-7	ドビュッシー作曲「前奏曲集Ⅱ」のイメージより	月の光がふりそそぐテラス	1984・昭和59	紙・型絵染・額	145.5 × 89.4	資生堂ギャラリー個展	京都国立近代美術館
-8	ドビュッシー作曲「前奏曲集Ⅱ」のイメージより	水の精	1984・昭和59	紙・型絵染・額	145.5 × 89.4	資生堂ギャラリー個展	京都国立近代美術館
-9	ドビュッシー作曲「前奏曲集Ⅱ」のイメージより	ピックウィック卿をたたえて	1984・昭和59	紙・型絵染・額	145.5 × 89.4	第39回新匠工芸会	京都国立近代美術館
-10	ドビュッシー作曲「前奏曲集Ⅱ」のイメージより	カノーブ	1984・昭和59	紙・型絵染・額	145.5 × 89.4	第39回新匠工芸会	京都国立近代美術館
-11	ドビュッシー作曲「前奏曲集Ⅱ」のイメージより	交代する三度	1984・昭和59	紙・型絵染・額	145.5 × 89.4	資生堂ギャラリー個展	京都国立近代美術館
-12	ドビュッシー作曲「前奏曲集Ⅱ」のイメージより	花火	1984・昭和59	紙・型絵染・額	145.5 × 89.4	第39回新匠工芸会	京都国立近代美術館
20	ドビュッシー作曲「前奏曲集Ⅰ」のイメージより	デルフィの舞姫たち	1984・昭和59頃	絹・型絵染・着物	172.0 × 137.0		東京国立近代美術館
21	ドビュッシー作曲「前奏曲集Ⅰ」のイメージより	パックの踊り	1984・昭和59頃	絹・型絵染・着物	172.0 × 137.0		東京国立近代美術館
22	ドビュッシー作曲「前奏曲集Ⅱ」のイメージより	ヒースの茂る荒地	1984・昭和59頃	絹・型絵染・着物	171.0 × 140.0		東京国立近代美術館
23	ドビュッシー作曲「前奏曲集Ⅱ」のイメージより	花火	1985・昭和60	絹・型絵染・着物	165.0 × 130.0		東京国立近代美術館
24-1	焰の習作	静	1985・昭和60	紙・型絵染	146.0 × 90.0	個展（ギャラリー三条）	
-2	焰の習作	華	1985・昭和60	紙・型絵染	170.0 × 100.0	個展（ギャラリー三条）	
-3	焰の習作	艶	1985・昭和60	紙・型絵染	170.0 × 100.0	個展（ギャラリー三条）	
-4	焰の習作	聖	1985・昭和60	紙・型絵染	170.0 × 100.0	個展（ギャラリー三条）	
-5	焰の習作	怨	1985・昭和60	紙・型絵染	146.0 × 90.0	個展（ギャラリー三条）	
25	スクリヤービン作曲「焰に向かって」のイメージより		1985・昭和60	紙・型絵染・四曲屏風一隻	150.0 × 370.0	第40回新匠工芸会	京都府立総合資料館 （京都府京都市文化博物館）
26-1	長唄娘道成寺より	序（花のほかには松ばかり）	1988・昭和63	紙・型絵染・四曲一隻	178.5 × 338.0	第43回新匠工芸会	福島県立美術館

-2	長唄娘道成寺より 恋 (恋の手習いつい見習いて)	1988・昭和63	紙・型絵染・四曲一隻	178.5 × 338.0	第43回新匠工芸会	福島県立美術館
-3	長唄娘道成寺より 怨 (うらみうらみて)	1988・昭和63	紙・型絵染・四曲一隻	178.5 × 338.0	第43回新匠工芸会	福島県立美術館
27	沖縄戦で逝きし人々にささげる鎮魂歌	1991・平成3	紙・型絵染・二曲屏風一双	各171.8 × 188.0	第46回新匠工芸会	福島県立美術館
28	浅瀬の小春日和	1991・平成3	紙・型絵染・二曲屏風	150.0 × 148.0	第46回新匠工芸会	
29	海に逝きし人々にささげる鎮魂歌	1992・平成4	紙・型絵染・二曲屏風一双	各171.8 × 188.0	第47回新匠工芸会	福島県立美術館
30	海のプレリュード 朝	1992・平成4	紙・型絵染・二曲屏風	150.0 × 148.0	第44回京展	
31	私の海	1993・平成5	紙・型絵染・二曲屏風一双	178.5 × 338.0	第48回新匠工芸会	
32	海に入った太陽	1994・平成6	紙・型絵染・パネル	205.0 × 120.0	第49回新匠工芸会	
33	無機的表现による阿吽	1995・平成7	紙・型絵染・二曲屏風一双	各173 × 190	第50回新匠工芸会	
34-1	飛ぶI	1999・平成11	紙・型絵染・パネル	88.0 × 144.5	新匠会春期展	
-2	飛ぶII	1999・平成11	紙・型絵染・パネル	88.0 × 144.5	新匠会春期展	
35-1	月四部作 松林月照	2001・平成13	紙・型絵染	280 × 380	染・清流展第15回記念	
-2	月四部作 みずもの月	2001・平成13	紙・型絵染	280 × 380	染・清流展第15回記念	
-3	月四部作 月之道	2001・平成13	紙・型絵染	280 × 380	染・清流展第15回記念	
-4	月四部作 山湖寒月	2001・平成13	紙・型絵染	280 × 380	染・清流展第15回記念	
36	散	2003・平成15	紙・型絵染・二曲屏風	231.0 × 225.0	第58回新匠工芸会	
37	燦	2004・平成16	紙・型絵染・二曲屏風	231.0 × 225.0	第59回新匠工芸会	
38-1	花	2005・平成17/2008再制作	紙・型絵染・パネル	69.5 × 219.0	京都迎賓館装飾作品	
-2	一文字松	2005・平成17/2008再制作	紙・型絵染・パネル	69.5 × 219.0	京都迎賓館装飾作品	
39	着物 大聖堂	2007・平成19	絹・型絵染・着物	丈178.0 × 衿74.0	第62回新匠工芸会	

【志村ふくみ】

番号	作品名	制作年	材質・技法・形状	寸法(着物:丈×衿cm)	出品歴	所蔵
40	方形文綴織単帯	1957・昭和32	絹、草木染・手織	巾29.7 × 377.0	第4回日本伝統工芸展	
41	秋霞	1959・昭和34	絹紬、草木染・手織	153.0 × 63.5		京都国立近代美術館
42	鈴虫	1959・昭和34	絹紬、草木染・手織	154.6 × 64.0	第6回日本伝統工芸展	群馬県立近代美術館
43	七夕	1960・昭和35	絹紬、草木染・手織	168.0 × 64.5	第7回日本伝統工芸展	京都国立近代美術館
44	霧	1961・昭和36	絹紬、草木染・手織	152.7 × 66.0	第8回日本伝統工芸展	滋賀県立近代美術館
45	蘇芳格子	1962・昭和37	絹紬、草木染・手織	154.5 × 66.0	新匠会	滋賀県立近代美術館
46	竹篁	1962・昭和37	絹紬、草木染・手織	155.7 × 67.0	新匠会	滋賀県立近代美術館
47	初雪	1964・昭和39	絹紬、草木染・手織	156.8 × 66.0	第1回個展	滋賀県立近代美術館
48	みなくれない	1964・昭和39	絹紬、草木染・手織	158.2 × 66.5	第11回日本伝統工芸展	滋賀県立近代美術館
49	桑浪	1966・昭和41	絹紬、草木染・手織	164.0 × 67.0	第3回染色展	滋賀県立近代美術館
50	朱の豎縞	1966・昭和41	絹紬、草木染・手織	164.3 × 65.5	第13回日本伝統工芸展	滋賀県立近代美術館
51	茜	1967・昭和42	絹紬、草木染・手織	162.6 × 65.0	第2回個展	滋賀県立近代美術館
52	海月	1970・昭和45	絹紬、草木染・手織	161.8 × 66.0	第3回個展	滋賀県立近代美術館
53	梔子熨斗目	1970・昭和45	絹紬、草木染・手織	157.7 × 65.2	第3回個展	滋賀県立近代美術館
54	藍生葉染浅黄格子	1974・昭和49	絹紬、草木染・手織	158.2 × 66.0		滋賀県立近代美術館
55	ベルシャ格子	1974・昭和49	絹紬、草木染・手織	167.3 × 66.0	第4回個展	滋賀県立近代美術館
56	紫の壱	1974・昭和49	絹紬、草木染・手織	162.5 × 66.5	第21回伝統工芸展	滋賀県立近代美術館
57	靱	1975・昭和50	絹紬、草木染・手織	143.0 × 66.5		
58	水瑠璃	1976・昭和51	絹紬、草木染・手織	160.0 × 65.0		東京国立近代美術館
59	雪	1976・昭和51	絹紬、草木染・手織	156.2 × 64.5		
60	紅襲(桜かさね)	1976・昭和51	絹紬、草木染・手織	168.2 × 66.0	第5回個展	滋賀県立近代美術館
61	虫襖(むしあお)	1978・昭和53	絹紬、草木染・手織	171.0 × 66.0		東京国立近代美術館
62	蘇芳段量し	1978・昭和53	絹紬、草木染・手織	167.0 × 66.0		東京国立近代美術館
63	湖上夕照	1979・昭和54	絹紬、草木染・手織	168.0 × 69.7	第26回日本伝統工芸展	滋賀県立近代美術館
64	藍白黄緑段	1979・昭和54	絹紬、草木染・手織	155.5 × 64.0		
65	桜の園	1979・昭和54	絹紬、草木染・手織	156.0 × 63.0		

66	マルコ	1981・昭和56	絹紬、草木染・手織	167.2 × 66.3		群馬県立近代美術館
67	石斛	1981・昭和56	絹紬、草木染・手織	154.2 × 67.0	第6回個展	滋賀県立近代美術館
68	藍すじ白十字	1982・昭和57	絹紬、草木染・手織	140.2 × 67.2		
69	紫白段	1983・昭和58	絹、草木染・手織	143.0 × 67.2	個展	
70	五節 (No.1)	1983・昭和58	絹紬、草木染・手織	164.7 × 66.0		滋賀県立近代美術館
71	山野	1984・昭和59	絹紬、草木染・手織	171.0 × 66.0	第8回個展	滋賀県立近代美術館
72	花かげ (色と光)	1984・昭和59	絹紬、草木染・手織	171.0 × 66.0	第8回個展	滋賀県立近代美術館
73	風鐸	1984・昭和59	絹紬、草木染・手織	164.7 × 68.6	第31回日本伝統工芸展	滋賀県立近代美術館
74	翠淵	1987・昭和62	絹紬、草木染・手織	168.0 × 67.8	第9回個展 (東京・壺中居)	群馬県立近代美術館
75	どんぐりグレイの段	1988・昭和63	絹紬、草木染・手織	166.3 × 66.0		滋賀県立近代美術館
76	野の風	1989・平成元	絹紬、草木染・手織	156.0 × 64.0		
77	秋雷	1989・平成元	絹紬、草木染・手織	157.0 × 65.0		
78	水の段	1991・平成3	絹紬、草木染・手織	156.0 × 65.0		
79	沈める寺	1991・平成3	絹紬、草木染・手織	167.3 × 66.5		群馬県立近代美術館
80	撰	1991c.・平成3頃	絹紬、草木染・手織	156.0 × 64.5		
81	光の湖	1992・平成4	絹紬、草木染・手織	162.5 × 66.5		京都国立近代美術館
82	聖堂	1992・平成4	絹紬、草木染・手織	163.5 × 68.0		滋賀県立近代美術館
83	夕映	1992・平成4	絹紬、草木染・手織	168.5 × 68.0		
84	風	1993・平成5	絹紬、草木染・手織	153.0 × 63.5		
85	水門	1994・平成6	絹紬、草木染・手織	169.7 × 69.0		滋賀県立近代美術館
86	青綾	1998・平成10	絹紬、草木染・手織	153.0 × 64.0		
87	葵	1999・平成11	絹紬、草木染・手織	173.0 × 68.2		滋賀県立近代美術館
88	如月	1999・平成11	絹紬、草木染・手織	168.0 × 63.5		
89	紅葉賀	2000・平成12	絹紬、草木染・手織	154.0 × 63.8		
90	賢木	2000・平成12	絹紬、草木染・手織	175.0 × 68.0		滋賀県立近代美術館
91	夕霧	2001・平成13	絹紬、草木染・手織	143.5 × 63.2		
92	たまゆら	2001・平成13	絹紬、草木染・手織	162.0 × 79.5		
93	朝顔	2001・平成13	絹紬、草木染・手織	169.8 × 68.5		滋賀県立近代美術館
94	青嵐	2002・平成14	絹紬、草木染・手織	169.0 × 64.5		
95	野薔薇 嵯峨にて	2002・平成14	絹紬、草木染・手織	170.5 × 70.0		
96	明石の姫	2003・平成15	絹紬、草木染・手織	81.2 × 45.0		滋賀県立近代美術館
97	夕顔	2003・平成15	絹紬、草木染・手織	172.5 × 69.0		滋賀県立近代美術館
98	蛍	2004・平成16	絹、草木染・手織	174.7 × 67.0		滋賀県立近代美術館
99	奥琵琶	2005・平成17	絹紬、草木染・手織	172.3 × 67.0		
100	海調	2006・平成18	絹紬、草木染・手織	153.0 × 64.0		
101	歡びの階梯	2008・平成20	絹紬、草木染・手織	169.0 × 67.0		
102	サーカス	2008・平成20		26.5 × 42.5		
103	ピノキオ	2008・平成20		35.5 × 52.8		
104	ピナゴ	2008・平成20		30.8 × 37.8		
105	青い峰	2008・平成20		26.0 × 22.0		
106	式部	2008・平成20		23.5 × 22.5		
107	五月のウナ電	2008・平成20		30.5 × 137.0		
108	こぎれ帖	2001・平成13		29.0 × 28.0 × 巾 3.0		
109	小裂帳	2005・平成17		29.0 × 28.0 × 巾 4.0		
110	染糸					滋賀県立近代美術館

【伊砂利彦／志村ふくみ (共同制作)】

番号	作品名	制作年	材質・技法・形状	寸法 (着物：丈×桁 cm)	出品歴	所蔵
111	磯なれ松	2008・平成20	絹紬、草木染・手織／紙・型絵染・着物	165.0 × 68.5	伊砂利彦 志村ふくみ 二人展	
112	水の戯れ	2008・平成20	絹紬、草木染・手織／紙・型絵染・六曲屏風一隻	145.3 × 219.0	伊砂利彦 志村ふくみ 二人展	

5. 福島の新世代 2009 CLOSE TO YOU! — もっと近くに

会 期：2009年1月10日(土)～3月1日(日)
 会 場：企画展示室 A-1・2・3
 休館日：毎週月曜日（1月12日は開館）、1月13日(火)、2月12日(木)
 観覧料：一般・大学生 400(320)円／高校生 200(160)円／
 小・中学生 100(80)円 * ()内は20名以上の団体料金
 観覧者数：2,817名
 担 当：宮武 弘、橋本淳也

主 催：福島県立美術館、NPO 法人福島県立美術館協力会
 協 力：国立大学法人福島大学行政政策学類
 協 賛：岩谷産業株式会社
 後 援：会津若松市教育委員会、石川町教育委員会、郡山市教育委員会
 助 成：財団法人朝日新聞文化財団

【概要】

＜福島の新世代＞は、福島県ゆかりの若手作家紹介を目的としたシリーズ企画で、1996年・1998年・2001年・2005年（「New Spirits 福島展」として開催）に続いて、本展が通算5回目となる。今回は3名（組）の作家を取り上げた。

会津若松市出身の宇田義久（1966年生まれ）は、画面に糸を貼りこむ独自の技法による絵画『water-line』シリーズから近作および新作を発表。会場では作品の制作状況を記録したビデオをあわせて上映、その作品世界を紹介した。

郡山市出身の金暎淑（1974年生まれ）は、絵画、映像など多様な表現を手がけているが、今回は自らの葬式をテーマに、100日間にわたり毎日撮影した写真と、ハンゲルと日本語を織り交ぜた語りで構成されたインスタレーションを制作した。

石川郡石川町出身の車田智志乃と埼玉県出身の土谷亨による二人組のユニット、KOSUGE1-16（ともに1977年生まれ）は、県内の小学生と共同で煎餅作りプロジェクトを立ち上げた。原料となる米作りから長期にわたって取り組んだドキュメントと作家の自宅の再現により、大型インスタレーションとして展開した。

いずれも県外在住で、県内でのまとまった発表ははじめてという清新な顔ぶれによる展覧となった。また本展にあわせて、各作家の出身校との連携によるワークショップやレクチャーなど館外での活動も取り入れることで、現代アートの関口を広げる試みを盛り込んだ。

【総括】

既成の表現にとらわれない若手アーティストたちの取り組みを紹介するという観点から、会場では三者三様の個性的な空間が創出された。

抽象絵画とインスタレーションという、一般に馴染みの薄い表現を取り上げたためか、来場者の反応は「これからも新しい作品を取り上げてほしい」という好意的な意見と、「意味が分からない」という否定的な意見とに大きく分かれた。その一方で、作品制作や関連イベントを通じて学校との連携を打ち出した効果もあり、会期中は学生、生徒をはじめ若い世代の姿が多く見られたのが印象的であった。

また本県ゆかりの作家展ということから、新聞・テレビ等、県内マスメディアを通じて活発な報道紹介がなされた。



B3 ポスター



リーフレット表紙

□印刷物

- ・ポスター（B3）、チラシ（A5）、観覧券、案内状
- ・リーフレット（A5判 46頁）
 図版：カラー 30頁
 本文：「地域を変革する触媒装置としての美術館」
 辻みどり（福島大学行政政策学類教授）
 「ディスタンス—『福島の新世代 2009』をめぐって」
 宮武 弘（当館主任学芸員）
 出品歴／参考文献／出品リスト

□関連事業

- ・KOSUGE1-16「ケンピ煎餅」体験ワークショップ
 1月10日(土) 13:00-16:00 計30名参加
 会場：美術館実習室ほか（参加無料）

- ・宇田義久 公開制作&トーク
 1月24日(日) 13:30- 70名参加
 会場：企画展示室および実習室（要観覧券）

- ・金暎淑ギャラリートーク
 2月15日(日) 13:30- 50名参加
 会場：企画展示室（要観覧券）

- ・学芸員によるギャラリートーク
 ① 1月17日(土) 13:30- 5名参加
 ② 2月28日(土) 13:30- 10名参加
 会場：企画展示室（要観覧券）

・学校連携事業

① KOSUGE1-16「ケンピ煎餅」プロジェクト

稲作体験から煎餅づくりまで、県内の小学生と半年がかりで取り組んだ。

2008年 5月21日(火) 田植え

2008年 10月14日(火) 稲刈り

2008年 11月19日(火)・20日(木)・26日(火)・27日(木) 煎餅作り

対象：福島県石川町立石川小学校 6年生 73名

ボランティア協力：福島大学行政政策学類 1年生 7名

会場：福島県石川町立石川小学校 学習田、調理室ほか

②宇田義久レクチャー

作家による講演のあと、生徒による卒業制作を鑑賞し感想を述べ合った。

1月17日(日) 13:30-15:30

対象：福島県立保原高等学校 3年・選択美術受講生 23名

会場：福島県立保原高等学校 視聴覚室、美術室

③金暎淑ワークショップ「未来の私の自己紹介」

現在の自分の写真をもとに、未来の自分の姿を思い思いに描いて発表した。

2月14日(土) 13:30-17:00

対象：福島朝鮮初中級学校生徒 13名

会場：企画展示室および実習室



宇田義久『water-line』展示風景



金暎淑『毎日死んでいく私のためのお葬式』展示風景



KOSUGE1-16『ケンピ煎餅』展示風景（撮影：石田亮介）

□関連記事／放送

<印刷媒体>

- ・「コメからせんべいづくりアートを」『石川町民ニュース』2008年5月22日
- ・「せんべいも作品 芸術家と一緒に制作」『福島民報』2008年11月20日
- ・「本県ゆかりの若手作家紹介 きょうから新世代展」『福島民報』2009年1月10日
- ・「『新世代展』が開幕 県ゆかりの若手作家紹介」『福島民報』2009年1月11日
- ・「絵画や写真で個性表現 福島の新世代2009」『福島民友』2009年1月11日
- ・「煎餅焼いて芸術体験」『河北新報』2009年1月13日
- ・「福島ゆかりの芸術家展」『読売新聞』2009年1月15日
- ・「福島の新世代2009」森 哲也（文化部）『福島民友』2009年1月21日
- ・「福島の新世代2009」宮武 弘『河北新報』2009年1月22日
- ・「宇田さん画家人生語る」『福島民友』2009年1月23日
- ・「美術家と高校生交流」『福島民報』2009年1月24日
- ・「金さんが作品解説」『福島民友』2009年2月2日
- ・「煎餅アート出展に感激」『福島民報』2009年2月7日
- ・「三つの視点 福島の新世代2009展」宮武 弘『福島民報』
 - ④「宇田義久 新しい絵画表現の姿」2008年2月8日
 - ⑤「金暎淑 葬儀100日死生観問う」2008年2月15日
 - ⑥「KOSUGE1-16 プロセスこそが芸術」2009年2月22日
- ・「金さん、作品を解説」『福島民報』2009年2月21日
- ・「[輝け！ニューフェイス'09] 金暎淑さん」『週刊郡山ザ・ウィークリー』2009年2月21日
- ・「朝大卒の美術家、金暎淑さん 生と死をテーマに展示」『統一日報』2009年2月25日
- ・「[TRY 東北人] 金暎淑さん」『河北新報』2009年3月9日

<放送媒体>

- ・「イブニング6」『テレビユー福島』2008年11月19日放送
- ・「ゴジてれChu!：小学生が『せんべいアート』」『福島中央テレビ』2008年11月26日放送
- ・「FTV スーパーニュース」『福島テレビ』2008年11月26日放送
- ・「イブニング6：児童が“せんべい”づくり」『テレビユー福島』2008年11月26日放送
- ・「ゲーテン：ワッキー貝山のキテます!!」『テレビユー福島』2009年1月15日放送 *生中継
- ・「はまなかあいづ TODAY：ギャラリー散歩『福島の新世代2009』」『NHK 福島放送局』2009年2月4日放送
- ・「FTV スーパーニュース：“せんべい”がすてきなアートに」『福島テレビ』2009年2月6日放送
- ・「ふくみみ：ギャラリー散歩『福島の新世代2009』」『NHK 福島放送局』2009年2月21日放送



KOSUGE1-16 石川小での田植え（'08/5/21）



KOSUGE1-16 ワークショップ（'09/1/10）



宇田義久 学校連携レクチャー（1/14）



宇田義久 公開制作&トーク（1/16）



金暎淑 学校連携ワークショップ（2/14）



金暎淑 ギャラリートーク（2/15）

出品リスト

番号	作品名	制作年	材質・技法	寸法 (cm)	所蔵
【宇田義久】					
1	water-line 2 (yellow)	2006	パネル、木綿布・糸、アクリル、ウレタンニス	91.0 × 91.0	諄子美術館
2	water-line 7 (blue)	2006	パネル、木綿布・糸、アクリル、ウレタンニス	91.0 × 91.0	個人
3	water-line 8 (blue.white)	2006	パネル、木綿布・糸、アクリル、ウレタンニス	91.0 × 91.0	諄子美術館
4	water-line 9 (blue)	2006	パネル、木綿布・糸、アクリル、ウレタンニス	52.5 × 91.5	個人
5	water-line 10 (green)	2006	パネル、木綿布・糸、アクリル、ウレタンニス	52.5 × 91.5	作家
6	water-line 11 (yellow)	2006	パネル、木綿布・糸、アクリル、ウレタンニス	130.0 × 130.0	作家
7	water-line (yellow)	2006	パネル、木綿布・糸、アクリル、ウレタンニス	33.5 × 33.5	作家
8	water-line (orange)	2006	パネル、木綿布・糸、アクリル、ウレタンニス	33.5 × 33.5	作家
9	water-line 07-1 (white)	2007	パネル・糸、アクリル、ウレタンニス	152.0 × 152.0	作家
10	water-line 07-2 (yellow)	2007	パネル・糸、アクリル、ウレタンニス	160.0 × 148.0	作家
11	water-line 08-01 (yellow)	2008	パネル・糸、アクリル、ウレタンニス	134.0 × 134.0	作家
12	water-line 08-02 (blue)	2008	パネル・糸、アクリル、ウレタンニス	134.0 × 134.0	作家
13	water-line 08-03 (yellow)	2008	パネル・糸、アクリル、ウレタンニス	88.0 × 88.0	作家
14	water-line 08-04 (purple)	2008	パネル・糸、アクリル、ウレタンニス	88.0 × 88.0	作家
15	water-line 08-05 (green)	2008	パネル・糸、アクリル、ウレタンニス	88.0 × 88.0	作家
16	water-line 08-06 (red)	2008	パネル・糸、アクリル、ウレタンニス	182.0 × 240.0 (パネル 2 枚組)	作家
17	water-line 08-07 (black)	2008	パネル・糸、アクリル、ウレタンニス	150.0 × 250.0 (パネル 2 枚組)	作家
18	water-line 08-08 (yellow.orange)	2008	パネル・糸、アクリル、ウレタンニス	180.0 × 240.0 (パネル 2 枚組)	作家
19	water-line yellow-08	2008	パネル・糸、アクリル、ウレタンニス	43.0 × 43.0	個人
20	water-line orange-08	2008	パネル・糸、アクリル、ウレタンニス	43.0 × 43.0	個人
21	water-line green-08	2008	パネル・糸、アクリル、ウレタンニス	43.0 × 43.0	個人
22	water-line blue-08	2008	パネル・糸、アクリル、ウレタンニス	43.0 × 43.0	個人
【金 暎淑】					
23	毎日死んでいく私のためのお葬式	2008	ミクストメディア	— (サイズ可変)	作家
【KOSUGE1-16】					
24	ケンピ煎餅	2008	ミクストメディア	— (サイズ可変)	作家

6. アンドリュー・ワイエス 創造への^{みち}道程

会 期：2009年3月17日(火)～5月10日(日)
 会 場：企画展示室 A-1・2・3、B
 休館日：3月23日(月)、30日(月)、4月6日(月)、13日(月)、20日(月)
 観覧料：一般 1,200(900)円／大学生 800(500)円／
 小・中・高校生 400(200)円／男女ペア当日券 2,000円
 ＊()内は前売および20名以上の団体料金
 観覧者数：3,592名(2009年3月31日まで)
 担 当：荒木康子、吉村有子

主 催：福島県立美術館、福島テレビ
 共 催：NPO 法人福島県立美術館協力会
 特別協力：アンドリュー・ワイエス夫妻、丸沼芸術の森
 後 援：在日米国大使館
 協 賛：損害保険ジャパン、大日本印刷
 協 力：全日本航空

【概要】

2009年1月に死去したアメリカの画家アンドリュー・ワイエスの回顧展。愛知県美術館、BUNKAMURA ザ・ミュージアムとの共同企画である。

ワイエスの大規模な展覧会は、1995年以来14年振りになる。

今回は、一枚の絵が出来上がるまでの過程を鉛筆スケッチから水彩画、そしてテンペラという技法による本画によって示し、画家の創作の秘密に迫る内容であった。

なお、本展は福島テレビとの実行委員会方式によって開催された。

□印刷物

- ・ポスター (B2)、チラシ (A4)、観覧券、案内状
- ・出品目録 (A3 二つ折り)
- ・図録 (27.9 × 22.8cm 208頁)
 - 図版：カラー 154点
 - 本文：「メッセージ」アンドリュー・ワイエス
 - 「展覧会によせて」須崎勝茂 (丸沼芸術の森代表)
 - 「アンドリュー・ワイエス—創造への道程」高橋秀治 (愛知県美術館美術課長)
 - 「松並木—折り重ねられた意味をめぐって」荒木康子 (当館主任学芸員)
 - 「ワイエスの世界に導かれて」中村音代 (丸沼芸術の森学芸スタッフ)
 - 章解説／作品解説／年譜／主要展覧会歴／関連地図／主要文献目録／出品目録



B2 ポスター



チラシ

□関連事業（2009年3月31日開催分まで）

- ・プレ・イベント「スプリング・コンサート」
3月7日(土) 14:00- 計200名参加
主催：福島県立美術館、福島県立美術館友の会、福島県立美術館協力会
演奏：北村英治氏（クラリネット）、宮之上貴昭氏（ギター）
会場：美術館エントランスホール（入場無料）
- ・特別ギャラリートーク「ワイエスと丸沼芸術の森」
3月17日(火) 14:00- 70名参加
講師：須崎勝茂氏（丸沼芸術の森代表）、
中村音代氏（丸沼芸術の森ワイエス担当学芸スタッフ）
会場：企画展示室（要観覧券）
- ・ギャラリートーク
3月28日(日) 14:00- 70名参加
講師：荒木康子（当館主任学芸員）
会場：企画展示室（要観覧券）

□関連記事（2009年3月31日掲載分まで）

- ・「アンドリュー・ワイエス追悼」荒木康子『福島民報』2009年2月2日
- ・「ワイエス展—県立美術館 物語の秘密」荒木康子『福島民報』
 - ①「創造の道程 対象を見つめ紡ぎ出す」2009年3月8日
 - ②「メイン州のオルソン姉弟 存在のはかなさ描く」2009年3月15日
 - ③「隣人にそそがれる視線 誇り高きメインの男」2009年3月22日
 - ④「ペンシルベニア州のカーナー夫妻 歴史の瞬間感じ取る」
2009年3月29日
- ・「ワイエス展 高まる期待 開幕前に開会式と内覧会」
『福島民報』2009年3月17日
- ・「ワイエス展きょう開幕 県立美術館内覧会開く」『福島民友』
2009年3月17日
- ・「人間の美 精密描写 ワイエス展きょう開幕」『河北新報』
2009年3月17日
- ・「巨匠の歩みたどる 150点—ワイエス展開幕」『福島民報』
2009年3月18日
- ・「アンドリュー・ワイエス 創造への道程」荒木康子『河北新報』
2009年3月26日

普及事業

◆館内解説

当館では、随時要請に応じて、以下のような館内解説を行っている。また、常設展における解説シートの作成、コレクションレクチャー、ギャラリートークなどとの連携により、効果的な美術館ガイドランスをめざしている。

□団体解説

学校教育や学習センター等の社会教育活動の活発化に伴い、団体で美術館を訪れる機会も増えている。そのほとんどが展覧会や館内の案内・解説を希望するため、学芸員が交替で対応している。通常は他の展覧会鑑賞者への配慮から、展示室外での解説を行っている。内容は当館の概要、および代表的な収蔵品の解説、コレクション展ならびに企画展の解説案内が中心である。

4月12日～3月31日の開館期間での団体総数は121件、のべ4,705人。そのうち解説を行った団体数は67件、のべ3,342人であった。

□質問電話

当館では、展示室の各所に「質問電話」を設置し、展示品や美術全般についての観覧者からの質問に答えている。学芸員が直接応答するユニークなホットライン・サービスである。

◆鑑賞講座

国内外のさまざまな時代の美術について、多様な視点から作家・作品を解説し、楽しみながら美術への関心を高める講座である。前年度に引き続き、館長・酒井哲朗による近代日本美術史講座を開講した。

館長講座「近代の日本美術を語る」（事前申込制・58名参加）

	開催日時	テーマ		開催日時	テーマ
第36回	4月26日	特別編:「三重県美名品展」関連 日本絵画の魅力	第41回	10月18日	特別編:モディリアニの芸術
第37回	5月17日	近代美術の展開9	第42回	11月15日	近代美術の展開12
第38回	6月21日	DVD鑑賞	第43回	12月20日	近代美術の展開13
第39回	7月19日	近代美術の展開10	第44回	1月17日	近代美術の展開14
第40回	8月16日	近代美術の展開11	第45回	2月21日	近代美術の展開15
			第46回	3月21日	近代美術の展開16

◆キッズ・レクチャー

「アート・キューブ」を使ってコレクション展を楽しむ小学生対象の美術鑑賞講座。2007年度より年2回開催。

日程：2008年11月1日 … 小学生3名、保護者2名

2009年2月22日 … 小学生8名、保護者6名

案内：橋本淳也（当館主任学芸員）



◆博物館実習の受け入れ

博物館学芸員資格取得に必要な「博物館実習」について、当館での受講希望の学年を毎年受け入れている。今年度は下記の日程に基づき、当館学芸員が講義・指導を行った。

2008年度博物館実習 日程：2008年7月29日～8月3日（計6日間）

実習生：13大学 計15名受講

◆実技教室

実技教室は、実制作の体験を通して、表現の喜びを味わい、美術について理解を深めるための、子供から大人まで様々な年齢・対象に応じた実技・実習プログラムである。それぞれの対象に応じた美術の本来的な創作の体験・過程を重視し、リラックスしてあれこれ思いをめぐらしながら取り組めることを何よりも大切にして、十分な時間を設定したプログラムを実施している。

各種教室・講座は以下の5種類を行っている。一般初心者を対象に、じっくりと作品制作に取り組める「実技講座」、美術の様々な技法を紹介・体験する「技法講座」、親子で美術に親しむことを目的とした「親と子の美術教室」、小学生を対象とした「わんぱくミュージアム」、中学生から一般まで気軽に創作を体験できる「一日創作教室」である。

＜実技講座＞	
<p>①「Life Drawing ～美術解剖学の視点から人体を見る・描く～」</p>	<p>受講者数 18名</p>
<p>講師：渡辺晃一氏（美術家、福島大学人間発達文化学類准教授） 日程：5月25日・6月1日・8日・15日（日曜4回連続） 概要：西洋美術の普遍的なテーマである人体を、骨格や筋肉の付き方、動きや相互関係など、構造やメカニズム、さらに他の動物との比較など、解剖学的な視点からの様々な講義を交えて、男性および女性のヌードモデルを、量感・プロポーション・動勢などを観察しながら木炭でデッサンした。</p>	
<p>②「シルクスクリーンによるデザイン」</p>	<p>受講者数 10名</p>
<p>講師：菅野朝宏氏（福島成蹊高等学校教諭） 日程：11月8日・9日・15日・16日（土曜・日曜4回連続） 概要：紙だけでなく布、ガラス、金属、木、その他様々な素材に手軽に印刷できる版画技法シルクスクリーンで、Tシャツや布の壁掛け、バッグ、和紙などに、自由にデザインした2版からなる図柄（B4判大：25.7×36.4cm程度）を布用の水性インクを用いてプリントした。</p>	
<p>③「日本画の描き方」</p>	<p>受講者数 10名</p>
<p>講師：植田一穂氏（東京藝術大学准教授、創画会会員） 日程：12月6日・7日・13日・14日（土曜・日曜4回連続） 概要：各自描きたいもの（植物や風景、その他）を、予め準備したスケッチや下絵をもとに日本画の材料を使って6号（41.1×32cm）程度の作品を描き、絵の具の作り方、下絵から完成までの描き方、たらしこみの技法、箔の扱い方など、日本画の基本的な描き方から技法、さらに創作の進め方について体験した。</p>	

＜技法講座＞	
<p>①「フレスコを描く」</p>	受講者数 15 名
<p>講師：森敏美氏（東北生活文化大学生活美術学科教授） 日程：9月13日(土)・14日(日) 概要：生乾きの漆喰の壁に彩色する西洋の古典的壁画技法・フレスコで、F6号(40.9×31.8cm)のキャンバス枠と建材に使うセメントパネルを組み合わせた基底材に、画集のカラーコピーをもとに、模写による作品を描いた。</p>	
<p>②「木版コラグラフの技法」</p>	受講者数 15 名
<p>講師：花村泰江氏（版画家） 日程：2月28日(土)・3月1日(日) 概要：コラージュ（貼り絵）に由来する版画技法コラグラフに木版画の線刻を加え併用した木版コラグラフの技法で、版木を彫り紙や布を貼り付け、地塗塗料を塗って作ったレリーフ状の凹凸の面にインクをつけ、素材特有の表情をプレス機を通して紙に刷りとり22.5×15cm程度の大きさの版画を作った。</p>	
＜親と子の美術教室＞	
<p>①「蜜ろうで作るオリジナルクレヨン」</p>	受講者数7組16名
<p>講師：小原典子氏（女子美術短期大学講師） 日程：5月5日(月)祝 概要：ミツバチの巣から得られる蜜ろう、日本画の顔料、油脂固め剤等をホットプレートで熱しながら溶かして混ぜて作った原料を、油粘土と紙で各自自由に作った形の型に流して、自然な風合いの色を持つオリジナルクレヨンを作った。</p>	
<p>②「光と色で遊ぶ『光の箱』を作ろう！」</p>	受講者数11組27名
<p>講師：松村泰三氏（東北芸術工科大学准教授） 日程：6月29日(日) 概要：顕微鏡用のプレパラートに様々なものをはさんでスライドプロジェクターで投影してできる像を楽しんだ後、色のついたセロファンやトレーシングペーパー、シート状の鏡などを組み合わせて、光にかざすと様々な模様が変化し、あざやかな色彩を映し出す『光の箱』を作った。</p>	
<p>③「テラコッタ粘土で作ろう！ー草花のおうち」</p>	受講者数7組19名
<p>講師：加茂幸子氏（彫刻家） 日程：9月28日(日)、10月19日(日) 概要：美術館の日本庭園の植物をスケッチをもとにイメージをふくらませながら、テラコッタ用の粘土で自由に植木鉢を成形し、乾燥・焼成した後、アクリル絵の具で彩色して仕上げたものに、園芸用の土を入れ、用意した植物の種や、美術館の周りで拾ったどんぐりの実などを植えた。</p>	

＜わんぱくミュージアム＞	
①「夢見る世界」	受講者数 15名
<p>講師：大岩オスカル氏（「大岩オスカル展」出品作家） 日程：8月9日(土) 概要：大岩氏の展覧会を氏の解説のもとに鑑賞した後、雑誌の写真など様々なイメージを組み合わせ、再構成して描く大岩氏の作画の手法を応用して、好きなもの・・・など、全部で八つの見出しの言葉に当てはまるイメージを各自スケッチし、それをもとに一枚の絵にまとめあげた。</p>	
②「セッコウで作ろう！」	受講者数 7名
<p>講師：久慈伸一（当館主任学芸員） 日程：10月5日(日) 概要：セッコウ型取りの初めての体験として、粘土で植物や昆虫などの形を自由に成形し、へらで模様をつけたり、様々なものを押しつけて凹凸を施した後、粘土で土手を築いて出来上がった型にセッコウを流し固めて、壁掛けや置物を作った。</p>	
③「楽しいスタンプはなが」	受講者数 10名
<p>講師：橋本淳也（当館主任学芸員） 日程：3月15日(日) 概要：ハサミで切り抜いたウレタンシートをスチレンボードに貼り付け、手作りのスタンプを作り、ポスターカラーを筆やスポンジでつけ、はんこを押すように並べたり、重ねたり、組み合わせたりしてB2（72.2×51.5cm）判程度の作品を作り、エントランスホールの壁に展示して鑑賞した。</p>	
＜一日創作教室＞	
①「自然を観察して描くー遠近法を体験する」	受講者数 10名
<p>講師：久慈伸一（当館主任学芸員） 日程：7月20日(日) 概要：線遠近法と空気遠近法について、美術館の建物や周囲の風景を見ながら原理を解説した後、透明アクリル板（30×40cm程度）を垂直に立て、板面を通して見える風景をアクリル絵の具で、直接筆でなぞって描く透視図法を体験し、見えるものを機械的に写すことと、描くことの違いを確かめた。</p>	
②「絵画を粘土で模写する～イメージの変換」	受講者数 7名
<p>講師：久慈伸一（当館主任学芸員） 日程：2月8日(日) 概要：絵画、イラスト、写真等をレリーフ状に模写したり立体に起こすなど、形・質感を粘土という素材に変換・再構成し、写真に記録する体験を通して、物を媒介にしたイメージ、メッセージのコミュニケーションとして美術をとらえ、“変換”というキーワードを軸に、作ることと鑑賞することを双方向から探った。</p>	

◆学校連携事業

□美術館・学校教育連携協議会

県内小・中学校、高等学校の教師と直接話し合う場を設け、学校・美術館をとりまく現状や問題点を情報交換する中で、相互の現状理解を深めながら継続的な連携活動が展開できる密接な関係を築く目的で以下の事業を継続して実施している。

□先生のための美術館入門（事前申込み制）

美術鑑賞教育の新たな展開を模索する目的で、先生を対象に広く参加者を募り、より実践的な普及・研究活動を目指して開催している。教師用手引き書『教師のためのやさしい美術館ガイドブック「美術館を楽しもう！」』をもとに美術館の利用方法・状況を紹介。また鑑賞用補助教材「アート・キューブ」やワークシートなどを使用した鑑賞活動例を報告し、その効果を検証している。そして開催中の企画展を鑑賞し、ギャラリートークや講演会を通して内容と見どころを解説した。

学校の窓口である先生を通じて、子供たちの鑑賞活動を啓発するとともに、学校・美術館における美術や美術教育に関する幅広い情報交換が行なわれる機会となっており、団体見学や学校連携共同ワークショップなど当館の他の事業・活動への新規参加につながるケースも少なくない。

日 時：企画展開催期間中の土曜または日曜 午後2時間程度

場 所：美術館実習室・展示室

対 象：小・中・高校・特別支援学校などの教員

内 容：教師用ガイドブックによる美術館利用方法の紹介及び鑑賞用教材の使用実践報告と検証。

企画展（ギャラリートークまたは講演会）鑑賞。

講 師：企画展担当学芸員、学校連携担当学芸員

経 費：交通費は参加者の自己負担とし、企画展の観覧料を免除する。

教師用手引き書と「アート・キューブ」ガイドブック、パンフレットを無償配布。

【開催日程】

2008年8月23日(土) 「大岩オスカル展」「ルオー《ミセレーレ》展」 参加人数：5名

2009年3月21日(土) 「アンドリュー・ワイエス 創造への道程展」 参加人数：8名



「先生のための美術館入門」実施風景（3月21日開催）

□学校連携共同ワークショップ

現在活躍中の作家を講師に招き、学校を会場に子供たちと創作活動を行なう出張ワークショップである。子供たちが作家との交流や作品制作を通して「美術」を肌で感じ、美術や美術館により親しむことを目的に開催している。学校の通常の1～2時間単位の授業ではなく、活動に集中する十分な時間と環境を確保できるように半日～1日の時間を設定している。また、学校ではあまり取りあげられていない題材や素材、技法などを紹介し新鮮な体験となるように配慮している。

子供たちが美術館を訪れるだけでなく、美術館も学校を訪問することで相互理解を深めるねらいもある。ワークショップで制作した作品のうち可能なものは館に移送して紹介展示するなど美術館への来館を促すと共に、地理的に美術館を利用しづらい学校へも事業の還元・普及をはかっている。

日 程：4月～6月：広報、募集期間

7月：開催校決定、日程調整

8月～9月：連携協議会（講師・担当教諭・担当学芸員）：県立美術館 1日、内容調整、準備

10月～11月：ワークショップ開催：各学校 半日～1日

12月～1月：活動紹介展示：県立美術館

場 所：各学校

対 象：県内小・中・高校・特別支援学校から3校 各40名程度（申込み多数の場合は抽選）

経 費：材料等は講師の助言のもと各学校で準備。旅費・講師謝金は美術館で負担。

2008 学校連携共同ワークショップ「お庄してだめなら引いてみよう！～メディウムのはがし刷り版画」

「メディウムのはがし刷り」という独特の凹版画技法で精力的に制作している講師と身近な素材・用具を使って版画作品を制作するワークショップを設定した。

ドライポイントやエッチングなど従来の凹版画の制作にはプレス機などの専用器具が必要になる。この「メディウムのはがし刷り」は、プレス機を使わずに凹版画は出来ないかとの発想から講師が通っていた多摩美術大学の小作青史教授とともに開発を進めてきたオリジナルの技法である。プレス機で紙にインクを「押し取る」のではなく、版面に塗ったアクリルメディウムを媒体にして用紙と一緒にインクを「引き取る」という逆転の発想からできた技法である。

これまでに何度か版画を制作したことのある子供から初めて版画を目にする子供まで経験に違いがあったこともあり、講師の「作品」と「版」を見比べながら鑑賞できるようにあらかじめ教室に展示した。冒頭で絵画と版画との違いや技法開発の理由などを話してから制作を開始した。はじめに20cm幅の幅広のガムテープ（クラフトテープ）をボール紙に貼りつけて版材を作った。それぞれの学校で設定したテーマを基に、ボールペンで線を描く要領で版面に凹みをつけ即興的に描版した。版ができれば版面に銅版画用油性インクを塗って凹みにインクを詰め、余分なインクを拭き取った。次に版面全体にローラーで均一にアクリルメディウムを塗布して用紙を置き、メディウムが完全に乾燥するのを待って、台紙からシールをはがすように端からめくり取って完成した。モノクロ刷りのほか手彩色によるカラー刷りも紹介し、3～4時間と短時間で集中して版画作品を仕上げた。凸版では表現しにくい「線」による凹版画特有の表現を楽しみ、版画表現に親しみを持ったワークショップとなった。

講 師：三瓶 光夫氏（版画家）

【開催校一覧】

11月 7日(金) 伊達市立掛田小学校6年生44名 「私の描いてみたい動物・植物」 担当教諭：菅野百合子先生

11月 18日(火) 郡山市立西田中学校3年生38名 「版で描く—15歳の私」 担当教諭：木村麗子先生

11月 19日(水) 白河市立白河南中学校特別支援学級1・2年生4名 「好きな○○を版画であらわそう！」 担当教諭：高橋 牧先生

紹介展示：ワークショップ概要・活動記録写真・全生徒作品を展示。

12月 16日(火)～1月 31日(土) 美術館エントランスホール



掛田小学校 (11/7)



西田中学校 (11/18)



白河南中学校 (11/19)



美術館での紹介展示



◆美術館への年賀状展

福島県立美術館の新春恒例の事業として、県内の小中学生から寄せられた手作り年賀状をすべて当館エントランスホールに展示した。

干支の「丑」をモチーフにした作品の割合が高く、技法・表現は水彩絵の具・鉛筆・色鉛筆・墨・ペンなどの様々な描画材を使用した作品、黒画用紙を切り抜いた切り絵作品、木版画・ステンシル・野菜スタンプなどの版画作品、折り紙や布などを貼り込んだ貼り絵・コラージュ作品、パソコンで描いた作品などバラエティーに富んだ楽しい作品がみられた。絵柄だけでなく「新年の目標」や「友達へのメッセージ」が書かれており、作品に込めた子供たちの気持ちが率直に感じられた。また、授業などで作った作品をまとめて送付する学校の割合が高かった。



会 期：2009年1月11日(日)～31日(土)

応募数：小学生 473 通 / 中学生 21 通 / 学年不明その他 12 通 総計 506 通

学 年	小学1年	小学2年	小学3年	小学4年	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年	中学3年
枚 数	127 通	70 通	89 通	19 通	74 通	94 通	13 通	8 通	0 通

◆館外での活動

□講演／講義／委員等

- ・福島民友新聞社「ふるさとふくしまフォト・コンテスト」審査委員長 伊藤匡
- ・第62回県展運営委員会委員 伊藤匡
- ・斎藤清画伯顕彰協議会特別幹事 伊藤匡
- ・福島市写真美術館運営委員 久慈伸一（2006年度～）
- ・全国美術館会議保存研究部会幹事 堀宜雄（2005～2008年度）
- ・日本経済新聞社主催「東山魁夷記念日本画大賞」推薦委員 堀宜雄
- ・「猪苗代湖・裏磐梯湖沼フォトコンテスト」審査員 堀宜雄 2008年10月29日
- ・「生誕100年 斎藤清展」ギャラリートーク講師 吉村有子 2008年5月11日 / 秋田県立近代美術館
- ・「相馬が生んだ偉大な彫刻家 佐藤玄々展」文化講演会講師 増渕鏡子 2008年10月18日 / 相馬市コミュニティセンター

◆その他の事業

□福島県立図書館との連携事業

・「アートなおはなしかい」

県立図書館での絵本の読み聞かせと美術館常設展示室での「アート・キューブ」を使った鑑賞を組み合わせた事業。

日時：2008年8月2日(土) 午前と午後の2回開催

対象：小学生とその保護者 午前の回 32名 / 午後の回 21名



□図書ボランティア

2008年度から、図書整理作業の補助としてボランティアを導入し、データベース登録、配架、新聞資料ファイリングなどの業務を行った。福島大学の学生17名と卒業生1名が登録し、おおむね隔週一回の14時から17時まで、館内でのべ24日間の作業を行った。

大学と美術館の連携の試みでもあり、福島大学側では辻みどり教授（行政政策学類）が中心になって調整にあたった。

◆広報活動

- ・美術館案内、展覧会スケジュール、チラシ等を館内で配布
- ・企画展ごとにポスター、チラシ、割引券等を配布
- ・県発行の広報誌に事業案内を掲載
- ・その他、随時広報活動を行った。

□ 2008 年度 新聞掲載記事一覧

【常設展示】

- ・「<編集日記>米国の画家ベン・シャーン」『福島民友』2008年8月6日
- ・「えりすぐりの100作品並ぶ 県立美術館コレクション展」『福島民友』2009年1月7日
- ・「県立美術館に木彫展示 佐藤朝山 相馬出身・幻の作家」『福島民報』1月8日
- ・「朝山独自の彫刻世界 寄託の貴重な4作品も」『福島民友』1月14日
- ・「日本画の巨星・故大山忠作氏 県立美術館できょうから追悼展示」『福島民報』2月27日
- ・「大山忠作氏を追悼 県立美術館で展示開幕」『福島民友』2月28日
- ・「大山忠作さんの画業しのぶ 県立美術館 4月5日まで追悼展」『福島民報』2月28日
- ・「画家2人の追悼展 県出身の大山さん、黒沢さん 県立美術館」『毎日新聞（福島県版）』2月28日

【教育普及】

- ・「蜜ろう使ってクレヨン作り 親子ら県立美術館で」『福島民報』2008年5月12日
- ・「楽しく美術や本触れる機会提供 来月、県立美術館と図書館」『福島民友』7月19日
- ・「透視図法を体験 県立美術館で教室」『福島民報』7月22日
- ・「美術との出会い 小学生に体験会 来月2日、県立美術館」『朝日新聞』7月26日
- ・「アートなおなほし楽しんで 県立図書館・県立美術館 2日に連携事業」『福島民報』7月27日
- ・「美術作品に親しむ 県立美術館」『福島民友』8月7日
- ・「作家と児童が共演 県立美術館 霊山でワークショップ」『福島民報』11月8日
- ・「小・中学生の年賀状を紹介 11日から県立美術館」『福島民友』2009年1月9日
- ・「絵を粘土で再現 来月8日に教室 県立美術館で」『朝日新聞（福島県版）』1月30日

【美術館レストラン関連報道】

- ・「県立美術館のレストラン 使用料アップで撤退 県の思惑外れる」『福島民報』2008年4月10日
- ・「県立美術館レストラン オープン見通し立たず 家賃減免撤廃で出店敬遠」『福島民友』4月15日
- ・「福島県美術館 後継店なく困惑 弱り目にたたり目」『河北新報』4月21日
- ・「悩める美術館 レストラン撤退 収集基金ピンチ」『朝日新聞（福島県版）』4月27日 吉田素子
- ・「<視点論点>県立美術館のレストラン撤退 使用料改定で暗雲」『福島民報』5月2日
- ・「<窓>県美レストラン安価な料金望む」『福島民友』5月15日
- ・「県立美術館レストラン 施設使用料は据え置き 県教委」『福島民報』5月31日
- ・「県立美術館レストラン 福島の飲食店出店 絵画展の会期中限定」『福島民報』6月5日
- ・「福島県立美術館 レストランあす復活 来月21日までの期間限定」『河北新報』6月6日
- ・「<あぶくま抄>腰が据わらない、とはこのことか」『福島民報』6月10日
- ・「県立美術館にレストラン復活 フランス料理店11日オープン」『福島民報』10月3日
- ・「県立美術館レストラン 出店決定、11日オープン」『福島民友』10月3日
- ・「福島県立美術館空きスペース 老舗フレンチ出店 賃料減免継続が奏功」『河北新報』10月5日
- ・「<論説>利用者本位の美術館を」『福島民報』10月7日 鞍田炎（福島民報社文化部長）
- ・「県立美術館にレストラン入店 11日から営業」『毎日新聞』10月7日
- ・「県立美術館 新レストラン開店」『福島民報』10月12日

【その他】

- ・「<みんなのひろば> 県立美術館料金 高齢者に優遇を」『福島民報』2008年6月15日
- ・「<みんなのひろば> お答えします」『福島民報』6月30日 尾形敬（当館副館長）
- ・「<論説> 子どもをもっと美術館に」『福島民報』7月2日 鞍田炎（福島民報社文化部長）
- ・「副館長就任あいさつ 県立美術館の真壁氏」『福島民友』7月3日
- ・「25周年で4企画展 7月に節目の県立美術館」『福島民報』2009年2月27日
- ・「県立美術館25周年 新年度に4企画展」『福島民友』2月27日
- ・「福大生が楽しみ方提言 福島 美術館とまちづくり」『福島民友』2月28日

◆出版発刊

□2008年度刊行物一覧

	出版物名	規格	配布方法	内容
1	ミュージアム・カレンダー	B5判・四つ折り	無償	年間事業計画
2	美術館ニュース（年6回発行）	21×38cm・四つ折り	無償	2か月ごとの事業紹介
3	移動展リーフレット	A3判・二つ折り	無償	出品作品紹介

◆ホームページ

福島県立美術館ホームページは1999年10月21日に開設。2003年3月7日、サーバ移行にともなうURL変更を経て現在に至っている。展覧会や各種事業の紹介、所蔵品の解説等を掲載し、ウェブ上で利用者に提供している。

□サイトのリニューアル

当館ホームページは、2008年7月11日、開設以来となる大幅なリニューアルを行った。

まず、基本デザインについて職員の自製から、専門業者の手によるものへと変更した。サイトのコアとなるエンジン部分を更新したわけだが、識別しやすいアイコンの設定、画面レイアウトの効率化など多くのメリットがあった。一方で、各コンテンツについては、既存データの流用によって総ボリュームの半数程度はデザイン変更に伴う小規模な改変に留めるなど、作業の効率化に努めた。

また、以前からわかりにくいとの指摘があった休館日やイベント開催日の情報について、コンパクトにまとめた「カレンダー」のページを新設。さらに教育普及関連のコンテンツを拡充し、実技教室をはじめとする教育普及事業の実施報告を「レポート」として随時掲載していくこととした。外部には活動の実態が伝わりにくいこれらの事業について広く紹介するとともに、新たな利用者の獲得に向けて大きな役割を担っていくものと期待される。このほか「ダウンロード」の項では、新たに観覧免除申請書式のPDFおよびDOCファイルを配布するなど美術館利用者の便宜を図った。

リニューアルの効果として、改修以前は30,000台半ばで終始していた月間アクセス数が、改修直後から数か月にわたって40,000を超える数字を記録。アクセス数の顕著な増加が見られた。

<ホームページURL> <http://www.art-museum.fks.ed.jp/>

□2003年3月以降の累積アクセス状況（2009年3月31日現在）

リクエスト成功件数 *1	11,017,168
上記の日別平均	4,948
ページリクエスト成功件数 *2	2,198,033
上記の日別平均	987

*1：アクセスしたユーザーが、正常にデータを読み込むことができた件数。サーバ上にあるファイルすべてを対象とする。
*2：「リクエスト成功件数」と異なり、サーバ上のファイルのうちHTMLファイルのみ対象とした件数（ページビュー）。

調査研究

◆調査研究事項

- | | | | |
|---------------|--------------|----------|------------|
| (1)作家調査 | (2)作品調査 | (3)技法調査 | (4)美術史調査 |
| (5)保存関係調査 | (6)教育普及調査 | (7)展覧会調査 | (8)美術館運営調査 |
| (9)県内外の展示施設調査 | (10)美術館利用者動向 | | |

◆重点調査事項

調査研究は美術館活動の基礎をなし、また広く県民に対して美術の情報センター機能を果たすためにデータ集積が欠かせない。当館では県内外の美術家や作品の調査、教育普及、保存、展示等の調査を継続的に実施している。

2008年度は前年度に引き続き、版画家斎藤清の関連資料調査を行った。

◆企画展アンケート結果

アンケート記入方式：会期中毎日、展示室内に置かれたアンケートに観覧者が任意に記入。
数値は%で示し、1%未満は四捨五入した。

展覧会名	三重県立美術館名品展	フランス近代 絵画の流れ	ルオー ミセレーレ展	大岩オス カール展	伊砂志村 二人展	生誕100年 菊地養之助展	福島の 新世代2009	生誕100年 吉井忠展
会期 (開催日数)	4/19-5/25 (31日間)	6/7-7/21 (39日間)	8/2-9/28 (49日間)	8/9-9/28 (43日間)	10/11-11/24 (39日間)	12/2-1/18 (33日間)	1/10-3/1 (43日間)	1/24-3/1 (31日間)

1- 性別								
女性		63.7	55.6	64.0	77.4	43.2	51.7	53.9
男性		36.3	44.4	36.0	22.6	56.8	48.3	46.1

2- 年齢								
10歳未満		4.3	11.0	6.5	2.5	3.6	5.3	3.4
10歳代		10.9	34.9	19.5	9.8	5.8	15.8	4.2
20歳代		8.7	8.1	18.2	7.9	6.6	20.5	4.2
30歳代		7.3	4.1	11.1	10.9	8.0	15.3	4.2
40歳代		10.5	9.9	17.4	9.5	14.6	10.5	11.8
50歳代		22.5	13.4	15.5	25.4	19.0	11.1	17.6
60歳代		21.4	9.9	8.8	21.5	32.1	11.6	24.4
70歳以上		14.3	8.7	2.9	12.6	10.2	10.0	30.3

3- 居住地								
県北		51.1	49.1	56.1	47.3	50.0	52.1	52.1
県中・県南		22.0	11.4	8.1	13.1	8.8	19.5	11.8
会津		7.0	2.4	3.8	6.1	2.9	6.3	1.7
浜通り		8.7	4.8	4.9	4.0	5.9	1.6	4.2
県外		11.2	32.3	27.1	29.4	32.4	20.5	30.3

4- 仕事								
勤めている		33.9	23.8	39.1	31.3	42.5	42.9	23.2
自営		7.5	4.8	4.1	7.5	5.2	6.8	6.3
主婦・主夫		19.5	8.3	13.8	28.6	17.9	8.9	23.2
学生・生徒・児童		18.3	48.8	30.5	13.8	7.5	23.0	7.1
就労はしていない		15.4	10.1	8.6	12.5	23.9	12.6	28.6
その他		5.4	4.2	3.9	6.4	7.5	5.8	11.6

5- 来館交通手段								
公共交通機関		19.9	15.0	17.3	29.6	20.4	15.8	33.3
タクシー		1.7	0	0.2	1.9	0.7	0	2.6
観光バス		0.7	3.0	0.8	1.0	1.5	1.1	0
自家用車・バイク		66.1	58.7	64.1	54.7	60.6	67.4	47.9
自転車・徒歩		10.6	17.4	16.9	11.5	16.8	15.2	15.4
その他		1.1	6.0	0.8	1.2	0	0.5	0.9

展覧会名	三重県立美術館名品展	フランス近代 絵画の流れ	ルオー ミセレーレ展	大岩オス カール展	伊砂志村 二人展	生誕 100 年 菊地養之助展	福島の 新世代 2009	生誕 100 年 吉井忠展
6- 来館人数								
1 人		27.7	29.4	39.6	38.6	41.9	40.2	52.9
2 人		43.2	25.9	32.0	36.5	41.9	34.4	31.4
3～5 人		25.0	34.7	21.8	16.8	14.7	21.7	14.0
6～9 人		0.7	3.5	3.0	2.6	0	1.1	0
10 人以上		3.4	6.5	3.6	5.5	1.5	2.6	1.7
7- 展覧会情報入手方法								
ポスター		16.9	11.6	14.0	11.2	10.5	7.7	10.0
美術館ニュース		9.3	10.4	6.8	12.5	17.8	11.1	16.4
美術館に来て		4.0	27.4	18.1	9.2	32.9	20.8	17.9
県政番組・県の情報誌		1.8	1.2	1.6	2.9	1.3	1.4	0
テレビの番組		8.5	2.4	4.3	5.2	2.0	5.8	11.4
テレビ CM		6.7	0	0.4	1.1	2.0	3.9	2.1
ラジオ		0.6	0	0.2	0.3	0	0	0.7
美術雑誌・全国情報誌		0.5	0	1.3	1.9	0.7	1.4	2.1
新聞・地域情報誌		34.2	9.8	17.4	17.3	11.2	10.1	17.9
折り込みチラシ		1.3	1.8	1.1	0.3	0.7	0.5	0
当館のホームページ		1.2	2.4	4.1	2.3	4.6	6.3	0
インターネット		2.2	3.7	5.9	3.6	0.7	2.9	2.1
友人・知人に聞いて		9.2	12.2	15.4	20.4	11.8	14.5	13.6
その他		3.5	17.1	9.5	11.7	3.9	13.5	5.7
8- 展覧会情報入手場所								
この美術館で		15.9	41.2	35.4	24.5	62.9	37.9	43.3
他の美術館・博物館で		4.1	6.1	4.0	3.6	2.4	1.6	7.7
学校で		6.4	21.8	13.8	6.1	3.2	11.5	1.9
職場で		3.9	1.2	6.0	8.9	4.8	3.8	0
街頭で		3.2	0.6	1.0	3.2	0	1.1	0
銀行や病院で		1.1	0	0.4	1.0	0	1.1	1.0
役所や公民館で		7.3	3.0	2.7	2.8	2.4	2.7	0
家で		47.0	15.8	27.1	32.2	11.3	26.4	30.8
その他		11.2	10.3	9.6	17.8	12.9	13.7	15.4
9- 展覧会の評価								
たいへんよい		44.1	38.9	60.1	77.3	35.3	44.7	55.0
よい		38.5	39.5	30.3	18.3	38.3	36.7	30.8
普通		14.8	15.6	7.6	3.3	24.8	14.4	12.5
あまりよくない		1.8	4.2	1.6	0.5	0.8	4.3	1.7
悪い		0.8	1.8	0.4	0.5	0.8	0	0
10- 来館回数								
はじめて		16.8	39.8	32.7	25.3	16.4	22.0	21.5
数年に 1 回		16.5	13.5	14.9	12.6	12.7	11.0	9.1
年 1 - 2 回程度		32.5	19.3	23.5	27.1	13.4	24.1	18.2
年 3 - 5 回程度		27.3	15.2	20.2	27.6	27.6	25.7	26.4
年 6 - 9 回程度		4.6	4.7	6.9	4.7	22.4	11.0	16.5
年 10 回以上		2.3	7.6	1.8	2.8	7.5	6.3	8.3
11- 企画展・常設展以外での当館の利用								
講演会		14.0	23.9	15.4	14.9	14.3	12.8	17.5
美術鑑賞講座		14.0	9.9	18.9	10.9	12.2	9.4	9.3
ギャラリートーク		11.5	12.7	15.4	12.1	14.3	10.3	14.4
映画会		7.7	8.5	5.0	7.2	12.2	6.8	11.3
実技講座		3.3	4.2	5.0	3.4	6.1	7.7	7.2
レストラン		41.1	33.8	30.3	44.8	34.7	37.6	30.9
その他		8.4	7.0	10.0	6.6	6.1	15.4	9.3
記入枚数		911	172	539	582	137	192	126

◆常設展アンケート結果

アンケート記入方式：会期中毎日、展示室出口に置かれたアンケートに観覧者が任意で記入。
数値は%で示し、1%未満は四捨五入した。

展覧会名	コレクション展Ⅰ	コレクション展Ⅱ	コレクション展Ⅲ	コレクション展Ⅳ
会 期 (開催日数)	4/12-7/6 (73日間)	7/8-10/13 (84日間)	10/15-12/26 (62日間)	1/6-4/5 (77日間)
1- 作品数				
多い	16.7	28.0	42.6	24.3
適当	70.3	62.6	49.6	62.1
少ない	13.0	9.3	7.8	13.6
2- 展示の仕方				
大変良い	18.1	23.3	42.1	16.4
良い	40.7	44.5	30.0	42.9
普通	31.3	20.4	20.7	32.2
あまり良くない	8.2	7.8	6.4	7.9
悪い	1.6	4.1	0.7	1.1
3- 展示内容				
大変良い	20.1	25.0	45.6	21.5
良い	40.2	41.3	31.6	46.3
普通	28.2	24.6	17.6	26.6
あまり良くない	9.0	5.4	3.7	5.1
悪い	2.6	3.8	1.5	1.7
4- テーマ展示				
大変良い	23.9	—	—	25.4
良い	36.5	—	—	31.4
普通	30.4	—	—	29.6
あまり良くない	8.3	—	—	10.7
悪い	0.9	—	—	3.0
5- 企画展は見るか				
これから見る (すでに見た)	91.4	81.1	81.8	84.9
見ない	8.6	18.9	18.2	15.1
6- 性別				
女性	58.9	60.3	47.5	49.0
男性	41.1	39.7	52.5	51.0
7- 年齢				
10代未満	8.4	6.9	9.4	16.7
10代	14.7	41.6	37.4	19.0
20代	10.5	14.6	10.1	7.7
30代	11.3	7.7	6.5	11.9
40代	10.5	10.7	7.2	9.5
50代	22.7	8.6	7.9	14.9
60代	14.7	5.2	8.6	14.3
70代以上	7.1	4.7	12.9	6.0
8- 住まい				
福島市内	33.8	47.7	40.5	38.3
中通り	22.2	22.4	24.4	20.4
会津	5.1	3.0	3.8	6.0
浜通り	9.4	4.2	0	5.4
他県	29.5	22.8	31.3	29.9
9- 何人で来館したか				
1人	34.2	27.1	26.6	29.2
2人	30.5	34.6	27.3	32.2
3～5人	25.1	26.3	13.7	19.3
6～9人	1.6	5.4	2.2	7.6
10人以上	1.6	4.2	1.4	0.6
20人以上	7.0	2.5	28.8	11.1
10- 年間利用回数				
初めて	32.8	37.9	49.2	37.4
数年に1回	15.1	23.8	15.9	15.8
年1～2回程度	23.5	15.8	13.6	20.5
年3～5回程度	19.3	14.6	15.2	19.3
年6回以上	9.2	7.9	6.1	7.0
記入枚数	244	257	144	177

収 集

◆美術作品および美術資料の収集

□収集方針

収集の対象は、明治（近代）以降の優れた美術作品とし、美術史の流れを知る上で欠かせない優れた古美術も対象としている。具体的な方針としては、以下の4つを掲げている。

- (a) 福島県の出身もしくはゆかりのある作家、作品
- (b) 日本美術の流れを展望するにふさわしい作品
- (c) 海外の優れた美術
- (d) その他当館の収蔵作品としてふさわしい作品や美術資料

□収蔵作品数一覧（2009年3月31日現在）

種 別	購入点数	受贈点数	移管点数	合 計
海 外（絵画・版画・彫刻）	376	10	0	386
日 本 画	68	99	116	283
洋 画	99	263	98	460
素描・下絵	34	33	11	78
版 画	199	442	40	681
写 真	0	28	0	28
立 体	7	20	48	75
工 芸	74	39	33	146
書	0	1	36	37
美術資料	0	21	53	74
合 計	857点	956点	435点	2,248点

□2008年度収蔵作品

分野	作家名	点数
日 本 画	津田 一江	7点
洋 画	宇田 義久	3点
〃	高橋 克之	7点
〃	野地 正記	62点
素 描	鏑木 昌弥	15点
〃	吉井 忠	1点
写 真	瀬戸 正人	28点
工 芸	伊砂利彦・志村ふくみ	2点
美術資料	油井 夫山	1件（3点）
美術資料・二次資料	野地 正記	2件（264点）
合 計		128点

□新収蔵作品一覧

1. 津田 一江 (1950-)

鬱 2

1973 年
紙本着色
116.5 × 90.0cm

津田一江氏寄贈



2. 津田 一江 (1950-)

大地

1982 年
紙本着色
205.2 × 205.2cm

津田一江氏寄贈



3. 津田 一江 (1950-)

地 (physical)

1984 年
紙本着色
227.5 × 227.6cm

津田一江氏寄贈



4. 津田 一江 (1950-)

巴里帽子を被れる一江

1995 年
紙本着色
80.5 × 195.5cm

津田一江氏寄贈



5. 津田 一江 (1950-)

一江と白の花 (其一)

1996 年
紙本着色
182.0 × 227.5cm

津田一江氏寄贈



6. 津田 一江 (1950-)

連鎖と残影の自画像

2000 年
紙本着色
182.0 × 227.3cm

津田一江氏寄贈



7. 津田 一江 (1950-)

朝音

2008 年
紙本着色
181.8 × 227.3cm

津田一江氏寄贈



8. 宇田 義久 (1966-)

water-line 07-1 (white)

2007 年
パネル・糸、アクリル、ウレタンニス
152.1 × 152.1cm

宇田義久氏寄贈



9. 宇田 義久 (1966-)

water-line 08-02 (blue)

2008 年
パネル・糸、アクリル、ウレタンニス
134.1 × 134.0cm

宇田義久氏寄贈



10. 宇田 義久 (1966-)

water-line 08-08 (yellow. orange)

2008 年
パネル・糸、アクリル、ウレタンニス
180.0 × 240.0cm

宇田義久氏寄贈



11. 高橋 克之 (1967-)

部屋 1

1991 年
パネル・油性ペンキ、水性ペンキ、アクリル、木炭
182.6 × 91.7cm

高橋克之氏寄贈



12. 高橋 克之 (1967-)

集会

1996 年
パネル・油性ペンキ、水性ペンキ、アクリル、木炭
180.0 × 180.0cm

高橋克之氏寄贈



13. 高橋 克之 (1967-)

門番

1996 年
カンヴァス・木炭、油性ペンキ、アクリル
161.9 × 112.5cm 高橋克之氏寄贈



14. 高橋 克之 (1967-)

暗号を記す

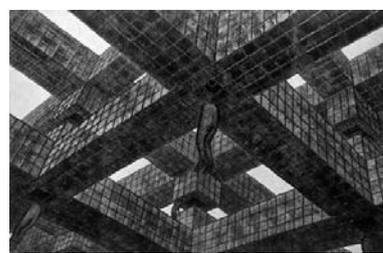
1996 年
カンヴァス・木炭、油性ペンキ、アクリル
161.9 × 112.4cm 高橋克之氏寄贈



15. 高橋 克之 (1967-)

石の世界 (道の中を見る)

2003 年
パネル・油性ペンキ、水性ペンキ、アクリル
233.1 × 363.6cm 高橋克之氏寄贈



16. 高橋 克之 (1967-)

石の世界 (重力がなくなっていく)

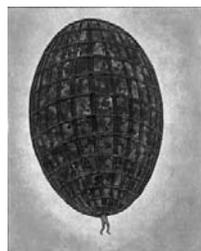
2005 年
パネル・油性ペンキ、水性ペンキ、アクリル
233.2 × 363.9cm 高橋克之氏寄贈



17. 高橋 克之 (1967-)

球 3

2007 年
パネル・油性ペンキ、水性ペンキ、アクリル
116.7 × 90.9cm 高橋克之氏寄贈



18. 野地 正記 (1914-1997)

椅子に座る裸婦

1933-43 年
カンヴァス・油彩
64.5 × 55.2cm 野地友子氏寄贈



19. 野地 正記 (1914-1997)

自画像

1936-43 年
ボード・油彩
31.2 × 22.6cm 野地友子氏寄贈



20. 野地 正記 (1914-1997)

風景

1942 年
カンヴァス・油彩
41.4 × 53.4cm 野地友子氏寄贈



21. 野地 正記 (1914-1997)

眼鏡の自画像

1950 年代
紙・鉛筆
52.2 × 38.4cm 野地友子氏寄贈



22. 野地 正記 (1914-1997)

女性群像

1952 年
紙・鉛筆、水彩
78.1 × 108.8cm 野地友子氏寄贈



23. 野地 正記 (1914-1997)

聖家族

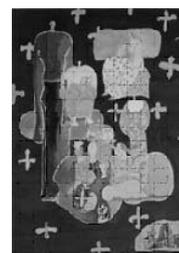
1953 年
紙・水彩
26.7 × 37.6cm 野地友子氏寄贈



24. 野地 正記 (1914-1997)

家族

1950 年代
紙・水彩
37.8 × 26.8cm 野地友子氏寄贈



25. 野地 正記 (1914-1997)

かお

1953 年頃
紙・インク
38.1 × 27.2cm

野地友子氏寄贈



26. 野地 正記 (1914-1997)

女

1953-54 年
紙・水彩
19.0 × 13.2cm

野地友子氏寄贈



27. 野地 正記 (1914-1997)

たぬき

1953-55 年 8 月
紙・水彩
37.3 × 26.9cm

野地友子氏寄贈



28. 野地 正記 (1914-1997)

無題 (三つの顔)

1953 年頃
紙・水彩
38.0 × 54.2cm

野地友子氏寄贈



29. 野地 正記 (1914-1997)

ドローイング試作

1955 年
紙・鉛筆
27.1 × 18.8cm

野地友子氏寄贈



30. 野地 正記 (1914-1997)

無題 (叫び)

1955 年 5 月 27 日
紙・インク、墨
37.9 × 53.8cm

野地友子氏寄贈



31. 野地 正記 (1914-1997)

無題 (目のある)

1955 年 6 月
紙・パステル
38.0 × 27.0cm

野地友子氏寄贈



32. 野地 正記 (1914-1997)

無題 (四角)

1956 年 3 月 1 日
紙・木炭
54.0 × 37.8cm

野地友子氏寄贈



33. 野地 正記 (1914-1997)

無題 (重なり)

1960 年代
紙・パステル、木炭
96.5 × 64.0cm

野地友子氏寄贈

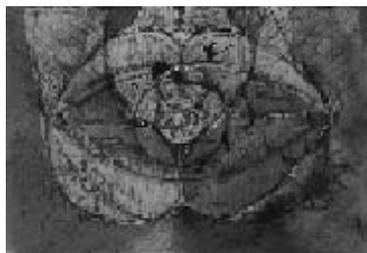


34. 野地 正記 (1914-1997)

めでありくちびるであり女体である崖

1962-63 年 5 月 25 日
紙・水彩
13.5 × 18.9cm

野地友子氏寄贈



35. 野地 正記 (1914-1997)

人相の悪い岩

1962-63 年 5 月 25 日
紙・水彩、インク
19.0 × 13.4cm

野地友子氏寄贈

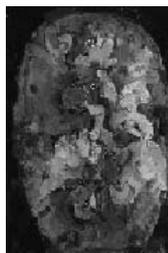


36. 野地 正記 (1914-1997)

かお

1962 年 10 月 11 日
紙・水彩
19.0 × 13.4cm

野地友子氏寄贈



37. 野地 正記 (1914-1997)

無題 (胎)

1962年2月15日

紙・水彩

19.0 × 13.5cm

野地友子氏寄贈



38. 野地 正記 (1914-1997)

ひと

1963年1月22日

紙・水彩、インク

18.9 × 13.5cm

野地友子氏寄贈



39. 野地 正記 (1914-1997)

無題 (魚のいる)

1963年6月

紙・水彩

13.5 × 19.3cm

野地友子氏寄贈



40. 野地 正記 (1914-1997)

無題 (紅)

1963年9月4日

紙・水彩

17.7 × 12.4cm

野地友子氏寄贈



41. 野地 正記 (1914-1997)

無題 (からだ1)

1960年代

紙・水彩

18.2 × 13.1cm

野地友子氏寄贈



42. 野地 正記 (1914-1997)

無題 (からだ2)

1960年代

紙・水彩

18.8 × 13.5cm

野地友子氏寄贈



43. 野地 正記 (1914-1997)

無題 (赤い目)

1960年代

紙・水彩

18.9 × 13.5cm

野地友子氏寄贈



44. 野地 正記 (1914-1997)

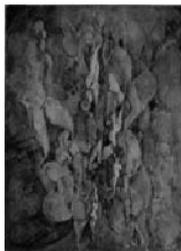
無題 (みどり)

1963-66年

紙・水彩

19.0 × 13.4cm

野地友子氏寄贈



45. 野地 正記 (1914-1997)

無題 (目のある)

1963-66年

紙・インク、水彩

13.5 × 19.0cm

野地友子氏寄贈



46. 野地 正記 (1914-1997)

5のアクロバット

1964-65年

紙・水彩

13.6 × 18.9cm

野地友子氏寄贈



47. 野地 正記 (1914-1997)

テコツタ天使達

1964-66年

紙・水彩

18.8 × 13.5cm

野地友子氏寄贈



48. 野地 正記 (1914-1997)

無題

1964-66年4月21日

紙・水彩、インク

19.9 × 13.8cm

野地友子氏寄贈



49. 野地 正記 (1914-1997)

無題 (はな)

1964年7月22日
紙・水彩
13.4 × 18.9cm

野地友子氏寄贈



50. 野地 正記 (1914-1997)

ミクロコスモス習作

1965-66年
紙・水彩、インク
53.7 × 37.9cm

野地友子氏寄贈



51. 野地 正記 (1914-1997)

無題 (からだ3)

1965-67年5月10日
紙・水彩
19.3 × 13.5cm

野地友子氏寄贈



52. 野地 正記 (1914-1997)

無題

1965-67年
紙・水彩
54.0 × 37.9cm

野地友子氏寄贈



53. 野地 正記 (1914-1997)

宇宙の二重

1965-67年
紙・水彩
37.9 × 35.7cm

野地友子氏寄贈



54. 野地 正記 (1914-1997)

無題 (横顔)

1965年11月25日
紙・水彩
19.5 × 13.6cm

野地友子氏寄贈



55. 野地 正記 (1914-1997)

都市

1965年頃
紙・水彩
13.2 × 13.2cm

野地友子氏寄贈



56. 野地 正記 (1914-1997)

無題 (胎)

1966年
紙・水彩
19.4 × 13.5cm

野地友子氏寄贈



57. 野地 正記 (1914-1997)

無題 (茶)

1966-67年
紙・水彩
18.9 × 13.5cm

野地友子氏寄贈



58. 野地 正記 (1914-1997)

女・岩

1966年8月24日
紙・水彩
18.7 × 13.6cm

野地友子氏寄贈



59. 野地 正記 (1914-1997)

無題 (花心)

1960年代
紙・水彩
19.5 × 13.5cm

野地友子氏寄贈

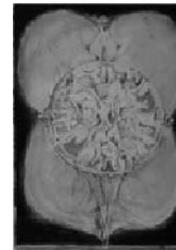


60. 野地 正記 (1914-1997)

草原のあけぼの／崩壊する

1964-70年
紙・水彩、インク
18.8 × 13.5cm

野地友子氏寄贈



61. 野地 正記 (1914-1997)

きざし

1964-70年2月27日

紙・インク

19.6 × 13.3cm

野地友子氏寄贈



62. 野地 正記 (1914-1997)

砦 (女の谷)

1964-75年5月12日

紙・水彩

19.5 × 13.6cm

野地友子氏寄贈



63. 野地 正記 (1914-1997)

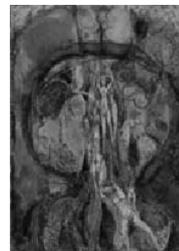
誕生 (苦悩)

1964-75年5月21日

紙・水彩

19.1 × 13.4cm

野地友子氏寄贈



64. 野地 正記 (1914-1997)

衝動

1965-70年11月23日

紙・水彩

18.9 × 13.5cm

野地友子氏寄贈



65. 野地 正記 (1914-1997)

ひと

1965-70年代

紙・水彩

53.5 × 38.0cm

野地友子氏寄贈



66. 野地 正記 (1914-1997)

力湧く

1965-75年12月7日

紙・水彩

19.6 × 13.5cm

野地友子氏寄贈



67. 野地 正記 (1914-1997)

人類のふるさと／母胎への回帰

1965-75年3月26日

紙・インク

19.0 × 13.5cm

野地友子氏寄贈



68. 野地 正記 (1914-1997)

記憶

1965-75年5月16日

紙・水彩、インク

19.0 × 13.4cm

野地友子氏寄贈



69. 野地 正記 (1914-1997)

太陽神

1965-75年5月27日

紙・水彩

19.5 × 13.5cm

野地友子氏寄贈



70. 野地 正記 (1914-1997)

予感

1965-72年1月21日

紙・水彩

19.5 × 13.0cm

野地友子氏寄贈



71. 野地 正記 (1914-1997)

一眼、不言

1966-76年9月22日

紙・水彩

19.0 × 13.5cm

野地友子氏寄贈



72. 野地 正記 (1914-1997)

塔 (生命の)

1967-75年5月12日

紙・水彩、インク

19.5 × 13.4cm

野地友子氏寄贈



73. 野地 正記 (1914-1997)

やすらぎ

1968-70 年
紙・水彩、インク
19.0 × 13.5cm

野地友子氏寄贈



74. 野地 正記 (1914-1997)

雨

1970 年
紙・水彩
13.3 × 18.9cm

野地友子氏寄贈



75. 野地 正記 (1914-1997)

崩壊する

1971-72 年 5 月 17 日
紙・水彩、インク
18.9 × 14.0cm

野地友子氏寄贈



76. 野地 正記 (1914-1997)

崩壊

1971-75 年
紙・インク
18.6 × 14.0cm

野地友子氏寄贈



77. 野地 正記 (1914-1997)

原生物／始原者

1973 年 2 月 7 日
紙・インク、墨
37.8 × 26.9cm

野地友子氏寄贈



78. 野地 正記 (1914-1997)

無題 (子供と犬)

1977 年 4 月 29 日
紙・水彩
12.9 × 21.3cm

野地友子氏寄贈



79. 野地 正記 (1914-1997)

悪魔と天使

1966-67 年
紙・水彩
37.9 × 53.9cm

坂田佳久氏寄贈



80. 野地 正記 (1914-1997)

マライ関係画稿資料 (109 点)

1943-54 年

野地友子氏寄贈



81. 野地 正記 (1914-1997)

画稿資料 (155 点)

野地友子氏寄贈



82. 野地正記 (1914-1997)

二次資料 (89 件)

書簡類 14 点／記事類 26 件／
語録類 14 件／写真類 35 件

野地友子氏寄贈



83. 鏑木 昌弥 (1938-)

処刑シリーズ 男達による男達の処刑

1991 年
紙・鉛筆、グアッシュ
21.7 × 26.5cm

川妻さち子氏寄贈



84. 鏑木 昌弥 (1938-)

無題 (《処刑シリーズ 男達による男達の処刑》の裏面)

1991 年
紙・鉛筆、グアッシュ
21.7 × 26.5cm

川妻さち子氏寄贈



85. 鎬木 昌弥 (1938-)

処刑シリーズ 5本のスコップと処刑された男

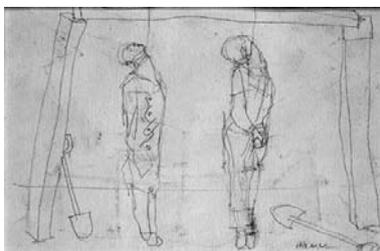
1991年
紙・鉛筆、色鉛筆、グアッシュ
16.7 × 24.9cm 川妻さち子氏寄贈



86. 鎬木 昌弥 (1938-)

処刑 (《処刑シリーズ 5本のスコップと処刑された男》の裏面)

1991年
紙・鉛筆
16.7 × 24.9cm 川妻さち子氏寄贈



87. 鎬木 昌弥 (1938-)

処刑シリーズ

1991年
紙・鉛筆
25.4 × 16.7cm 川妻さち子氏寄贈



88. 鎬木 昌弥 (1938-)

暴力シリーズ 黒い処刑より

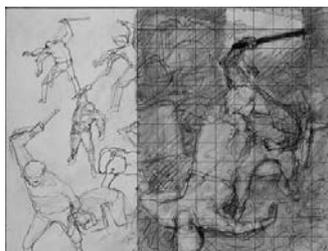
1992年
紙・鉛筆、グアッシュ
24.3 × 33.8cm 川妻さち子氏寄贈



89. 鎬木 昌弥 (1938-)

処刑シリーズ

1992年
紙・鉛筆、色鉛筆
31.3 × 40.6cm 川妻さち子氏寄贈



90. 鎬木 昌弥 (1938-)

暴力シリーズ 黒い処刑より

1992年
紙・鉛筆
24.3 × 33.9cm 川妻さち子氏寄贈



91. 鎬木 昌弥 (1938-)

暴力シリーズ 黒い処刑より

1992年
紙・グアッシュ
33.8 × 24.3cm 川妻さち子氏寄贈



92. 鎬木 昌弥 (1938-)

暴力シリーズ 黒い星々の処刑

1992年
紙・鉛筆、グアッシュ
40.5 × 31.1cm 川妻さち子氏寄贈



93. 鎬木 昌弥 (1938-)

暴力シリーズ 虚空の処刑

1992年
紙・鉛筆、グアッシュ
40.6 × 31.2cm 川妻さち子氏寄贈



94. 鎬木 昌弥 (1938-)

暴力シリーズ 黒い処刑より (終り)

1992年
紙・グアッシュ、鉛筆
33.8 × 24.3cm 川妻さち子氏寄贈



95. 鎬木 昌弥 (1938-)

処刑 (《暴力シリーズ 黒い処刑より (終り)》の裏面)

1992年
紙・鉛筆
33.8 × 24.3cm 川妻さち子氏寄贈



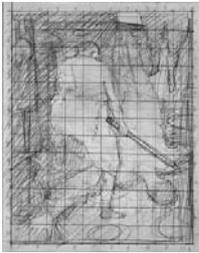
96. 鎬木 昌弥 (1938-)

暴力シリーズ 黒い処刑より (星々-2)

1992年
紙・鉛筆、グアッシュ
24.3 × 33.9cm 川妻さち子氏寄贈



97. 鎗木 昌弥 (1938-)
暴力シリーズ 黒い処刑より (混沌)
1992 年
紙・鉛筆、色鉛筆
46.2 × 36.2cm 川妻さち子氏寄贈



98. 鎗木 昌弥 (1938-)
暴力シリーズ 黒い処刑より (偽証)
1992 年
紙・鉛筆、グアッシュ
33.8 × 24.3cm 川妻さち子氏寄贈



99. 吉井 忠 (1908-1999)
ベン・シャーン像
1960 年
紙・コンテ
35.6 × 25.3cm 吉井爽子氏・吉井捷治氏寄贈



100. 瀬戸 正人 (1953-)
Living Room, Tokyo (15 点)
1996 年 (2009 年ニュープリント)
ゼラチン・シルバー・プリント
各 59.0 × 49.0cm 瀬戸正人氏寄贈



101. 瀬戸 正人 (1953-)

Silent Mode (13 点)

1996 年 (2009 年ニューブプリント)
ゼラチン・シルバー・プリント
各 59.0 × 49.0cm 瀬戸正人氏寄贈



102. 伊砂利彦 (1924-)・志村ふくみ (1924-)

磯なれ松

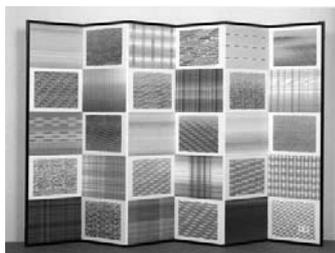
2008 年
絹紬・草木染・手織／紙・型絵染 着物
丈 165.0 × 桁 68.5cm 伊砂利彦氏・志村ふくみ氏寄贈



103. 伊砂利彦 (1924-)・志村ふくみ (1924-)

水の戯れ

2008 年
絹紬・草木染・手織／紙・型絵染 六曲一隻屏風
145.3 × 219.0cm 伊砂利彦氏・志村ふくみ氏寄贈



104. 油井 夫山 (1884-1934)

スケッチブック A

1906 年 9-10 月
紙・鉛筆など
11.5 × 18.9cm 本間秀一氏寄贈



105. 油井 夫山 (1884-1934)

スケッチブックB

1915年6-10月

紙・鉛筆など

18.8 × 12.9cm

本間秀一氏寄贈



106. 油井 夫山 (1884-1934)

スケッチブックC

1918年10月

紙・鉛筆など

11.0 × 18.5cm

本間秀一氏寄贈



◆二次資料の収集

□図書資料 (2009年3月31日現在)

分類	冊
辞書・事典・年鑑・図書目録	1,168
画集・美術全集・所蔵品図録	4,772
展覧会図録	15,100
研究書・技法書	5,576
年報・紀要・報告書	4,484
美術雑誌	13,052
その他 (美術教科書など)	1,956
小計	46,108

□映像資料 (2009年3月31日現在)

分類	点数
自主制作ビデオテープ	42本
購入・受贈ビデオテープ	66本
購入・受贈スライドフィルム	11セット
購入・受贈CD-ROM / DVD	26点
16mm映画フィルム	4本

保 存

◆保存環境調査の実施

□虫菌害モニタリングと環境測定の実施

調査者：関東港業（株）梶原勝吉 立会・記録：堀 宜雄（当館主任学芸員）

仕様概要：2007年度の仕様から塵埃調査をとりやめた。詳細は2003、4年度年報参照。

- ・展示室、収蔵庫、および荷解き室、さらに一般来館者スペースにいたる5842.7m²について、虫菌害、塵埃、酸アルカリ度、温湿度、紫外線、風速等9項目にわたり調査し、展示保存環境が清浄に保たれているかを確認する。
- ・とくに虫菌害については、2002年度を最後にガス燻蒸を行っていないため、総合的虫害管理（Integrated Pest Management）の考え方にに基づき、トラップなどをもちて入念に行い、被害の有無を調べている。

調査項目	調査場所・機材・方法等	1回目 2008.6/23-7/15	2回目 2008.9/18-9/30	備 考
1. 昆虫生息調査	収蔵部門 B33/G5/P5/C5 企画展示室 B28/G4/P4/C4 常設展示室 B17/G4/P4/C4 搬入口等 B22/G3/P3/C3 研究一般部門 B15/G4/P4/C4 B-バグトラップ、G-ガチョン、P-パセニウム、C-ニューセリコ	捕獲されたもの： チャタテ…収 19/ 企 3/ 常 1 ハエ目…収 1/ 企 20/ 常 2/ 搬 174/ 他 136 クモ…企 15/ 常 16/ 収 1/ 他 44 クイムシ…常 1/ シバンムシ…ホール 2 / コガネムシ…搬 6 ゴミムシ 1/ カマドウマ 1/ コメツキ 4 / ゴキブリ 2/ ダニ 4 など	捕獲されたもの： チャタテ…収 9 ハエ目…企 1/ 常 5/ 搬 29/ 他 49 カマドウマ…搬 2 ゲジ…常 1/ 搬 2 ガ…常 1/ 搬 1 クモ…企 4/ 常 1/ 搬 11/ 他 4 など	ハエ目は力が多い。1回目クイムシ、シバンムシが捕獲され、追跡調査したが、捕獲されず、外部進入と考えられる。
2. 浮遊菌調査	収蔵展示部門 -13カ所 研究一般部門 -9カ所 館外 -4カ所 機材：RCSエアサンプラー（ゲンゼ産業）	1立米あたり浮遊菌数： 収蔵展示部門…平均 21.5 研究一般部門…平均 404.3 館外 …平均 1612.5	1立米あたり浮遊菌数： 収蔵展示部門…平均 4.0 研究一般部門…平均 12.7 館外 …平均 94.0	1回目計測時は浮遊真菌全体量が多かった。収蔵庫、展示室は清浄環境といえる。
3. 温湿度調査	収蔵庫 -各1カ所 展示室 -各1カ所 機材：データロガー 3631（日置電機）	収蔵庫 A …21.9 ~ 22.8℃ 収蔵庫 A …54.6 ~ 57.7% 収蔵庫 B …21.9 ~ 23.3℃ 収蔵庫 B …54.7 ~ 58.9% 収蔵庫 C …22.1 ~ 23.2℃ 収蔵庫 C …53.9 ~ 59.5% 企画 A-2…23.0 ~ 24.9℃ 企画 A-2…54.8 ~ 68.6% 常設 A …23.9 ~ 27.3℃ 常設 A …49.1 ~ 82.7%	収蔵庫 A …21.1 ~ 23.7℃ 収蔵庫 A …55.4 ~ 58.3% 収蔵庫 B …21.5 ~ 24.5℃ 収蔵庫 B …54.1 ~ 59.0% 収蔵庫 C …22.2 ~ 24.0℃ 収蔵庫 C …53.8 ~ 58.5% 企画 A-2…22.8 ~ 26.0℃ 企画 A-2…52.4 ~ 61.7% 常設 A …22.5 ~ 26.6℃ 常設 A …50.6 ~ 67.1%	※1回目常設Aの最大湿度は、計測スタート時のもの。その他の最大値は58%である。1回目はかなり高温多湿であった。
4. 空調風速調査	収蔵部門 -11カ所/展示部門 -21カ所 研究一般部門 -5カ所/館外 -4カ所 機材：クリモマスター 6511（日本カノマックス）	収蔵部門…0.03 ~ 0.14 m 展示部門…0.01 ~ 0.27 m 研究一般…0.03 ~ 0.13 m 館外 …0.82 ~ 4.13 m	収蔵部門…0.04 ~ 0.11 m 展示部門…0.02 ~ 0.17 m 研究一般…0.01 ~ 0.08 m 館外 …0.45 ~ 0.93 m	収蔵庫、展示室ともほとんどの場所で0.1m以下に抑えられている。
5. アルカリ性物質調査	収蔵展示部門 -各10カ所 研究一般部門 -各3カ所/館外 -4カ所 機材：環境モニター（文化財虫害研究所） 2.0未満は酸性、上回るとアルカリ性	収蔵部門…1.0 ~ 1.5 展示部門…2.0 研究一般…2.0 館外 …1.0	収蔵部門…1.0 ~ 1.5 展示部門…2.0 研究一般…2.0 館外 …1.0	収蔵庫の酸性環境の改善はなされていない。
6. 褪色調査	収蔵展示部門 -5カ所 館指定 機材：色彩色差計（ミノルタ製）	企画 A-1/ 保管庫…0.95, 2.07 常設 A,B,C…1.41, 13.61, 1.90	企画 A-1/ 保管庫…0.93, 1.46 常設 A,B,C…0.86, 0.72, 1.18	褪色の徴候はほぼないが、1回目常設Bの値が高く、違和感がある。
7. 照度調査	収蔵部門 -11カ所/展示部門 -21カ所 研究一般部門 -2カ所/館外 -4カ所 機材：照度計 HIOKI3423（日置電機） 相対分光応答度波長域 450 ~ 700nm	収蔵部門…110 ~ 277 lx 展示部門…128 ~ 487 研究一般…401 ~ 4030 館外 …51,700	収蔵部門…122 ~ 296 lx 展示部門…10.3 ~ 384 研究一般…190 ~ 949 館外 …61,800	照度計を水平にして計測している。壁面照度ではない。
8. 紫外線調査	測定場所は照度調査と同じ 機材：紫外線強度計 UM-1（ミノルタ製） 測定波長域 220 ~ 390nm	収蔵部門…0.000 mW/cm ² 展示部門…0.000 研究一般…0.009 ~ 0.124 館外…2.060	収蔵部門…0.000 mW/cm ² 展示部門…0.000 研究一般…0.004 ~ 0.037 館外 …2.340	収蔵、展示部門とも紫外線は計測されなかった。

考 察：

1回目は高温多湿で浮遊真菌も多く、昆虫生息調査でも多くの捕獲が確認された。クイムシ、ジンサンシバンムシといった文化財被害害虫が発見されたが、外部進入による一過性のもので、その後の捕獲はみられない。

収蔵庫の酸性環境、チャタテムシの生息、空調制御不足という例年の懸案は解決されていない。

◆美術作品等の修復

当館では長期的な計画に基づき、毎年定期的な収蔵作品の修復を行い、より良好な状態を維持できるようつとめている。2008年度は、寄贈作品の手当、および未額装作品の修復、額装を行った。

修復・額装者の選定にあたっては、美術作品の修復・額装が高度な専門性と技術を要するため、識者の意見や他館での実績を加味して選考した者各2名ずつによる見積合わせとした。見積価格の多寡とともに、当館提出の仕様書に即して、具体的にどのような修復・額装を行うつもりであるかを意見交換して実施者を選定した。作業は当館で行い、その記録を報告書に反映した。本稿はそれによる。

- ・修復者：小林嘉樹（小林絵画保存修復工房）
- ・額装者：高崎英二（カードル高崎）
- ・記録：堀 宜雄（当館保存担当学芸員）

□修復作品と概要

1. 菊地養之助 9点

《母子習作》《自画像》《子守の少女》《親子》《人物A》《階段の人》《子供のいる群像》《悪夢》《悪夢（枯れ木）》
ブックマット、額装

2. 春日部たすく 11点

《電柱のある風景》《小春日和》《春雪（郊外の雪景）》《植木畑風景》《早春》《満州風景》《冬の山なみ》《早春》
《流れ》《三人娘》《日の丸と収穫》
ブックマット装

3. 秀島由己男 9点

《わらべうた》6点、《霊歌A》《鳥（聖堂の鳥影）》《鳥（影の飛来）》
ブックマット装

4. 横尾忠則 14点

《聖シャンバラ》10点および標題紙、目次
ブックマット、額装



管 理

◆美術品の貸出

□ 2008 年度貸出作品一覧 (*は寄託作品)

○「フランス近代絵画のながれ」展	奥田元宋・小由女美術館 ハウスステンボス美術館 秋田市立千秋美術館	2008年3月14日～5月25日 2008年7月26日～9月7日 2008年9月13日～10月26日
1 カミーユ・ピサロ エラニーの菜園		
○「花園讃歌—近代絵画に見る自然と人間」展	山梨県立美術館	2008年4月19日～6月1日
2 クロード・モネ ジヴェルニーの草原		3 酒井三良 田園秋色
○「南画ってなんだ?! 近代の南画—日本のこころと美」展	兵庫県立近代美術館	2008年4月22日～6月8日
4 今村紫紅 漁村		5 今村紫紅 瀬田風景
○生誕100年 斎藤清展	秋田県立近代美術館	2008年4月26日～6月15日
6 斎藤清 少女		7 斎藤清 子供
8 斎藤清 郷の稚児		9 斎藤清 会津の冬(窪)
10 斎藤清 会津の冬(御母堂)		11 斎藤清 会津の冬(坂下)
12 斎藤清 鏡		13 斎藤清 鏡(自画像)
14 斎藤清 北海の魚市		15 斎藤清 選炭
16 斎藤清 凝視(猫)		17 斎藤清 椿
18 斎藤清 港・小樽		19 斎藤清 ミルク
20 斎藤清 みろく		21 斎藤清 赤い実
22 斎藤清 凝視(花)		23 斎藤清 直子
24 斎藤清 ヌード		25 斎藤清 ヌード(B)
26 斎藤清 無我		27 斎藤清 凝視
28 斎藤清 凝視(二匹の猫)		29 斎藤清 ジェラシー
30 斎藤清 土器(A)		31 斎藤清 会津の冬(B)
32 斎藤清 ハニワ		33 斎藤清 土器とハニワ
34 斎藤清 仏陀・飛鳥(A)		35 斎藤清 支那寺, 長崎
36 斎藤清 門(支那寺), 長崎		37 斎藤清 館
38 斎藤清 雨のミシガン		39 斎藤清 憩い, メキシコ
40 斎藤清 石庭		41 斎藤清 野良犬, メキシコ
42 斎藤清 白磁		43 斎藤清 会津の冬
44 斎藤清 唐招提寺, 奈良(B)		45 斎藤清 唐招提寺, 奈良(D)
46 斎藤清 土偶		47 斎藤清 仏陀, 阿修羅, 奈良(A)
48 斎藤清 仏陀, 阿修羅, 奈良(C)		49 斎藤清 マンジュシャゲ・プロフィール
50 斎藤清 憩い, パリ		51 斎藤清 教会, フランス(A)
52 斎藤清 凝視, モデル, パリ(A)		53 斎藤清 京都の壁(B)
54 斎藤清 ショップガール・パリ		55 斎藤清 ノートルダム, パリ(B)
56 斎藤清 本屋, セーヌ, パリ		57 斎藤清 パリ(3)
58 斎藤清 舞妓, 京都(L)		59 斎藤清 舞妓, 京都(S)
60 斎藤清 グリニッチピレッジ(ニューヨーク)		61 斎藤清 シグナル(A)
62 斎藤清 セントラル公園, ニューヨーク		63 斎藤清 アネモネ
64 斎藤清 セーヌ, パリ(B)		65 斎藤清 猫(1)
66 斎藤清 猫(5)		67 斎藤清 メキシコ(B)
68 斎藤清 雪のボストン		69 斎藤清 キラウエア, ハワイ(C)
70 斎藤清 障子(D)		71 斎藤清 バニヤンツリー, ハワイ(A)
72 斎藤清 パンジー		73 斎藤清 嵯峨, 京都(B)
74 斎藤清 茶室		75 斎藤清 ニューメキシコ
76 斎藤清 タヒチ(A)		77 斎藤清 タヒチ(B)
78 斎藤清 ヌード(C)		79 斎藤清 ヌード(G)
80 斎藤清 冬のパリ(C)		81 斎藤清 モンマルトル, パリ(B)
82 斎藤清 佐藤首相肖像		83 斎藤清 印度(B)
84 斎藤清 印度(C)		85 斎藤清 影
86 斎藤清 会津の冬(14)		87 斎藤清 ヌード(A)
88 斎藤清 会津の冬(1)		89 斎藤清 会津の冬(3)
90 斎藤清 会津の冬(17)		91 斎藤清 会津の冬(18)
92 斎藤清 会津の冬(19)		93 斎藤清 柱, 京都'70(C)

94	斎藤 清	円覚寺, 鎌倉 (B)			
96	斎藤 清	夢 (B)			
98	斎藤 清	浄智寺, 鎌倉			
100	斎藤 清	柿の会津 (2)			
102	斎藤 清	猜疑			
104	斎藤 清	門, 鎌倉 (F)			
106	斎藤 清	会津の冬 (21)			
108	斎藤 清	慈愛			
110	斎藤 清	稔りの会津 (3)			
112	斎藤 清	会津の冬 (26)			
114	斎藤 清	会津の冬 (38)			
116	斎藤 清	只見川, 会津柳津 (2)			
118	斎藤 清	霊峰 (1)			
120	斎藤 清	霊峰 (18), 秋 (B)			
122	斎藤 清	会津の冬 (51) I			
124	斎藤 清	会津の冬 (57)			
126	斎藤 清	扉, 英勝寺, 鎌倉			
128	斎藤 清	会津の冬 (71) 若松			
130	斎藤 清	地の幸			
132	斎藤 清	初夏の舞			
134	斎藤 清	秋模様			
136	斎藤 清	会津の冬 (97) 金山町・大志			
138	斎藤 清	会津の冬 (115) 西会津・軽沢			
140	斎藤 清	野仏 (田代) (1)			
142	斎藤 清	秋の只見			
144	斎藤 清	会津の冬 (3) 西会津・関根			
146	斎藤 清	会津の冬, 西会津・下安座			
148	斎藤 清	会津の冬, 柳津・大野 (1)			
150	斎藤 清	会津の冬, 坂下町・気多ノ宮 (1)			
152	斎藤 清	会津の冬, 柳津駅			
154	斎藤 清	憩い, パリ			
156	斎藤 清	凝視, パリ			
158	斎藤 清	パリ			
95	斎藤 清	柱, 京都 (D)			
97	斎藤 清	会津の家 (A)			
99	斎藤 清	六月, 鎌倉 (B)			
101	斎藤 清	競艶			
103	斎藤 清	初秋, 会津			
105	斎藤 清	会津の家 (H)			
107	斎藤 清	月下美人 (A)			
109	斎藤 清	稔りの会津 (2)			
111	斎藤 清	ランプ			
113	斎藤 清	慈愛 (E)			
115	斎藤 清	只見川, 会津柳津 (1)			
117	斎藤 清	椿			
119	斎藤 清	霊峰 (15), 晴天なり			
121	斎藤 清	会津の冬 (50)			
123	斎藤 清	会津の冬 (55)			
125	斎藤 清	春の鎌倉, 甘縄神明宮			
127	斎藤 清	会津の冬 (67) 坂下立木観音			
129	斎藤 清	あれっ 三姿			
131	斎藤 清	会津の冬 (85) 坂下町・宇内 (4)			
133	斎藤 清	会津の冬 (93) 金山町			
135	斎藤 清	かすみ 慈愛			
137	斎藤 清	会津の冬 (111) 柳津			
139	斎藤 清	風			
141	斎藤 清	野仏 (田代) (4)			
143	斎藤 清	会津の冬 (8) 川井			
145	斎藤 清	会津の冬 (5) 西会津・牧			
147	斎藤 清	会津の冬, 三島町・滝谷			
149	斎藤 清	会津の冬, 高田・下馬場			
151	斎藤 清	会津の冬, 喜多方・南町			
153	斎藤 清	会津の冬, 若松・新横町			
155	斎藤 清	教会			
157	斎藤 清	ノートルダム			
159	斎藤 清	本屋, セーズ, パリ			
○「近代日本画の巨匠・速水御舟—新たなる魅力」展	平塚市美術館	2008年10月4日～11月9日			
160	速水御舟	女二題 其一			
162	速水御舟	晩冬の桜			
161	速水御舟	女二題 其二			
163	速水御舟	鳥類写生図巻	寄託作品		
○「佐藤哲三の時代」展	新潟県立万代島美術館	2008年10月11日～12月14日			
164	関根正二	神の祈り			
165	村山槐多	庭園の少女			
○「革新者たちの挑戦」展	松伯美術館	2008年10月12日～11月30日			
166	山本丘人	月夜の噴煙			
○「アンドリュウ・ワイエス—創造への道程」展	Bunkamura ザ・ミュージアム	2008年11月8日～12月23日			
167	アンドリュウ・ワイエス	ガニング・ロックス			
168	アンドリュウ・ワイエス	ドイツ人の住むところ			
		愛知県美術館	2009年1月4日～3月8日		
169	アンドリュウ・ワイエス	松ぼっくり男爵			
170	アンドリュウ・ワイエス	そよ風			
171	アンドリュウ・ワイエス	冬の水車小屋			
172	アンドリュウ・ワイエス	農場にて			
○石川葎展	いわき市暮らしの伝承郷	2008年11月12日～11月16日			
173	石川葎	牡丹			
○「セザンヌ主義—父と呼ばれる画家への礼賛」展	横浜美術館 北海道立近代美術館	2008年11月15日～2009年1月25日 2009年2月7日～4月12日			
174	安井曾太郎	テーブルの上			
○「アメリカの見た夢—アメリカンドリームの光と影」展	鳥根県立石見美術館	2009年1月2日～3月9日			
175	ジョン・スローン	サンタフェからの二人の女			
176	清水登之	十四番街の地下鉄駅			
177	トーマス・ハート・ベントン	サワーウッドマウンテンで彼女ができたよ			
178	トーマス・ハート・ベントン	川下り			
179	トーマス・ハート・ベントン	日曜日の朝			
180	トーマス・ハート・ベントン	麦を収穫する			

運営・組織

◆観覧者数一覧（2009年3月31日現在）

展覧会名	開催期間	有料													無料		観覧者総計			
		個人				団体				男女ペア	年間観覧券 *1				有料合計	前売券(推定)		無料・招待等		
		一般・大学	高校	小・中	小計	一般・大学	高校	小・中	小計		一般・大学	高校	小・中	小計						
第Ⅰ期～第Ⅳ期	4.12～3.31 (292日間)	4,881			4,881	434			434				0	5,315		9,170	14,485			
特集展示 ※内数 「ルオー展」	8.2～9.28 (20日間)	572			572	90			90				0	662		4,512 *2	5,174			
特集展示 ※内数 「菊地養之助展」	12.2～1.18 (20日間)	723			723	15			15				0	738		509 *2	1,247			
特集展示 ※内数 「吉井忠展」	1.24～3.1 (20日間)	863			863	19			19				0	882		1,594 *2	2,476			
移動美術館(体宮市白沢 ふれあい文化ホール) ※合計に含めず	11.22～ 12.21 (17日間)															998	998			
企画観覧券で 常設展を観覧	通年															18,901	18,901			
免除者(100/100) 学校教育活動	通年																0			
免除者(100/100) 学校引率者	通年															151	151			
免除者(50/100) 県又は市町村主催	通年	16			16	134			134				0	150		4	154			
無料入館	5.5 (こどもの日)															346	346			
"	8.21 (県民の日)															421	421			
"	9.15 (敬老の日)															410	410			
"	11.3 (文化の日)															205	205			
小中高無料入館 小	通年															3,664	3,664			
小中高無料入館 中	通年															671	671			
小中高無料入館 高	通年															1,250	1,250			
小中高無料入館 準ず	通年															34	34			
小計		4,897			4,897	568			568					5,465		35,227	40,692			
1 三重県立美術 館名品展	4.19-5.25 (31日間)	4,852	59	193	5,104	175			175			472	4	2	478	5,757	1,878	7,635		
2 フランス近代 絵画のながれ	6.7-7.21 (39日間)	(一般) 5,901 (大学) 218		(小中高) 784	6,903	(一般) 553 (大学) 4		(小中高) 420	977	5,238	820	1	7	828	13,946	4,959	2,930	21,835		
3 大岩 オスカル展	8.9-9.28 (43日間)	3,127	181	436	3,744	360	31	926	1,317			424	3	9	436	5,497	1,362	6,859		
4 伊砂利彦 志村 ふくみ 二人展	10.11-11.24 (39日間)	3,756	28	51	3,835	354		47	401			465	2	4	471	4,707	1,861	6,568		
5 福島の新世代 2009	1.10-3.1 (43日間)	1,493	32	86	1,611	81	45		126			293	3	6	302	2,039	778	2,817		
6 ワイエス 創造への道程	3.17-3.31 (13日間)	(一般) 894 (大学) 107		(小中高) 198	1,199	(一般) 88 (大学)		(小中高)	88	1,058	224	2	4	230	2,575	570	447	3,592		
小計		20,023	325	300	1,748	22,396	1,611	4	76	1,393	3,084	6,296	2,698	15	32	2,745	34,521	5,529	9,256	49,306
合計		24,920	325	300	1,748	27,293	2,179	4	76	1,393	3,652	6,296	2,698	15	32	2,745	39,986	5,529	44,483	89,998

*1 年間観覧券で常設展を観覧の場合、常設の有料合計に含めない

*2 無料入館者（企画展で観覧、小中高、無料入館日等）全ての無料入館者の合計

◆ 2008 年度決算内訳

歳入

科目 (款・項・目・節)	予算額 (千円)
使用料及び手数料	12,102
└ 使用料	12,102
└ 行政財産使用料	661
└ 土地使用料	45
└ 建物使用料	616
└ 教育使用料	11,441
└ 美術館使用料	11,441
財産収入	3,260
└ 財産売払収入	3,260
└ 物品売払収入	3,260
諸収入	23,171
└ 雑入	23,171
計	38,533

歳出

科目 (款・項・目・節)	最終予算額 (千円)
教育費	201,868
└ 教育総務費	7,869
└ 事務局費	7,803
└ 報酬	7,344
└ 職員手当 (児童手当)	120
└ 共済費	339
└ 財務管理費	66
└ 交際費	60
└ 使用料及び賃借料	6
└ 社会教育費	193,999
└ 美術館費	193,999
└ 報酬	73
└ 報償費	1,200
└ 旅費	3,318
└ 需用費	68,191
└ 食糧費	197
└ 役務費	11,261
└ 委託料	87,627
└ 使用料及び賃借料	698
└ 備品購入費	647
└ 負担金・補助及び交付金	20,984
計	201,868

◆関係法規

A 福島県立美術館条例

(設置)

第1条 博物館法(昭和26年法律第285号)第18条、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第30条及び地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条第1項の規定に基づき、県民の美術に対する知識及び教養の向上を図るため、福島県立美術館(以下「美術館」という。)を設置する。

(位置)

第2条 美術館は、福島市森合字西養山1番地に置く。

(業務)

第3条 美術館において行う業務は、次のとおりとする。

- 1 美術館及び美術に関する資料を収集し、保管し、及び展示すること。
- 2 美術に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
- 3 美術に関する講演会、講習会、映写会、研究会等を開催すること。
- 4 前3号に掲げるもののほか、その設置の目的を達成するために必要な業務を行うこと。

(観覧料)

第4条 美術館の展示品(以下「展示品」という。)を観覧しようとする者は、別表に定める額の観覧料を納めなければならない。

(観覧料の免除)

第5条 知事は、公益上の必要があると認めるときは、規則で定めるところにより、観覧料の全部又は一部を免除することができる。

(観覧料不返還の原則)

第6条 既納の観覧料は、返還しない。ただし、規則で定める場合は、その全部又は一部を返還することができる。

(遵守事項)

第7条 美術館を利用する者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- 1 美術館の施設若しくは設備、展示品等をき損し、又は汚損しないこと。
- 2 物品を販売し、又は頒布しないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)
- 3 展示品の模写、模造、撮影等を行わないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)
- 4 所定の場所以外において、喫煙および飲食を行わないこと。
- 5 他の利用者に危害又は迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- 6 前各号に掲げるもののほか、管理上教育委員会が指示する事項。

(入館の規制等)

第8条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当するものに対し、入館を拒否し、又は退館若しくは退去を命ずることができる。

- 1 前条の規定に違反した者。
- 2 美術館の施設若しくは設備、展示品等をき損し、または汚損するおそれのある者。
- 3 館内の秩序を乱し、又はそのおそれのある者。

(職員)

第9条 美術館に、事務職員、技術職員その他の所用の職員を置く。

(委任)

第10条 この条例に定めるもののほか、美術館の管理その他この条例の施行に関して必要な事項は、教育委員会が定める。

附則 この条例は、昭和59年4月1日から施行する。

附則 (平成11年12月24日条例第92号)

この条例は、平成12年4月1日から施行する。

附則 (平成15年3月24日条例第52号)

この条例は、平成15年4月1日から施行する。

別表(第4条関係)

区 分	普通観覧料の額 (一人あたり)		特別観覧料の額	年間観覧料の額 (同一人が有効期間内に利用する場合)
	個人	団体		
一般(大学生を含む)	260円	210円	その都度知事が定める額	3,600円の範囲内で知事が定める額
高校生及びこれに準ずる者	—	—	その都度知事が定める額	2,160円の範囲内で知事が定める額
中学生及び小学生	—	—	その都度知事が定める額	1,440円の範囲内で知事が定める額

備考

- 1 「普通観覧料」とあるのは常設展の展示品のみを観覧する場合の観覧料をいい、「特別観覧料」とあるのは特別の企画による展示品を観覧する場合(常設展の展示品を併せて観覧する場合を含む。)の観覧料をいい、「年間観覧料」とあるのは年間利用に係る普通観覧料及び特別観覧料をいう。
- 2 「団体」とあるのは、二十人以上の団体をいう。

B 福島県立美術館運営協議会条例

(設置)

第1条 博物館法(昭和26年法律第285号)第20条第1項の規定に基づき、福島県立美術館(以下「美術館」という。)の適正な運営を図るため、福島県立美術館運営協議会(以下「協議会」という。)を置く。

(組織)

第2条 協議会の委員(以下「委員」という。)の定数は、10人以内とする。

(委員の任命及び任期)

第3条 委員は、学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者のうちから、教育委員会が任命する。

2 委員会の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第4条 協議会に会長及び副会長各1人を置き、委員の互選により定める。

2 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 協議会の会議は、会長が招集する。

2 協議会の会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

3 協議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(庶務)

第6条 協議会の庶務は、美術館において処理する。

(雑則)

第7条 この条例に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

附則 この条例は、昭和59年4月1日から施行する。

C 福島県立美術館条例に基づく知事の権限を福島県

教育委員会に委任する規則

福島県立美術館条例(昭和59年福島県条例第33号)第5条、第6条ただし書及び別表の規定による知事の権限は、福島県教育委員会に委任する。

附則 この規則は、昭和 59 年 4 月 1 日から施行する。

D 福島県立美術館条例施行規則

(休館日)

第 1 条 福島県立美術館（以下「美術館」という。）の定期の休館日は、次のとおりとする。

一 月曜日。ただし、その日が祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日（次号において「休日」という。）に当たるときを除く。

二 休日の翌日。ただし、その日が土曜日、日曜日又は休日当たるときを除く。

三 1 月 1 日から同月 4 日まで。

四 12 月 28 日から同月 31 日まで。

2 美術館の長（以下「館長」という。）は、必要があると認めるときは臨時に休館し、又は臨時に開館することができる。

(開館時間)

第 2 条 美術館の開館時間は、午前 9 時 30 分から午後 5 時までとする。ただし、館長は、必要があるとみとめるときは、これを臨時に変更することができる。

(観覧手続)

第 3 条 館長は、福島県立美術館条例（昭和 59 年福島県条例第 33 号。以下「条例」という。）第 4 条の規定により観覧料を納入した者（年間観覧料を納入した者（以下「年間観覧者」という。）を除く。）に対し、観覧券（第 1 号様式）を公布するものとする。

(年間観覧者に係る入館手続)

第 3 条の 2 館長は、年間観覧者に対し年間観覧券（第 1 号様式の 2）を交付するものとし、その有効期間は、年間観覧券を交付した日から最初に到来する 3 月 31 日までとする。

2 年間観覧者は、入館する際に有効な年間観覧券を提示するものとする。

3 年間観覧券の利用は、同一人に限るものとする。

(観覧料の免除及びその手続)

第 4 条 館長は、条例第 5 条の規定により、次の表の上欄に掲げる場合における普通観覧料について、同表の下欄に掲げる額を免除するものとする。

普通観覧料を免除する場合	免除する額
一 大学生、（これに準ずる者として福島県教育委員会教育長（以下「教育長」という。）が別に定める者を含む。）及びその引率者並びに高校生、中学生及び小学生（これらに準ずる者として教育長が別に定める者を含む。）の引率者が、学校教育に基づく活動として観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の全額
二 県又は市町村が主催する講習会、講座等の活動として観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の百分の五十に相当する額（引率者にあつては全額）
三 国民の祝日に関する法律第二条に定めることの日、敬老の日及び文化の日に観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の全額

四 知事の発行する外国人留学生文化施設等無料観覧証の交付を受けている者が観覧するとき	条例別表に定める普通観覧料の額の全額
五 その他免除することが公益上適当と認めるとき。	教育長が別に定める金額

2 観覧料の免除を受けようとする者（前項の前の第 3 号又は第 4 号のいずれかに該当する場合に観覧料の免除を受けようとする者を除く。）は、前項の表の第 1 号又は第 2 号に該当する場合にあっては観覧しようとする日の 3 日前まで、第 5 号に該当する場合にあっては 10 日前までに観覧料免除申請書（第 2 号様式）を館長に提出し、その承認を受けなければならない。

3 館長は、前項の規定により観覧料の免除を承認したときは、観覧料免除承認書（第 3 号様式）を交付するものとする。（観覧料の返還）

第 5 条 館長は、次の各号のいずれかに該当する場合は、それぞれ当該各号に定めるところにより、観覧料の全部又は一部を返還するものとする。

一 観覧しようとする者の責めによらない理由により観覧することができなくなったとき。（観覧しようとする者が年間観覧者であるときを除く。） 全額

二 その他やむを得ない理由があると認めるとき。 教育長が別に定める額

2 観覧料の返還を受けようとする者は、観覧料返還申請書（第 4 号様式）に観覧料を添えて、館長に提出しなければならない。

(美術品等の特別利用)

第 6 条 美術館が所蔵し、又は寄託を受けている美術品等を学術上の研究その他のため特に利用しようとする者は、館長の承認をうけなければならない。

(教育長への委任)

第 7 条 この規則に定めるもののほか、美術館の管理その他この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

附則 この規則は、昭和 59 年 4 月 1 日から施行する。

附則（平成 14 年 3 月 26 日 教育委員会規則第 13 号）

この規則は、平成 14 年 4 月 1 日から施行する。

附則（平成 15 年 3 月 24 日 教育委員会規則第 2 号）

この規則は、平成 15 年 4 月 1 日から施行する。

第 1 号様式（第 3 条関係）

観覧券 (観覧者の区分) (金額) 福島県立美術館	観覧券 (観覧者の区分) (金額) 福島県立美術館
------------------------------------	------------------------------------

備考 寸法、デザイン等については、その都度定める。

第 1 号様式の 2（第 3 条の 2 関係）

年間観覧券 福島県立美術館	(交付番号) (観覧者の区分) (有効期間) ご利用に際して 1 福島県立美術館が主催する展覧会のみ有効です。 2 下記に署名されたご本人以外の方は使用できません。 3 後購入後の紛失などによる再発行はいたしません。 (氏名) (学校名) (学年) 福島県立美術館
----------------------	--

備考 寸法、デザイン等については、その都度定める。

E 福島県立美術館収集評価委員会設置要綱

(設置)

第1条 福島県立美術館に収蔵する美術品及び資料（以下「美術品等」という。）の収集及び評価について審議するため、福島県立美術館収集評価委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(組織等)

第2条 委員会は5人以内の委員をもって構成し、委員は学識経験者のうちから福島県立美術館長（以下「館長」という。）が委嘱する。

2 委員会に委員長及び副委員長を置く。委員長及び副委員長は委員の互選により選出する。

3 委員長は委員会を代表し会務を掌理する。副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

(任期)

第3条 委員の任期は2年とする。但し、再任を妨げない。

2 補欠によって選任された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議)

第4条 委員会は、必要のつど館長が招集する。

2 委員会は、美術品等の収集及び評価について審議し、その結果を館長に報告するものとする。

3 委員会は、必要に応じ職員その他の者を出席させて意見を聴くことができる。

(庶務)

第5条 委員会の庶務は、福島県立美術館において処理する。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は委員長が定める。

附則 この要綱は、昭和55年4月1日から施行する。

改正 昭和59年4月1日、昭和61年4月1日

F 福島県立美術館における美術品等の貸出し及び写真撮影に関する取扱要領

1 趣旨

(1) この要領は、財産の交換・譲与・無償貸付等に関する条例（昭和39年福島県条例第22号）第7条、福島県財務規則（昭和39年福島県条例第17号。以下「財務規則」という。）第156条、福島県立美術館条例（昭和59年福島県条例第33号）第7条及び福島県立美術館条例施行規則（昭和59年福島県教育委員会規則第12号）第7条の規定により、福島県立美術館（以下「館」という。）が所蔵し、又は寄託を受けている美術品及び美術資料（以下「美術品等」という。）の貸出し及び写真撮影等（以下「撮影」という。）の取り扱いに関する基準及び手続きを定めるものとする。

(2) 美術品等が福島県美術品等取得基金（以下「基金」という。）所有のものであるときは、昭和59年12月28日付59教財第513号、福島県教育庁財務課長通知により、美術品等の貸出しの手続きは館長の依頼により基金管理者が行うものとするが、美術品等の貸出しの基準及び撮影については、この要領を準用するものとする。

2 美術品の貸出し

(1) 貸出しの基準

ア 美術品等の貸出しは、国立、公立及び私立の美術館または博物館、報道機関、その他館長が特に必要と認められた

のに対して行うものとする。

イ 美術品等の貸出期間は、1年を超えてはならない。

ウ 美術品等の利用目的及び管理上の理由から貸出しをすることが適当でないとき認めるときは、貸出しを行わないものとする。

(2) 貸出しの手続き

ア 学芸課は、美術品等の貸出しをする場合には、貸出しを受けようとする者（以下「借受者」という。）から物品借受申請書（財務規則第102号様式。以下「申請書」という。）を提出させるものとする。ただし、借受者の利用目的が展覧会の展示である場合には、次の書類を提出させなければならない。

(ア) 展覧会の趣旨及び企画内容を明記した書類

(イ) 美術品等が寄託を受けているものである場合には、寄託者の貸出しを承認する旨の書類

(ウ) その他必要と認める書類

イ 学芸課は、借受者から申請書の提出を受けたときは、美術品等の利用目的、利用期間及び利用場所等について十分に検討を加え、貸出しの適否を審査するものとする。

ウ 学芸課は、この要領2の(2)のイの審査の結果、美術品等の貸出しをすることが適当と認めるときは、物品貸付調書（財務規則第10号様式）により当該貸出しについて館長の決裁を受けるとともに、総務課に關係書類を送付するものとする。

エ 総務課は、この要領2の(2)のウの書類の送付を受けたときは、速やかに福島県教育庁生涯学習領域（以下「生涯学習領域」という。）に対し美術品等の貸出しについて必要な措置の請求（別紙様式第1号）をしなければならない。

オ この要領2の(2)のアからエまでの規定は、美術品等が基金所有のものである場合に準用する。

(3) 貸出しの決定

ア 総務課は、生涯学習領域から美術品等の貸出しについて必要な措置が完了した旨の通知を受けたときは速やかに学芸課に対して、その旨連絡するとともに關係書類を送付するものとする。

イ 学芸課は、この要領2の(3)のアの通知を受けたときは借受者に対して、貸出し承認の通知（別紙様式第2号）をするものとする。

ウ 美術品等が基金所有のものであるときは、当該美術品等の貸出しの決定及び借受者に対する貸出し承認の通知は、基金管理者が行うものとする。

エ 美術品等の貸出しは、無料とする。

(4) 貸出しの条件

美術品等の貸出しをする場合には、次の条件を付すものとする。

ア 美術品等は利用目的以外の用途に利用しないこと。

イ 美術品等の利用権を第三者に譲渡しないこと。

ウ 美術品等は常に善良な管理者の注意をもって管理保管すること。

エ 美術品等の棄損・亡失等が生じた場合は、速やかにその旨を館に報告し、その指示により損害を賠償し、又はこれを原状に回復すること。

オ 美術品等の輸送、その他貸出しに要する経費は、借受者が負担すること。

カ 図録作成等のため美術品等の写真撮影をする場合は、この要領3により別途手続を行うこと。

キ 美術品等の搬出または搬入に対して借受者は責任者を立会させること。

ク その他必要と認めること。

(5) 美術品等の引渡し

ア 館長（物品管理者）は、美術品等の貸出しを実行するときは、当該美術品等の現状を確認し、総務課長（物品取扱員）に対し、貸付物品払出通知書（財務規則第 102 号様式）により、その引渡しを指示するものとする。

イ 総務課長（物品取扱員）は、館長（物品管理者）から貸出し美術品等の引渡しの指示を受けたときは、借受者に対して当該美術品等の受領を証する書面と引換えに、これを引渡すものとする。

ウ 総務課長（物品取扱員）は、美術品等を引渡したときには物品貸付台帳（財務規則第 140 号様式）に所定の事項を記載し整理するものとする

エ 美術品等の引渡し場所は原則として館とする。

（6）美術品等の貸付引受け

この要領 2 の（5）のアからエまでの規定は、貸出しを行った美術品等が返納された場合の受入れの手続きについて準用する。この場合「美術品等の貸出しを実行」とあるのは「貸出しを行った美術品等を引受け」と、「貸付物品払出通知書」とあるのは「貸付物品受入通知書」と、「引渡し」とあるのは「引受け」とそれぞれ読み替えるものとする。

3 美術品等の撮影

（1）撮影承認の基準

ア 美術品等の撮影は国立、公立及び私立の美術館または博物館、報道機関、出版社、その他館長が特に必要と認められたものに対して承認するものとする。

イ 撮影により損傷を生ずるおそれがある美術品等は撮影を認めないものとする。

ウ 撮影の時期が美術品等の管理上、適当でないと認められる場合は、その時期を変更し、若しくは撮影を認めないものとする。

（2）撮影承認の手続

ア 学芸課は、美術品等の撮影の承認をする場合には、撮影を希望する者（以下「撮影者」という。）から美術品等撮影承認願（別紙様式第 3 号。以下「承認願」という。）を提出させるものとする。

イ 美術品等が寄託を受けているものである場合には、寄託者の撮影を承認する旨の書類を承認願に添付させるものとする。

ウ 学芸課は、撮影者から承認願の提出を受けたときは、撮影の目的、場所、時期、対象美術品等について十分に検討を加え、承認の適否を審査するものとする。

エ 学芸課は、この要領 3 の（2）のウの審査の結果、美術品等の撮影を承認することが適当と認めるときは、当該撮影の承認について館長の決裁を受けるものとする。

オ 美術品等の撮影料は無料とする。

（3）撮影承認の通知

学芸課は、この要領 3 の（2）のエにより撮影承認の決定をしたときは、撮影者に対して撮影承認の通知（別紙様式第 4 号）をするものとする。

（4）撮影の条件

美術品等の撮影を承認する場合には、次の条件を付すものとする。

ア 美術品等の撮影は館の職員の指示に基づいて行うこと。

イ 撮影により美術品等を損傷させないこと。

ウ 撮影した写真等は、撮影承認を受けた目的以外に使用しないこと。

エ 撮影の目的が著作権法の適用を受けることとなるときは、必要に応じ、あらかじめ著作権者の了承を得ること。

オ 撮影承認を受けた美術品等の写真を出版物に掲載したときは、当該出版物を館に提出すること。

カ その他必要と認めること。

（5）補則

ア 撮影の場所は、原則として館とする。

イ 撮影が美術品等の管理上適当でないとき、館が所有する原版の使用を認めるものとする。

ウ 過去に撮影した写真等の撮影承認の目的外使用については、この要領の適用を受けるものとする。

エ 館所有の原版を複製して使用する場合は、当該複製版をすべて提出することとする。

オ 館所有の原版を使用する際、誤って損傷、亡失させたときは、再撮影に係わる実費を当該申請者に請求することができるものとする。

4 適用

この要領は昭和 60 年 2 月 9 日から適用する。

（平成 9 年 9 福美第 65 号により一部改正）

G 福島県立美術館美術作品等寄託要領

（趣旨）

1 この要領は、福島県立美術館（以下「館」という。）における美術作品および美術資料（以下「美術品等」という。）の寄託に関し、必要な事項を定めるものとする。

（寄託の申し出）

2 福島県立美術館長（以下「館長」という。）は、美術品等の所有者に依頼して寄託を受けようとする場合には、寄託同意書（別記様式第 1 号）によって所有者の同意を得なければならない。

（2）館長の依頼によらないで美術品等の寄託をしようとする者は、寄託申請書（別記様式第 2 号）を館長に提出し、その承認を受けなければならない。

（受託）

3 館長は、所有者の合意、もしくは所有者からの申込みのあった美術品等の寄託が館の事業のため必要があると認めるときは、これを無償で受託することができる。

（受け入れおよび返還）

4 館長は、所有者から帰宅された美術品等を受領したときは、所有者に対して受託証書（別記様式第 3 号）を交付するものとする。

（2）所有者は寄託した美術品等（以下「寄託品」という。）の返還を受けようとするとき、返還を受けようとする日の一ヶ月以上前に返還申請書（別記様式第 4 号）を館長に提出しなければならない。

（3）館長は、この要領 4 の（2）により、所有者に対して寄託品の返還をしようとするときは、受託証書と引き換えに、これを所有者に返還するものとする。

（4）寄託品の返還を受けようとする者が所有者の代理人であるときは、委任状その他これを証する書面を館長に提出しなければならない。

（寄託期限）

5 美術品等の寄託期間（以下「寄託期間」という。）は 2 年とする。ただし、特別な理由があるとき、館長はこの期間を短縮することができる。

（寄託期間の更新）

6 館長は所有者の得て寄託期間を更新することができる。

（2）寄託期間の経過後、所有者から寄託品の返還の請求がない場合は、寄託期間を更新したもののみなす。

（3）館長は、この要領 6 の（1）および（2）により寄託期間を更新したときは、所有者に対し更新した受託証書を交付するものとする。

(所有者の変更等)

7 売買、相続等により寄託品の所有者に変更があったとき、または所有者の氏名、名称もしくは住所等に変更があったときは、所有者(所有者が変更した場合は変更後の所有者)は、所有権の移転その他氏名、名称等を証する書類を受託証書に添えて館長に提出し、受託証書の書き換えを受けなければならない。

(受託証書の再交付)

8 所有者は、受託証書を亡失し、または著しく破損したときは、これらの事実を証するにたる書類(破損の場合は、その受託証書)を添えて、速やかに館長に受託証書の再交付を申請しなければならない。

(寄託品輸送経費等の負担)

9 所有者は寄託品の搬入または返還に要する経費等を負担するものとする。ただし、館長が特にその必要がないと認めた場合は、この限りでない。

(寄託品の展示等)

10 館は、寄託品について、展示、研究および撮影等を行い、その結果を公刊することができる。

(2) 館職員以外の者がこの要領10の(1)の行為をしようとするときは、「福島県立美術館における美術品等の貸出しおよび写真撮影等に関する取扱要領」に定めるところにより、所定の手続きを経なければならない。

(寄託品の保存)

11 館長は、寄託品の保存管理およびその取扱いについては、館に所蔵する美術品に準じて行う。

(2) 館は、寄託品を亡失し、または損傷した場合は、その補償をするものとする。ただし、天災、その他不可抗力による場合は、この限りでない。

(その他)

12 この要領に定めるもののほか、美術品等の寄託に関して必要な事項は、館長が定める。

この要領は、昭和60年4月1日より施行する。

◆施設・整備

建築の概要

設計 大高建築設計事務所
 施工 鹿島建設株式会社仙台支店（建築・外観）
 敷地面積 60,500m²
 建築面積 6,471.5m²
 延床面積 9,680.7m²
 建物構造 鉄筋コンクリート造（一部S造・2階建）
 総工費 約49億円（本体、外構含む）

設備の概要

電気設備

- 1- 受変電設備：受電力 1,100W
- 2- 動力設備
- 3- 電灯・コンセント・照明（調光設備：各展示室、調光装置：講堂・講義室各1台）
- 4- 自家発電機設備
- 5- 避雷針
- 6- 電気時計
- 7- 火災報知設備
- 8- 防火扉・防煙設備
- 9- 拡声設備
- 10- インターホン設備
- 11- ITV 設備
- 12- 防犯設備
- 13- ビデオ設備
- 14- 蓄電池設備
- 15- 電話設備

空気調和設備

- 1- 熱源設備：
 展示室・収蔵庫系統＝空気熱源スクルーヒートポンプ、120RT＋熱回収ヒートポンプ30RT 組合せ制御方式、冷水槽 300m³、温水槽 250m³
 一般系統・図書館系統＝灯油だき冷温水発生器 150RT 2台
- 2- 空調設備：単一ダクト方式
 展示室4系統、収蔵庫3系統、ケース内4系統、一般系統7系統（一部フロアコイル併用）
- 3- 換気設備：50系統
- 4- 排煙設備：機械排煙6系統
- 5- 床暖房：2系統
- 6- 自動制御設備：中央監視盤、温湿度監視盤

給排水衛生設備

- 1- 熱源：都市ガス（厨房・実習室・工作修復室）／他は全て電器煮沸器を使用
- 2- 消化系：ハロン消火設備（収蔵庫3系統：共用機械室）／消火栓設備（消火ポンプ1台、屋内消火栓14台、動力ポンプ1台）
- 3- 燻蒸設備：ガスによる殺虫滅菌剤で燻蒸後吸着装置通過、規定濃度以下にして大気放出
- 4- 給水：受水槽 45t（加圧給水）／直結給水
- 5- 排水：屋内は汚水・雑排水の分流式（外部で合流後、市下水道公共マスに接続）

昇降機設備

- 1- 乗用エレベーター：油圧式、750kg 11名乗り 1台
- 2- 荷物用エレベーター：油圧式、最大積載量 3t 1台
- 3- 乗用エレベーター：油圧式、600kg 9名乗り 1台

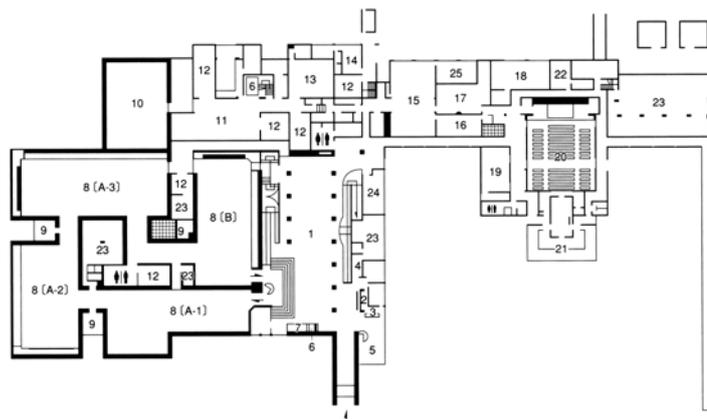
内部仕上げの概要

- 1- エントランスホール
 床：御影石バーナー仕上げ（一部長尺塩ビシート張）
 壁：栓練付石綿ケイカル板
 天井：栓練付石綿ケイカル板
 その他：一部床暖房設備
- 2- 収蔵庫
 床：パーケットブロック、ぶな素地
 壁：米杉、矢羽根板張
 天井：米杉、本実日透張
 その他：収納棚、絵画収納ラック
- 3- 企画展示室
 床：長尺塩ビシート張
 壁：合板捨張の上に準不燃合板、特注クロス張
 天井：栓練付パネル
 その他：大型可動壁（幅 8,770mm × 高 3,770mm、11枚）
 固定ケース前可動壁：（幅 1,600mm × 高 4,050mm、延長約 72m）
 固定ケース：（A-2、A-3、B：総延長 72.3m）
- 4- 常設展示室
 床：タフテッドループカーペット
 壁：常設 A- 栓練付ケイカル板
 常設 B- 大理石空積、水磨き仕上げ
 常設 C・D- くるみ練付ケイカル板
 天井：常設 A- 栓練付パネル
 常設 B・C・D- くるみ練付パネル
 その他：固定ケース（常設 A、16.2m）
- 5- 講堂
 床：タイルループカーペット
 壁：くるみ練付石綿ケイカル板
 天井：ビニールクロス張
 その他：座席数：246（うち車椅子席 4）／ステージ：幅 12m × 奥行 3.2m
- 6- 講義室
 床：タイルカーペット
 壁：くるみ練付石綿ケイカル板
 天井：岩綿吸音板
- 7- 実習室
 床：エポキシ系塗床
 壁：モルタル金ゴテ VP
 天井：岩綿吸音板
- 8- 軽食喫茶室
 床：長尺塩ビシート張
 壁：くるみ練付パネル、粒状岩綿吸音材（一部）
 その他：テーブル 44 席
- 9- その他
 搬出入口：ホイストクレーン 2.8t / テーブルリフター
 写真室：電動スクリーン

◆施設配置図

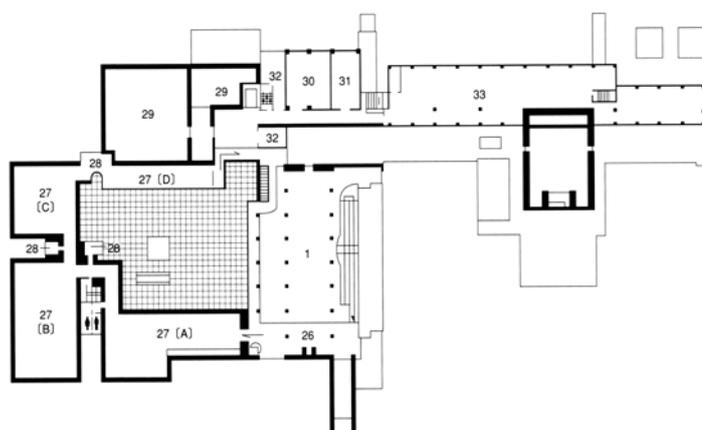
1階

- 1. エントランスホール
- 2. 受付案内
- 3. ブックショップ
- 4. ロッカー室
- 5. 図書コーナー
- 6. エレベーター
- 7. ビデオコーナー
- 8. 企画展示室
- 9. 休憩室
- 10. 収蔵庫 A
- 11. 荷解梱包室
- 12. 倉庫
- 13. 写真室
- 14. 警備室
- 15. 事務室
- 16. 応接室
- 17. 研究図書室
- 18. 実習室
- 19. 講義室
- 20. 講堂
- 21. 軽食喫茶室
- 22. 中央監視室
- 23. 機械室
- 24. 館長室
- 25. 副館長室



2階

- 26. ロビー
- 27. 常設展示室
- 28. 休憩室
- 29. 収蔵庫 B・C
- 30. 工作修復室
- 31. 会議室
- 32. 倉庫
- 33. 機械室



◆部門別専有面積 (*は県立図書館と共用)

サービス部門	1223.8m²
エントランスホール	817.3m ²
受付案内	(ホールに含む)
ブックショップ	(ホールに含む)
ロッカー室	(ホールに含む)
図書コーナー	(ホールに含む)
ロビー	202.1m ²
*軽食喫茶室	179.0m ²
授乳室・救護室	25.4m ²
展示部門	3064.4m²
企画展示室 A (A-1,2,3)	1380.8m ²
企画展示室 B	431.1m ²
	(企画展示室合計 1811.9m ²)
常設展示室 A	403.1m ²
常設展示室 B	359.1m ²
常設展示室 C	143.8m ²
常設展示室 D	132.8m ²
	(常設展示室合計 1038.8m ²)
展示用具室	141.2m ²
展示用具室 2	72.5m ²
収蔵部門	1365.3m²
収蔵庫 A	280.2m ²
収蔵庫 B	368.7m ²
収蔵庫 C	105.1m ²
一時保管庫	51.8m ²
収蔵庫前室	57.6m ²
搬出入口	65.7m ²
荷解梱包室	188.8m ²
梱包倉庫	77.7m ²

荷扱人控室	29.6m ²
燻蒸室	33.3m ²
工作修復室	106.8m ²
普及部門	654.6m²
*講堂	498.6m ²
講義室	73.9m ²
実習室 (準備室含む)	82.1m ²
研究部門	187.2m²
研究図書室	88.7m ²
写真室	98.5m ²
管理部門	1832.7m²
応接室	48.0m ²
副館長室	34.0m ²
事務室 (総務課・学芸課)	174.0m ²
会議室	73.3m ²
館長室	43.2m ²
事務機械室	16.0m ²
警備室	54.7m ²
更衣室	8.7m ²
受付控室	15.4m ²
給湯室	4.4m ²
倉庫	33.0m ²
*機械室	1266.4m ²
車庫	61.6m ²
その他(化粧室・廊下・階段等)	1330.8m²

◆福島県立美術館友の会 活動報告

美術を愛好する人達が集い、会員相互の親睦を深めるとともに、美術館活動に協力することを目的とした福島県立美術館友の会は2003年4月に発足した。6年目を迎えた今年も、会員による様々な自主活動が展開された。

□2008年度の事業活動

- ・「名画の散歩道—三重県立美術館名品展」ギャラリートーク（友の会鑑賞講座）参加
企画展示室で、展覧会企画学芸員による友の会会員のためのギャラリートークを開催。江戸絵画の曾我蕭白や日本近代洋画を中心に作品の特徴や背景などの解説があり、より深く鑑賞することができた。30名参加。
日時：5月10日(土) 14:00-
場所：企画展示室
講師：佐藤香里（当館学芸員）
- ・三重県立美術館ボランティアグループ「樺」メンバーとの交流会
三重県立美術館のボランティア会員とともに開催中の「三重県立美術館名品展」を鑑賞。さらに福島近郊および裏磐梯の諸橋近代美術館等を案内して交流を深めた。
日時：5月20日(火)、21日(水)
場所：福島県立美術館、諸橋近代美術館他
参加者（交流会）：計25名（三重13名、福島8名、美術館4名）
- ・第6回福島県立美術館友の会通常総会
日時：5月25日(日) 13:00-
場所：美術館講堂
議事：2007年度事業及び事務報告
2007年度収支決算報告／2007年度監査報告
2008年度事業計画（案）
2008年度収支予算（案）
その他
- ・「フランス近代絵画のながれ」ギャラリートーク（友の会鑑賞講座）
まず講義室においてフランス近代絵画の巨匠たちの代表作をスライドにより紹介。その後企画展示室で、展覧会企画学芸員による友の会会員のためのギャラリートークを開催。25名参加。
日時：6月15日(日) 14:00-
場所：美術館講義室、企画展示室
講師：吉村有子（当館主任学芸員）
- ・「ルオー《ミセレーレ》展」、「大岩オスカル展—夢みる世界」ギャラリートーク（友の会鑑賞講座）
講義室で、久慈学芸員によりスライドを使ってルオーの作風の詳しい解説。また企画展示室では、荒木学芸員により大岩オスカル展の制作エピソードを交えたギャラリートークによる鑑賞。
日時：8月23日(土) 14:00-16:00
場所：美術館講義室、企画展示室
講師：ミセレーレ展＝久慈伸一（当館主任学芸員） 15名参加
オスカル展＝荒木康子（当館主任学芸員） 25名参加
- ・2008年度研修旅行
2008年度の研修旅行としてバスで岩手県立美術館と萬鉄五郎記念美術館を訪れた。岩手県美では企画展「モデルリアーニ展」など、萬記念美術館では「タツノコプロの世界展」を見学。見応えのある充実した内容であった。
40名参加。
日時：10月3日(金)
場所：岩手県立美術館、萬鉄五郎記念美術館 他

- ・友の会会員のための実技講座「アクリル技法」
 友の会のための実技講座。「ポンペイの壁画のように」のテーマで、アクリル絵画の様々な技法を学び、魅力的な画面作りを楽しく体験。15名参加。
 日時：10月26日(日) 13:30-16:30
 10月28日(火) 10:00-16:30
 講師：公家三夫（郡山女子短期大学部教授）
 場所：美術館実習室
- ・「伊砂利彦・志村ふくみ二人展」ギャラリートーク（友の会鑑賞講座）
 企画展示室で、展覧会企画学芸員による友の会会員のためのギャラリートークを開催。40名参加。
 日時：11月1日(土) 14:00-16:00
 場所：企画展示室
 講師：佐治ゆかり（当館主任学芸員）
- ・三重県立美術館研修旅行
 三重県立美術館で開催中の企画展「山口薫展」、同館の常設及び柳原義達彫刻館を鑑賞。鳥羽に宿泊し、翌日、海の博物館見学、伊勢神宮散策。三重県美のボランティアグループ会員14人も同行し交流を深めた。
 日時：2009年2月7日(土)、8日(日)
 場所：三重県立美術館、海の博物館他
 参加者：10名
- ・「生誕100年 吉井忠展」ギャラリートーク（友の会鑑賞講座）、
 「福島の新世代2009」アーティストトーク・茶話会
 企画展示室で、14:00から増渕学芸員による吉井忠の芸術についての解説。その後、14:30から企画展示室において「福島の新世代2009」出品作家・金暎淑氏のギャラリートークによる鑑賞と、同氏を囲んでの茶話会を開催。20名参加。
 日時：2009年2月15日(日) 14:00-
 場所：企画展示室、美術館レストラン ミュゼ・ドウ・カナール
 講師：吉井忠展＝増渕鏡子（当館主任学芸員） 20名参加
 福島の新世代2009＝金暎淑（出品作家） 20名参加
- ・ミュージアム・コンサート「アメリカン・スタンダード・ナンバー」
 3月17日より開催予定の「アンドリュウ・ワイエス展」のプレ・イベントとしてコンサートを開催。一流ミュージシャンによる軽快で温かく、味わい深いジャズ演奏に200名以上が参加。その後、演奏者を囲んで友の会主催のティーパーティーを開催。
 日時：2009年3月7日(土) 14:00-16:30
 内容：第1部 コンサート
 演奏：北村英治（クラリネット）
 宮之上貴昭（ギター）
 演目：アメリカン・スタンダード・ナンバー
 場所：美術館エントランスホール
 第2部 ティーパーティー
 コンサートの奏者、友の会会員、美術館員間の親睦会。
 場所：美術館レストラン ミュゼ・ドウ・カナール
- ・福島県立美術館友の会「会報」第9号発行
 第9号の友の会会報誌発行。
 日時：2009年3月
 内容：活動報告と予定／美術館を知ろう！美術館の仕事 土台づくり編／エッセイ／
 企画展概要・表紙について 他

◆福島県立美術館協力会 活動報告

社会の変化とともに美術館の役割や美術館に対する県民の意識もまた変化しており、単に鑑賞するだけの施設でなく、県民がより豊かな生活を送るための学習の場、いわゆる生涯学習時代の文化拠点、憩いの場としての役割が美術館には求められるようになってきている。

こうした趨勢を踏まえて、多くの県民が広く美術に親しみ、美術を楽しむことができる機会を提供することにより、本県美術文化の振興と心豊かな県民の育成に寄与することを目的に「福島県立美術館協力会」が設立され、2004年6月7日付けで特定非営利活動法人（NPO法人）として認証を受けた。

2009年3月31日現在の会員数は35名（団体17件、個人18名）である。

○協力会の主な活動

- ・美術についての教養を高め、美術を楽しむための活動（美術に関する講演会、講座、研修旅行、コンサート等）
- ・実制作の体験を通して、表現の喜びを味わい、美術に親しむための活動（実技講座、ワークショップ等）
- ・展覧会に関する各種資料、ミュージアム・グッズの作成頒布活動

○特典

- ・会員証の交付
- ・企画展、常設展の優待
- ・展覧会図録の配布
- ・美術館ニュース等の送付
- ・企画展内覧会への招待
- ・協力会各種事業への招待 など

○2008年度の事業活動

- ・理事会（2008年5月27日）
- ・総会（5月27日）
- ・「大岩オスカー展」ワークショップ（8月9日）
- ・「福島の新世代2009展」ワークショップ（2009年1月10日）
- ・「吉井忠展」講演会（1月25日および2月21日）
- ・ミュージアムコンサート（3月7日）
- ・ボランティアによる美術関連資料整理
- ・「伊砂利彦 志村ふくみ 二人展」図録の作成・販売



ミュージアムコンサート（2009年3月7日開催）

◆委員会等・組織図

□美術館運営協議会

1. 委員名簿

氏名	所属	任期
久保恵美子	福島県中学校教育研究会美術部総務、福島市立西信中学校教諭	2003.1.1-
松本良子	福島県立高校教育研究会美術工芸部会東北支部長、県立福島西高等学校教諭	2007.1.1-
富田孝志	財団法人福島県文化振興事業団理事長、福島県文化センター館長	2009.1.1-
栗津則雄	いわき市立草野心平記念文学館館長	2003.1.1-
酒井昌之	福島県美術協会常任幹事、福島県美術家連盟評議員	2007.1.1-
佐々木光政	日本放送協会福島放送局長	2009.1.1-
遠藤久美	蔵のまちアートぶらりー実行委員会事務局長	2009.1.1-
雪山行二	横浜美術館長、前愛知県美術館副館長	2003.1.1-
辻みどり	国立大学法人福島大学行政政策学類教授（専門：比較地域文化論）	2005.1.1-
阿部泰宏	株式会社福島フォーラム総支配人（公募による委嘱）	2003.1.1-

2. 協議会の開催

日時：2009年2月26日(木) 13:30-14:30

会場：美術館会議室

- 議事：1) 2008年度事業実施の概要について
 2) 2009年度事業計画（案）および予算（案）の概要について
 3) 県立美術館の運営等について

□収集評価委員会

1. 委員名簿

氏名	所属	任期
村田哲朗	町田市立国際版画美術館館長	1996.11.21-
真室佳武	東京都美術館館長	1996.11.21-
尾崎正明	東京国立近代美術館特任研究員	2003.12. 1-
長谷川三郎	宮城県美術館館長	2005.12. 1-
山梨俊夫	神奈川県立近代美術館館長	2005.12. 1-

2. 委員会の開催

日時：2009年3月24日(火) 14:00-15:30

会場：美術館会議室

- 議事：1) 2007年度収集作品の報告
 2) 2008年度受贈候補作品について

□他館との連携

1. 加盟団体

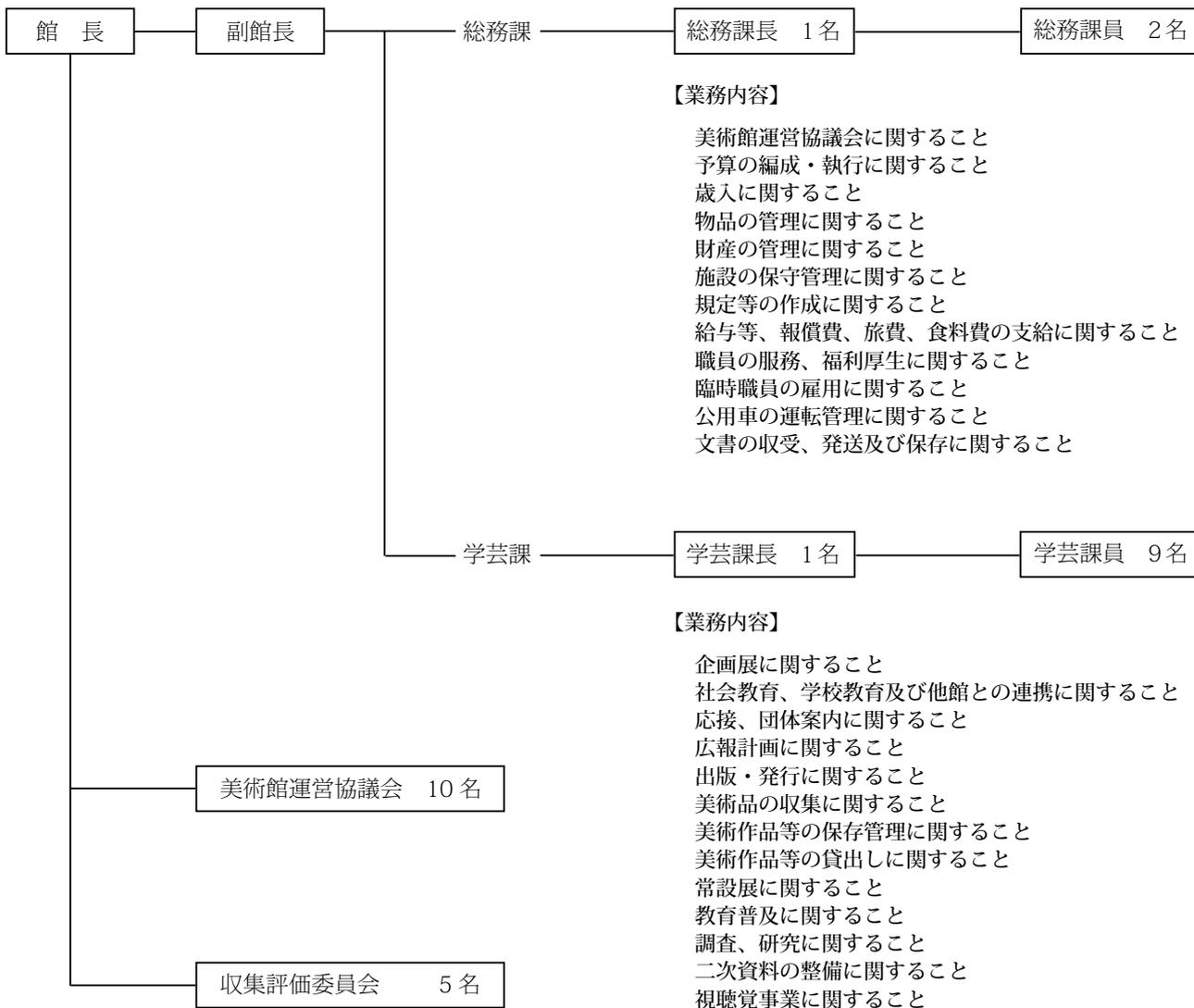
全国美術館会議（理事）、美術館連絡協議会（理事）、日本博物館協会（会員）、日本博物館協会東北支部（監事）、東北地区博物館協会（監事）、東北美術館会議（会員）、福島県博物館連絡協議会（理事）

2. 公務視察等の受入れ

- 1) 公務視察受入 0件
 2) アンケート回答・調査協力等 5件（文部科学省ほか）
 3) 体験学習 0件

□組織図・職員名簿

1. 組織図



2. 職員名簿（2009年3月31日現在）

館長	酒井 哲朗	(2000.4.1-)
副館長	尾形 敬	(2007.4.1-2008.6.30)
同	眞壁 眞	(2008.7.1-)
総務課長	阿部 常晴	(2007.4.1-2009.3.31)
総務課 主査	大和 恵子	(2008.4.1-)
総務課 同	伊藤 恵美	(2007.4.1-)
学芸課長	伊藤 匡	(文化施設整備室 1983.4.1-)
学芸課 主任学芸員	久慈 伸一	(文化施設整備室 1982.4.1-)
学芸課 同	佐治ゆかり	(1984.4.1-)
学芸課 同	荒木 康子	(1990.4.1-)
学芸課 同	堀 宜雄	(1989.4.1-)
学芸課 同	吉村 有子	(1990.7.1-)
学芸課 同	宮武 弘	(1992.4.1-)
学芸課 同	増淵 鏡子	(1993.4.1-)
学芸課 同	橋本 淳也	(2005.4.1-)
学芸課 学芸員	佐藤 香里	(2007.4.1-)

□利用案内

1. 開館時間 9:30～17:00（最終入館は16:30まで）
※夜間開館を行うことがあります。
2. 休館日 1) 月曜日（祝祭日をのぞく）
2) 祝祭日の翌日（土日をのぞく）
3) 年末年始（12月28日～1月4日）
※都合により臨時休館を行うことがあります。
3. 観覧料 1) 常設展 一般・大学生 260円（210円）／高校生以下 無料
※（ ）内は20名以上の団体料金
2) 企画展 その都度料金が変わります。
※企画展の料金で常設展もご覧になれます。
※企画展のみの観覧券は発行していません。
※ふくしま教育週間（11月1日～7日、ただし休館日は除く）中は、小・中・高校生は企画展料金も無料。
※身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方は企画展料金が無料
（それぞれ第1種または1級の方は付き添いの方も無料）
4. 常設展無料 1) 子供の日（5月5日）、県民の日（8月21日）、敬老の日（9月第3月曜）、文化の日（11月3日）
2) 身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方
（それぞれ第1種または1級の方は付き添いの方も無料）
3) 小・中・高校生（団体の場合、引率者も無料）
5. 常設展減額免除 常設展料金無料 ・大学生が、学校活動の一環で観覧するとき
常設展料金半額 ・公民館や公共団体が主催する講習会、講座等の活動として観覧するとき
※事前申請が必要です。いずれも引率者は無料となります。
6. 年間観覧券 常設展示・企画展示ともに、購入より一年間有効（一般・大学生 3,000円／高校生 1,800円／小・中学生 1,200円）

□交通案内

1. JR福島駅（東口）より 電車：福島交通飯坂線「美術館図書館前駅」下車、徒歩3分
バス：9番バス乗り場より、福島交通もりん2コース「県立美術館入口」下車、徒歩4分
タクシー：約5分
2. 自家用車で 東北自動車道・福島飯坂ICより約15分、福島西ICより約20分
※駐車場150台収容

福島県立美術館年報 平成20年度・2008

2011年〇月〇日 発行

編集・発行 福島県立美術館
〒960-8003 福島市森合字西養山1番地
電話 024-531-5511
ファックス 024-531-0447
ホームページ <http://www.art-museum.fks.ed.jp/>

印刷 ○○○印刷株式会社

